



令和5年度

第72回 全道へき地複式教育研究大会

(全国へき地教育研究大会 北海道ブロック大会)

# 胆振大会研究集録

## ■大会スローガン■

産業豊かな多様性に満ちた胆振の地から

子どもたちに未来へ飛躍する力を



洞爺湖

胆振大会実行委員会

令和5年度  
第72回 全道へき地複式教育研究大会  
胆振大会

《研究主題》

主体的・協働的に学び、ふるさとへの誇りと  
愛着をもった人間性豊かな子どもの育成

～児童生徒一人一人が仲間とつながり、

地域とともに「生きる力」を伸ばす学校・学級経営と学習指導の充実をめざして～



白老町ウポポイ

- 【期日】 令和5年9月13日(水)・14日(木)  
【会場】 1日目 全体会・分散会 洞爺総合センター  
2日目 公開授業・研究協議 胆振管内4会場  
〈両日ともにリアルならびにオンライン開催〉  
【主催】 北海道へき地・複式教育研究連盟  
【共催】 全国へき地教育研究連盟  
【主管】 胆振へき地・複式教育連盟  
【後援】 北海道教育委員会・北海道教育大学・洞爺湖町・胆振管内教育委員会教育長協議会  
苫小牧市教育委員会・室蘭市教育委員会・伊達市教育委員会・登別市教育委員会  
豊浦町教育委員会・洞爺湖町教育委員会・壮瞥町教育委員会・白老町教育委員会  
安平町教育委員会・むかわ町教育委員会・厚真町教育委員会・SoftBank  
胆振管内校長会・胆振管内教頭会・北海道立教育研究所・胆振教育研究所  
胆振西部PTA連合会・胆振東部PTA連合会

# 太陽となろう

～へき地教師のうた～

作詞 新渡戸 常晴

作曲 石山 美治

♩ = 104

The musical score is written in 4/4 time with a key signature of one flat (B-flat). It consists of four staves of music. The first staff begins with a melody in the treble clef, marked *mp*. The second staff continues the melody, marked *mf*. The third staff features a piano accompaniment with chords, marked *mp a tempo*. The fourth staff continues the piano accompaniment, marked *mf*. The lyrics are written below the staves.

やま あいのちい さながっ こう あおぞらとはな  
とみどり がある つぶらなひとみの こらが ちか  
ら いっぱいのび ている ともよ ともよ ーたいよ  
う となつ て あす ひらくちえ を そ だ て よ う

太陽となろう へき地教師のうた

一、

山間の 小さな学校  
青空と花とみどりがある  
つぶらな ひとみの子らが  
力いっぱい 伸びている  
教師よ 教師よ 太陽となって  
あすひらく 智恵を 育てよう

二、

海辺の 小さな学校  
潮風と波と光がある  
明るい心の 子らが  
力いっぱい 伸びている  
教師よ 教師よ 太陽となって  
あす築く意志を育てよう

三、

北国の 小さな学校  
粉雪と 歌と 氷がある  
元気な笑顔の 子らが  
力いっぱい 伸びている  
※教師よ 教師よ 太陽となって  
あすつくる夢を育てよう

※くり返し

# 目次

## 挨拶

### I 胆振大会の開催について

大会開催要項	1
全体会（開会式・閉会式）次第・分散会一覧	2
公開授業校一覧	4

### II 全体会の報告

1 記録写真	6
2 基調報告	7
3 分散会	11

### III 分科会会場校の研究および配信方法

◇第1分科会 洞爺湖町立とうや小学校	17
◇第2分科会 伊達市立大滝徳舜警学校	53
◇第3分科会 白老町立虎杖小学校	89
◇第4分科会 苫小牧市立樽前小学校	111

### IV 胆振大会を終えて

大会振り返り	148
活動報告	153
加盟校一覧	157
実行委員会 組織図	158
北海道へき地・複式教育研究連盟の組織	159
あとがき	160

## 胆振大会の2年間を振り返って



北海道へき地・複式教育研究連盟  
委員長 温泉 敏  
(美瑛町立美沢小学校長)

新しい方法での全道大会が胆振大会から始まりました。2年間続けて同じ分科会となり会場校ということは変わりませんでした。プレ大会と本大会の重なりをなくし、実質2年続けて本大会という方法となったわけです。

これは、組織検討委員会にかけられた各地区の意見をかたちにしたものです。私たちが目指す子どもの変容のわかる大会となりました。

胆振大会ファーストステージ前年度のオホーツク大会では、参集参加の制限はありましたが、ハイブリッド型といわれるオンライン参加と参集参加での大会を実施し、おそらく誰もが初めての経験をした大会だったと思います。正直どようになるのか未知数のところもありました。実はこのオホーツク大会が後々大きな意味をもってくる大会となりました。

その後に続く胆振大会は今後の道へき・複連の大会を占う、そして、基礎となる大会でもありました。それにはいくつかの理由があります。

- ①ライブ配信、オンデマンド配信、参集の3つをきちんと示すこと
- ②ライブ配信の方法を考えていくこと
- ③加盟校が多くなくても、人数が少なくてもできることを示すこと
- ④人の入れ替わりがあっても、きちんとした引継ぎができれば問題ないこと

などです。

その中で、実行委員会の皆さんは常に積極的に、チャレンジ精神で取り組んでいただきました。2年続けての開催にも、「次年度はこの失敗を生かして」という言葉に全てがあるように思います。

ライブ配信はどの分科会会場校とも異なる方法での配信でした。それを機材からどうつなげたかというところまで、詳細に紀要や集録に記載してくださいました。それは、まさに共同研究だと思います。

さらに、ファイナルステージでは提案のある授業がありました。これも素晴らしいことだと思います。授業をされる方は、様々な思いをもっていただいていたことと思います。しかし、より質の高い授業を目指すのであれば、提案は大きな意味をもつことでしょう。その繰り返しがこれからの授業を創っていくのだと思います。

ですから胆振大会は、様々な意味で研究会の新しい扉を開いたと思っています。それは、すきまをつくってのぞき込むような開け方ではありません。「次のステップに向けて進みなさい」という大きく開いた扉です。その大きく開いた扉からの一步を、今後に期待したいと思っています。

結びに、胆振大会に向けてご指導、ご助言をいただいた北海道教育庁胆振教育局、全体会会場を引き受けて下さった洞爺湖町教育委員会をはじめ、関係市町村教育委員会、教育関係諸団体の皆様に感謝を申し上げますとともに、胆振大会を成功に導いていただいた実行委員会の皆さんはもちろん、分科会会場校の職員の皆さん、児童生徒の皆さん、大会に参加して下さった多くの皆さんにお礼を申し上げます。ありがとうございました。



## 第72回全道へき複式教育研究大会胆振大会ファイナルステージ

### 集録の発刊にあたって



全道へき地複式教育研究大会胆振大会  
大会実行委員長 前田道弘  
(胆振へき地・複式教育連盟委員長 白老町立白老中学校長)

第72回全道へき地複式教育研究大会胆振大会ファイナルステージ集録の発刊にあたり、ご挨拶申し上げます。

本年度は、北海道へき地・複式教育研究連盟第10次長期5か年研究推進計画の5年次として、その研究主題である「主体的・協働的に学び、ふるさとへの誇りと愛着をもった人間性豊かな子どもの育成」に基づいて研究を進めて参りました。この研究成果を広く発信するために、開催地区として「産業豊かな多様性に満ちた胆振の地から 子どもたちに未来へ飛躍する力を」をスローガンに掲げ、洞爺湖町を全体会場に、管内4市町4会場で分科会を実施しました。

全道へき地複式教育研究大会の在り方の変更を受け、従来であれば本大会実施の年度となる大会を「ファイナルステージ」として開催いたしました。先だって「ファーストステージ」が実施され、研究の蓄積・継続をねらいに記録集を作成いたしました。今年度は、従来の本大会と同様、研究推進、大会構成、参集範囲、指導助言や支援の広範さ、また、今後への継承等を考慮し、これまで同様、集録としてまとめることといたしました。

コロナ禍を受け、当初より参集及び会同とオンライン配信を念頭に置いたハイブリッド大会として、2年前より計画を進めて参りました。ICTを活用した授業研究や、限られた人材・機材による運営の工夫、開催直前までの授業配信の検討等、新たな取組の構築も必要でしたが、これまでの道へき大会の積み上げや、多彩な支援・協力を仰ぐことで、当初の想定に近づけた大会を実施することができました。あらためて感謝申し上げます。あわせて、前年度に引き続き参集を伴う大会となり、実際の協議が研究を深めることを実感したと同時に、オンラインでの研究は、その技術習得のみならず、より広範囲で多くの参加・交流・結集を得られることも実感いたしました。

今後は、これらの成果を一步前進させるために、さらに課題を克服しながら得た力を活かし、研究がよりよい方向に向かうことを目指して参りたいと思います。

結びとなりますが、ご参加いただいた方々をはじめ、本大会開催のために尽力いただきました連盟の教職員の皆さんをはじめ、ご支援、ご協力いただきました北海道教育委員会、北海道教育庁胆振教育局、胆振管内各市町教育委員会、北海道教育大学、SoftBank、そして全国へき地教育研究連盟、北海道へき地・複式教育研究連盟等、管内外の教育関係機関の皆様、重ねて感謝とお礼を申し上げますと共に、次年度の上川大会へのご支援、ご協力をご期待申し上げ、集録発刊の挨拶といたします。

## 第72回

# 全道八き地複式教育研究大会 胆振大会

## I 胆振大会の開催について



### 第1分科会 洞爺湖町立とうや小学校

## 第 72 回全道へき地複式教育研究大会胆振大会（ファイナルステージ）開催要項 ＜全国へき地教育研究大会北海道ブロック大会＞

研究主題 『主体的・協働的に学び、ふるさとへの誇りと愛着をもった人間性豊かな子どもの育成』  
～児童生徒一人一人が仲間とつながり、  
地域とともに「生きる力」を伸ばす学校・学級経営と学習指導の充実をめざして～

開催趣旨 全国へき地教育研究連盟5カ年研究推進計画の研究主題及び北海道へき地・複式教育研究連盟5カ年研究推進計画の研究主題を踏まえて、胆振地区におけるへき地教育実践をもとに、北海道ブロックにおけるへき地教育の研究成果を交流するとともに、へき地教育の今日的課題について研究協議し、もってへき地教育の充実を図る

胆振大会スローガン 「産業豊かな多様性に満ちた胆振の地から 子どもたちに未来へ飛躍する力を」

- 1、主 催：北海道へき地・複式教育研究連盟
- 2、共 催：全国へき地教育研究連盟
- 3、主 管：胆振へき地・複式教育連盟
- 4、後 援：北海道教育委員会・北海道教育大学・洞爺湖町・胆振管内教育委員会教育長協議会  
苫小牧市教育委員会・室蘭市教育委員会・伊達市教育委員会・登別市教育委員会  
豊浦町教育委員会・洞爺湖町教育委員会・壮瞥町教育委員会・白老町教育委員会  
安平町教育委員会・むかわ町教育委員会・厚真町教育委員会・SoftBank  
胆振管内校長会・胆振管内教頭会・北海道立教育研究所・胆振教育研究所  
胆振西部 PTA 連合会・胆振東部 PTA 連合会
- 5、期 日：令和5年9月13日（水）14日（木）
- 6、会 場：【全体会・分散会会場】洞爺総合センター（虻田郡洞爺湖町洞爺町132 TEL.0142-82-5111）  
【歓迎交流会】ゆとりろ洞爺湖（虻田郡洞爺湖町洞爺湖温泉78 TEL.0570-020-165）  
【公開授業・研究協議会場】  
第1分科会：洞爺湖町立とうや小学校 第2分科会：伊達市立大滝徳舜警学校  
第3分科会：白老町立虎杖小学校 第4分科会：苫小牧市立樽前小学校
- 7、実施方法：【リアル開催】参集形式にて各会場（全体会・分散会・分科会）にて実施  
【オンライン開催】ZOOMにてオンライン配信（全体会・分散会・分科会）
- 8、大会日程：

1日目 13日（水） 0L：オンライン配信

12:30 ～13:00	13:00 ～13:40	13:40 ～14:00	14:20 ～16:20	16:20 ～16:30	/	18:30 ～20:00
受付	開会式 0L	基調報告 0L	分散会 0L	閉会式 0L	/	歓迎交流会

2日目 14日（木）

8:30～	9:00 ～9:45	10:00 ～10:45	11:00 ～12:00	12:00 ～13:00	13:00 ～15:00	15:00 ～15:30
受付	授業公開① 0L	授業公開② 0L	開会式 研究発表 0L	昼食	研究協議 0L	閉会式 0L

- 9、参加費：参集による大会参加 4,000円  
オンラインによる大会参加 2,000円



# 全体会（開・閉会式）次第・分散会一覧

【開会式】 令和5年9月13日（13：00～13：40）洞爺総合センター：大ホール  
（進行：胆振大会実行委員）

- 1 開式宣言 全道へき地複式教育研究大会胆振大会 実行委員長 前田道弘
- 2 国歌斉唱
- 3 大会歌「太陽となろう」斉唱
- 4 主催者挨拶 北海道へき地・複式教育研究連盟 委員長 温泉 敏
- 5 来賓祝辞 全国へき地教育研究連盟 会長 柿崎秀顕様  
北海道教育庁胆振教育局 局長 針ヶ谷一義様
- 6 来賓紹介 北海道へき地・複式教育研究連盟 事務局次長 道下 誠
- 7 閉式宣言 北海道へき地・複式教育研究連盟 財政部長 北村 剛

【感謝状贈呈】

【次期開催地実行委員長挨拶】

第73回全道へき地複式教育研究大会上川大会 実行委員長 井上 隆一

※事務連絡

【基調報告】（13：40～14：00）洞爺総合センター：大ホール

【分散会】（14：20～16：20）

- I【学校・学級経営】 洞爺総合センター：大ホール
- II【学習指導1】 洞爺総合センター：大会議室（2F）
- III【学習指導2】 洞爺総合センター：青年研修室（2F）

【閉会式】（16：20～16：30）洞爺総合センター：各分散会場  
（進行：道へき研究推進委員運営者）

- 1 開式の言葉 北海道へき地・複式教育研究連盟 研究推進委員
- 2 実行委員長挨拶 全道へき地複式教育研究大会胆振大会 実行委員長 前田道弘
- 3 閉式の言葉 北海道へき地・複式教育研究連盟 研究推進委員

※事務連絡

【分散会一覧】

北海道へき地・複式教育研究連盟の長期研究推進計画に基づく実践研究の成果と課題について研究協議を行い、複式教育の充実・発展に資することを目的とする。

	分散会Ⅰ	分散会Ⅱ	分散会Ⅲ
課題	学校・学級経営（第1分野）	学習指導①（第2分野）	学習指導②（第2分野）
提言者	根室管内 別海町立上春別小学校 教諭 高橋 さゆり 氏	桧山管内 厚沢部町立鶉小学校 教諭 八木 良子 氏	十勝管内 音更町立西中音更小学校 校長 松井 眞治 氏
発表題	【第2課題】 「ふるさとで学び、新しい時代を拓く、開かれた学校・学級経営の創造と推進」 ～共に学び、自ら学びを創る子の育成～	【第6課題】 「自分の考えを表現し、主体的に学び合う鶉っ子の育成」 ～考えを伝え合う算数科の授業を目指して～	【第5課題】 「自ら考え探究し、共に学び合える子供」の育成を目指して ～ICTを活用し、対話を通して深い学びを実現する授業づくり～
概要	①主体的に課題を解決する力を高めるための「学ぶ意欲が高まる課題提示」と「整合性あるゴールの設定」、「ふるさと別海のすばらしさ」を生かした教育課程の編成。 ②互いの良さを認め合い、より考えを深めるための「自ら学ぶ場面や共に学び合う場面」の効果的活用や1年を通じた異学年・異校種との学習活動。 ③学びの実感を持ち、客観的認知能力の育成を図るための、「身に付けさせたい力を明確化し、学びの連続性を目指した」振り返り場面の充実。	◎算数科における言語活動の充実を図る手立てについて ①間接指導時における対話的な学び、協働的な学びの手立ての工夫について ・学習の深化、課題設定のための「ふりかえり」の活用 ②ICTの効果的な活用について ・一人学年児童の対話的な学びの工夫 ・ロイロノートを活用したヒントカードやシンキングツール等教材の工夫	新型コロナのパンデミックによって、前倒しされた国のGIGAスクール構想によって、へき地の極小規模でも、光回線や一人一台端末など、ICT環境は劇的に改善された。 本校では、他校の先進事例に学びながら、効果的なICTの活用を模索・実践を通して、子どもたちの好奇心を刺激し、探究心に火を点け、彼らの将来に責任を負う教育の推進をする中で、ツールとしてICTの活用方法について、校内研修を中心に具体的に進めてきた。今回はそれらの成果と今後の課題についてご報告申し上げます。
討議の柱	ふるさとで学び、新しい時代を拓く、開かれた学校・学級経営の創造と推進	間接指導の工夫やICTの効果的な活用による主体性を育てる学習指導過程の改善と充実	ICT機器の効果的活用など、学ぶ意欲を高める指導方法の改善と充実
助言者	北海道教育庁胆振教育局 義務教育指導班主任指導主事 中 脇 尚子 様	北海道教育庁胆振教育局 義務教育指導班主任指導主事 関 川 恭平 様	北海道教育庁石狩教育局 義務教育指導班主任指導主事 加 藤 慎 嗣 様

## 公開授業校一覧

第1分科会 洞爺湖町立とうや小学校 校長 山下文人	
研究主題	単式でも複式でも使える「学びの質を高める」学習指導の探究
副主題	～少人数のメリットを活かした学習指導の改善と工夫～
分野・課題	【学校学級経営1、学習指導6】
教科等・年次	算数 「3年計画・3年次」
公開授業1	授業者：佐々木 淳也 3年生 算数 「あまりのあるわり算」
公開授業2	授業者：吉村 亮 4年生 算数 「2けたでわるわり算の筆算」
助言者	北海道教育庁胆振教育局義務教育指導班 主任指導主事 中 脇 尚 子 様 音更町立東土幌小学校 校長 増 田 覚 氏

第2分科会 伊達市立大滝徳舜瞥学校 校長 羽根秀哉	
研究主題	未来を創る児童・生徒の育成
副主題	～少人数・複式学級におけるコミュニケーション力の向上を通して～
分野・課題	【学校学級経営1、学習指導5】
教科等・年次	全教科 「2年計画・2年次」
公開授業1	授業者：池 田 桂 祐（大滝徳舜瞥学校） 入 瀬 嘉 子（関内小学校） 5年生 外国語 「Lesson5 Where is my treasure?」 ※伊達市立関内小学校との遠隔合同学習
公開授業2 (複式)	授業者：高 田 実千穂 5年生 国語 「たずねびと」 6年生 国語 「やまなし」
助言者	北海道教育庁胆振教育局義務教育指導班 指導主事 関 川 恭 平 様 北見市立西小学校 校長 堀 田 大次郎 氏

第3分科会 白老町立虎杖小学校 校長 関 東 英 政

研究主題	わかった・できた・伝わったと表現できる児童を目指して
副主題	～個別最適な学び・協働的な学びを通して～
分野・課題	【学校学級経営1、学習指導5・6】
教科等・年次	全教科 「1年計画・1年次」
公開授業1 (複式)	授業者：長谷部 裕也(虎杖小) 石井 晴香(竹浦小) 3年生 国語 「ちいちゃんのかげおくり」 4年生 国語 「ごんぎつね」 *白老町立竹浦小学校との遠隔合同学習
公開授業2 (複式)	授業者：古村 瞭汰 5年生 国語 「たずねびと」 6年生 国語 「みんなで楽しく過ごすために」
助言者	北海道教育庁石狩教育局義務教育指導班 指導主事 加藤 慎嗣 様 留萌市立港北小学校 校長 村元 隆一 氏

第4分科会 苫小牧市立樽前小学校 校長 中 嶋 清 人

研究主題	主体的に学び合い、ともに高まろうとする児童の育成
副主題	～リーダー学習の取組を通して～
分野・課題	【学校学級経営1、学習指導6】
教科等・年次	算数 「3年次計画・2年次」
公開授業1	授業者：小保内 知博 4年生 算数 「わり算の筆算(2)」
公開授業2 (複式)	授業者：奈良 美里 5年生 算数 「分数と小数、整数の関係」 6年生 算数 「円の面積」
助言者	北海道教育庁日高教育局義務教育指導班 主任指導主事 高嶋 優美 様 今金町立種川小学校 校長 黒川 貴功 氏

## 第72回

# 全道八き地複式教育研究大会 胆振大会

## Ⅱ 全体会の報告



第2分科会 伊達市立大滝徳舜警学校



# I 記録写真



開会式



開会式(温泉委員長挨拶)



基調報告



分散会Ⅰ(学校・学級経営)



分散会Ⅱ(学習指導①)



分散会Ⅲ(学習指導②)

## 2 基調報告

胆振へき地・複式教育研究連盟 研究部長 羽根 秀哉(伊達市立大滝徳舜警学校)

はじめに

ご来場の皆様、温暖な気候を生かした農業、噴火湾・太平洋海域の特性を生かした水産業、鉄鋼などの工業や日本有数の温泉地を中心とした観光と、各産業のバランスがとれた胆振によるこそお越しくございました。

胆振5大遺産、世界遺産にもなりました縄文遺跡群、ユネスコ文化遺産にも登録されたアイヌ文化、変動する大地との共生をテーマとする洞爺湖有珠山ジオパーク、国内初の大恐竜の全身骨格化石として発見されたむかわ竜、北海道を築く礎となった石炭、鉄鋼、港湾、鉄道を結んだ北海道の産業革命の物語を表した炭鉄鉱、世界的にも価値ある地域資源が豊富な胆振、「産業豊かな多様性に満ちた胆振の地から子ども達に未来へ飛躍する力を」を大会スローガンとする第72回全道へき地複式教育研究大会胆振大会の基調報告を始めさせていただきます。

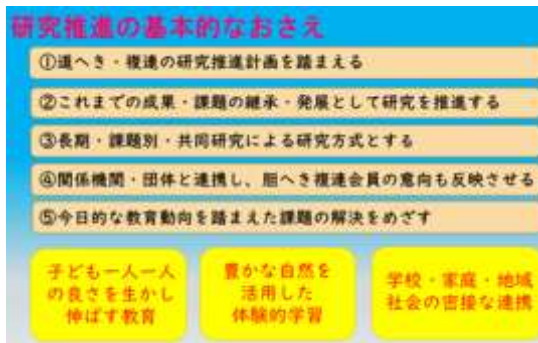


基調報告では、3つの柱に沿ってご報告いたします。1つ目は「胆振へき地・複式教育連盟の研究」について。2つ目は「第71回全道へき地複式教育研究大会胆振大会ファーストステージの成果と課題」について。3つ目は「第72回全道へき地複式教育研究大会胆振大会ファイナルステージに向けた研究推進」についてです。

基調報告では、3つの柱に沿ってご報告いたします。1つ目は「胆振へき地・複式教育連盟の研究」について。2つ目は「第71回全道へき地複式教育研究大会胆振大会ファーストステージの成果と課題」について。3つ目は「第72回全道へき地複式教育研究大会胆振大会ファイナルステージに向けた研究推進」についてです。

### 1 胆振へき地・複式教育連盟の研究

胆振管内におけるへき地複式教育の研究は、昭和23年の道へき複連の結成とともに始まり、以来75年間にわたって、へき地に生きる子ども達の健やかな成長と育成を図る教育実践を積み重ね、現在に至っています。昭和32年には、この洞爺湖において第6回全道単級複式教育研究大会 胆振大会を開催いたしました。その後、昨年までの第71回ファーストステージまで8回に渡り、胆振の研究成果を全道に発信してまいりました。胆振管内のへき地・複式教育の充実・発展を担い、今日に至っています。



しかし、急激な少子化による児童数の減少ならびに統廃合によって、加盟校が39校体制であった平成8年から、平成22年度には19校、現在に至っては10校と減少しております。このような急激な変化に伴い、いくつか課題が生じています。1つ目は、過去には同じ市町に複数あった複式校が1校のみとなり、これまで進めてきた小規模校同士の集合学習や 共同研究が困難になってきています。2つ目は、先ほど述べた学校数の減少、さらに、極小規模化に伴う教員数の大幅な減少です。これまでへき地・複式校に勤務していた経験豊かな教職員が減ることで、代々受け継がれ、磨かれてきた優れた教育実践が途切れ始め、日々の実践や技術の継承が難しくなってきています。

本連盟では、このような状況を受け、共同研究ができるよう2つのブロック体制を組織したり、春の教員研修会と秋の研究大会を位置づけたりして研究を推進してきました。また、令和の日本型学校教育の推進や GIGA スクール構想による一人一台端末の活用など大きな変革期を迎える中、子ども一人一人の未来のためにも、これまで大切にしてきたへき地の3特性のメリットを最大限に生かし、共同研究を通して



「少人数だからこそ伸ばせる教育」「自然や地域を取り込み、へき地だからこそできる教育」を力強く推進していくことも重要と捉えてきました。

本大会においても、これまでの全道大会、管内の研究大会等の成果及び課題から、研究推進における基本的な押さえを「道へき・複連の研究推進計画を踏まえる」「これまでの成果・課題の継承・発展として研究を推進する」「長期・課題別・共同研究による研究方式とする」「関係機関・団体と連携し、胆へき複連会員の意向も反映させる」「今日的な教育動向を踏まえた課題の解決を目指す」の5点としました。さらに、キーワードとして「子ども一人一人のよさを生かし、伸ばすこと」「豊かな自然を活用した体験的な学習の充実」「学校・家庭・地域・社会の密接な連携」を胆振では大切に、研究主題の実現に向けて研究を進めています。これまで長年にわたり培ってきた北海道のへき地・複式教育の歴史と伝統を確実に継承し、本大会が研究の系統的・発展的実践ならびに学習指導方法の典型化・定型化を図る有意義な大会となるよう期待しています。

## 2 第71回全道へき地複式教育研究大会胆振大会ファーストステージの成果と課題

ファーストステージは、令和4年9月14・15日、全体会、講演会、分散会、4会場での分科会において、管外・管内はもとより道外の皆様を含め、またオンラインによる約100名を併せ400名近い参加をいただき、ハイブリッド型で研究大会を開催いたしました。そして、各分科会で行われた公開授業・研究発表・研究協議では、各校研究の内容について多くの貴重なご意見、ご助言をいただきました。会場校はもとより、研究協力校や近隣校および本研究連盟にとっても授業力向上につながるものとなりました。

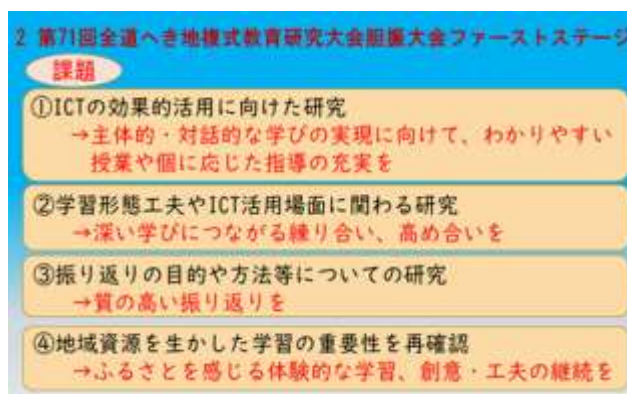
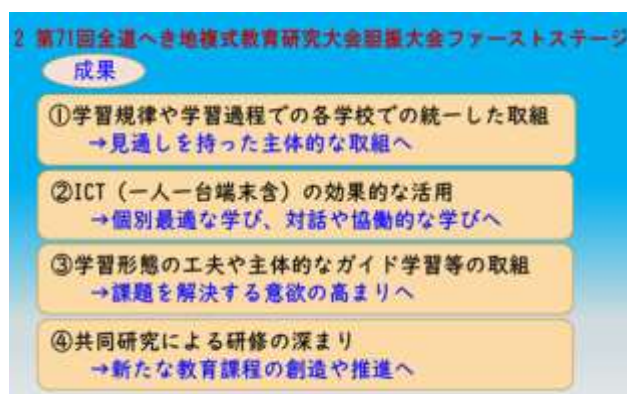
### (1) 成果

各分科会の研究のまとめをもとに、成果を4点と押さえました。①学習規律や学習過程において、学校で統一した取組により、子ども達は見通しをもって主体的に取り組むことができていること。②一人一台端末も含めた ICT の活用により、個別最適な学びへのアプローチ、さらには、遠隔合同授業の実施などによる対話や協働的な学びにつながっていること。③学習形態の工夫やガイド学習等によって生まれる主体的な判断・行動が、子ども達の自ら課題を解決する意欲の高まりにつながっていること。

④共同研究を通して配信や遠隔授業に関わる研修が深まることで、へき地の持つ時間的・空間的な難しさを補える可能性を実感し、新たな教育課程の創造や推進に結びついていることです。

### (2) 課題

課題についても4点と押さえました。①ICT の活用を進めることについて、デジタル教科書の活用や遠隔合同授業をはじめ、思考ツールや多様な表現方法、発表や話し合い等でのコミュニケーションツール、納得解や創造的な考えを導き出す協働作業など、様々な教育活動で実践を進めてきました。しかしながら、「主体的で対話的な学び」の実現に向けて、効率的で効果的であったのかまでは検証に至りませんでした。②深い学びについて、学習形態の工夫や学習リーダーを中心としたガイド学習、ICT 活用により、意欲的で主体的な学習が定着してきました。今後更に、深い学びとするための練り合い・高め合いにつながるより有効な教育活動を研究していくことが求められます。③振り返りについて、学



んだ知識・理解などの整理や成長の自覚実感、成長意欲、新しい価値の創造など、これらの資質を主体的に振り返る活動となるよう、更に研究を深める必要があります。④地域資源の活用について、感染対策の中、地域の豊かな自然や文化、産業などの資源を活用した体験的な学習の重要性を再確認できたことから、ウィズコロナにおいてもふるさとを学ぶ場の創意・工夫に努めることが求められます。以上の成果と課題を踏まえ、本大会へ向け研究を進めてまいりました。

### 3 第72回全道へき地複式教育研究大会胆振大会ファイナルステージに向けた研究推進

#### (1) 研究主題とスローガン

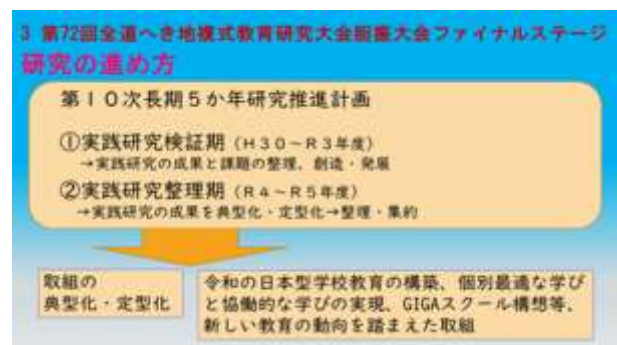
胆振大会の研究主題・副主題については、北海道へき地・複式教育研究連盟と同一歩調で研究を進めてきていることから、第10次長期5か年研究推進計画に合わせ、研究主題を「主体的・協働的に学び、ふるさとへの誇りと愛着をもった人間性豊かな子どもの育成」、副主題を「児童生徒一人一人が仲間とつながり、地域とともに「生きる力」を伸ばす学校・学級経営と学習指導の充実をめざして」としています。大会スローガンは未来を担う子どもたちに、たくましく主体的に生き抜いていく力を育むことを目指し、「産業豊かな多様性に満ちた胆振の地から 子どもたちに未来へ飛躍する力を」としました。

#### (2) 胆振大会の方針

大会方針は、胆振へき地・複式教育連盟では、①北海道へき地・複式教育研究連盟の第10次長期5か年研究推進計画に基づいた実践的な研究の推進。②へき地・複式の特性を生かした特色ある教育活動の創造。③各地域の特色ある教育資源を生かした体験的な学習を積極的に取り入れた、子どもたちを育む教育活動の推進。④研究大会を通し、研究の典型化、定型化や系統的・発展的実践と記録の累積を図るなど、胆振・へき地複式教育連盟の研究の進化・拡充としています。

#### (3) 研究推進

研究の進め方としては、「長期・課題別・共同」研究方式を継承し、組織的・総合的に累積・継承・発展させながら研究を積み上げ、幅広い内容を対象とした総合的な研究を推進しています。「長期研究方式」として、前期3年は「実践研究検証期」とし、研究内容を基にした実践研究から得られる成果と課題を整理するとともに、実践研究を累積しながら創造・発展を図る期間としています。そして、研究の後期2年を「実践研究整理期」として実践の成果を典型化・定型化するなど整理・集約する期間としています。本胆振大会は第10次長期5か年研究推進計画の5年次に位置付くため、2分野6課題の深化・充実に向けて、これまでの成果や課題を踏まえた実践・研究の一層の充実・発展を図りながら、取組の典型化・定型化を進めるとともに、学習指導要領の理念や、新しい教育の動向を踏まえた取組を計画的に進めることとしています。



#### (4) 研究内容

研究内容は第10次長期5か年研究推進計画5年次大会として、これまで取り組んできた実践及び成果・課題を整理し、典型化・定型化を図るとともに課題解決に向けた研究・実践の一層の充実と発展に努め、主題に迫る取り組みを深めてまいりました。第1分野「学校・学級経営の深化・充実」においては、年次ごとの研究推進計画を策定し、地域に根差した魅力ある教育活動の創造・発展に努め、学校や地域の特性を踏まえた研究を進めてきました。第2分野「学習指導の深化・充実」においては、個別最適な学びの実現に向けた指導方法や ICT の活用、指導目標の設定、学習指導過程や教材の工夫、学習活動における支援・評価方法の工夫に努める等、研究を進めてきました。

また、胆振では、これまで共同研究を核とした複式教育の実践を積み上げ、創り上げてきた実績があります。昨年度のファーストステージ、そして今回のファイナルステージにおいては 公開校と協力校、さらに



は各市町管内複式校の協働による 組織的・計画的な実践研究を進めてきました。その中で、研究の交流・討議を大切にし、成果と課題の共有化により、学校のみならず、地域の抱える課題や新しい教育の在り方を問う総括的な研究大会にしていきたいと考えています。

本大会は、各学校がそれぞれに設定した研究主題による研究を大事にしながら、第10次長期5か年研究推進計画の2分野6課題との関連を図るとともに、昨年のファーストステージで明らかになりました成果と課題の検証・整理を図ります。また、各会場校と協力校が連携を密にするとともに、管内的な情報交流も図りながら、これまで築いてきた「オール胆振」で取り組む 胆振ならではの複式教育のよさを生かし、さらなる充実・発展を目指してきました。

明日の2日目、授業を公開します4つの会場校の研究主題は、大会研究紀要の9・10ページ及び50ページからの各分科会の研究概要の通りです。



おわりに

本研究大会に多大なるご支援、ご助言をいただきました北海道教育委員会をはじめ、北海道教育庁胆振教育局、洞爺湖町、北海道教育大学、胆振管内教育委員会教育長協議会、各市町教育委員会、SoftBank、各教育関係団体の皆様に心より感謝を申し上げ、第72回全道へき地複式教育研究大会胆振大会ファイナルステージの基調報告といたします。



### 3 分散会

#### 分散会Ⅰ「学校・学級経営の深化・充実」

提言者【根室管内】	別海町立上春別小学校	教諭	高橋さゆり 様
助言者	北海道教育庁胆振管内教育局義務教育指導班	主任指導主事	中脇 尚子 様
運営者	黒川 貴功 道へき・複連研究推進副委員長（檜山）		
司会者	増田 覚 道へき・複連研究推進委員（十勝）		
記録者	菊地 俊雄 道へき・複連研究推進委員（宗谷）		
写真	葛西 統実 道へき・複連研究推進委員（後志）		
配信対応	小野田年克 道へき・複連総務部長（十勝）		

#### 1、発表概要

##### (1)提言主題

「ふるさとで学び、新しい時代を拓く、開かれた学校・学級経営の創造と推進」  
～共に学び、自ら学びを創る子の育成～

##### (2)提言概要

上春別小学校の教育目標である、「郷土を愛し、共に学び合い、心豊かに未来を拓く子を育てる」ために4つの力として「人を大切にする力」「自分の考えを持つ力」「自分を表現する力」「チャレンジする力」を掲げているそのため、研究主題は「共に学び、自ら学びを創る子の育成」に設定している。今年度は「共に学び合う場の工夫」を学習過程の重点に置き、学習形態の一つとして「グループ活動の工夫」「話し合う場の工夫」に取り組んできている。

- ① 主体的に課題を解決する力を高めるための「学ぶ意欲が高まる課題の提示」と「整合性のあるゴールの設定」、「ふるさと別海のすばらしさ」を生かした教育課程の編成

例えば

地域学習—あさりほり遠足 おたまじゃくしからカエルになるまでのお世話 等

異学年交流—1年生へのお世話活動

縦割り班活動—清掃活動 総合的な時間での上春タイム 運動会

異校種交流—中学校の先生の乗り入れ授業 保育所の園児招待活動 陶芸教室

を指導計画に設定し実践している。

- ② 互いの良さを認め合い、より考えを深めるための「自ら学ぶ場面や共に学び合う場面」の効果的活用や1年を通した異学年・異校種との学習活動

「保小中・合同避難訓練」では避難所での生活を想定して、子供たちが主体的に話し合う場面が見られ「自分を表現する力」や「自分の考えを持つ力」につながった。また、縦割り班活動の異学年交流では、協力したり、思いやりを持ったりする力を育成することができているので、「人を大切にする力」にもつながり「自分を表現する力」や「自分の考えを持つ力」「チャレンジする力」を育む契機にもなっている。

- ③ 学びの実感を持ち、客観的認知能力の育成を図るための、ふるさと教育の充実

総合的な学習の時間、生活科以外の他の教科でも調べたことを発表したり、学習を深める手立てを考えたり、地域や異学年でも学習を深める体験活動に努めている。ふるさとの教材を大切に、ふるさとの良さに気づき、学んだことを生かして子供たちが幸せな人生を歩んでいけるように「4つの力」を育んでいきたい。

## 2、研究協議

<討議の柱> ふるさとで学び、新しい時代を拓く、開かれた学校・学級経営の創造と推進

<グループ協議>

### (1)グループ A(会場)

討議の柱に関わり大切なことは、「異学年交流」と「地域との連携」のあり方が大切である。子供はもちろん教職員(学校職員)も学校間、世代をこえたコミュニケーションを大切にした連携が必要である。

・「異学年交流」

～小学校の異学年だけでなく、小中との交流も小学校の児童を知るだけでなく、小中学校の違いを知り小中のことを相互に理解し合うことで、子供を地域全体でよりよく育てられるメリットがある。

・「地域との連携」

～複式校では学年や学校の人数が少ないので、コミュニケーションのとらせ方が課題である。地域の素材を生かした学習、近隣校と遠隔授業、集合学習、合同学習などを行うことにより、コミュニケーション能力を高めることができる。

上記の活動を通して、一人一人の得意分野を生かした「ふるさとの良さを発信できる力」をつけたい。

### (2)グループ B(オンライン)

地域に関わる行事が復活し、学校職員・PTA・保護者が行事運営している場合が多いので、CSも活用しながら地域連携の重要性と学校の関わり方を見直す必要がでてきている。自主性・主体性の学びの姿には子供の思いを大切にして実感を持たせることが大切である。教職員で学びの姿を共有し、子供たちが満足感を持てるよう個性・特性を見取り教育活動を進めることが大事である。

### (3)グループ C(オンライン)

子供の考えを深めるため、小規模校間でのオンライン授業や民間業者のオンライン学習など、各地域・学校でできるところから取り組んでいくことが大切である。小中連携では、学校スタンダードの共有と統一、乗り入れ授業、行事を一緒に実施するなど、地域や子供たちの実態に即して考えていけば良い。

## 3、助言者から

子供たちの資質能力を向上させるには、社会に開かれた教育課程の実現が重要である。「社会に開かれた教育課程」を一層充実させるには、3つのポイントが大切である。

### (1)子供と地域が目標を共有すること

コミュニティースクールを活用した行事などの取組では、教育目標のもとにどのような資質能力をつけるのか、地域と共有する必要がある。

### (2)子供たちに必要な資質能力を明確にすること

これからの社会を創り出す子供たちに必要な資質能力は何かを全教職員で十分理解し、自分たちの地域の子供たちにはどのような力が必要で、どのような人間になってほしいのかを再点検してほしい。これが学習指導要領に示された「よりよい学校教育を通じて、よりよい社会を創る」ことにつながる。

### (3)地域と連携・協働しながら、目指すべき学校教育を実現すること

学校と地域が教育目標を共有する大切さは、「しながら」ということ。「やって終わり」でなく、子供にとってどのように有効であったかを学校と地域で確認・分析をして進むことが重要である。これは、学校と地域が学校教育の目指すゴールやその(段階の)成果と課題を共有することにつながる。

## 分散会Ⅱ「学習指導の深化・充実」

提言者	【桧山管内】厚沢部町立鶉小学校	教諭	八木 良子 様
助言者	北海道教育庁胆振管内教育局義務教育指導班	指導主事	関川 恭平 様
運営者	高橋 郁子 道へき・複連研究推進副委員長（日高）		
司会者	岡山 拓 道へき・複連研究推進委員（石狩）		
記録者	西村 浩一 道へき・複連研究推進委員（釧路）		
写真	真 中田 和久 道へき・複連研究推進委員（渡島）		
配信対応	北村 剛 道へき・複連総務部長（石狩）		

### 1、発表概要

#### (1)提言主題

「自分の考えを表現し、主体的に学び合う鶉っ子の育成」  
～考えを伝え合う算数化の授業を目指して～

#### (2)提言概要

##### ◎算数科における言語活動の充実を図る手立てについて

- ①間接指導時における対話的な学び、協働的な学びの手立ての工夫について
  - ・学習の深化、課題設定のための「ふりかえり」の活用
- ②ICTの効果的な活用について
  - ・一人学年児童の対話的な学びの工夫
  - ・ロイロノートを活用したヒントカードやシンキングツール等教材の工夫

### 2 研究協議

#### <討議の柱>

間接指導の工夫やICTの効果的な活用による主体性を育てる学習指導過程の改善と充実

#### <全体協議>

- ・間接指導時の深める場面において、まとめる段階では必ず直接指導をしている。子供と対話しながら必ず教師が関わっている。振り返りの場面も同様にしている。
- ・ICTの活用について例えば「検索はこの程度までできればいい」など、低中高それぞれの指導の目安は作ってあり、町でも共有されている。しかし年数も経っており見直しが必要。近隣校との交流は昨年度から実施している。一人で学習する学年を中心に行っている。
- ・町内の複式校との交流については、撮影した場面をロイロで交流している。送る方はいろいろなパターンで撮影し、こちらで整理してロイロのフォルダに入れ、子供が触れられるようにしている。

#### <グループ協議>

- ・間接指導を通して主体的な学びにつなげていきたい。しかし話し合いの型から離れられない。どのように価値に向かわせていくかと考えたときに、結局フリートークを意識的に取り入れていかなければならない。
- ・間接・直接指導の授業スキルを先生方に学んで欲しい。授業理解に向けてどのようなアプローチをするか当然複線化で進めていかなければならない。考えを練り合わせてある程度の集団に導いていく。そのために学習リーダーを育成する。しかし学習リーダーだけでなく、今はICTの導入も併せてやっていかなければならない。その意味では一段階上がっている。間接指導とICTの活用は切り離せない。
- ・ロイロノートの活用例として、付箋の貼り付け機能を活用してどんどん文字入力させて貼り付けさせている。それに対する意見を出させ、子供たちだけでは方向性がわからなくなったら、教師が手助けするようにしている。学校を休みがちだった子供もそれで自信をつけてきた。
- ・主体性を伸ばすためには子供が何をやれば良いのか理解することが大事。型も大事。現在一人学級の担任をしているが、ICTを活用して、調べ方を身につけている。離島の学校とオンラインでつなげるなど、対話的な活動にも活用している。
- ・小規模校で主体性を身につけようと取り組んでいるが、自己肯定感が高まらない。意見を伝えることが苦手な子供たちに日々奮闘している。自ら判断できる・見通しを持つ・課題が終わったら次に何をするかなど

教師がつかなくてもできるようにシステム化していくことが大事と考えている。それらにロイロを活用して流れに組み込んでいくことも必要。校長講話で話し方の指導を行っている。アナログとデジタルの両輪でやっていかなければならない。

- ・子供たちは理解の度合いが違うことを考慮しなければならない。深い学びができる子供もいれば、答えが導き出せれば十分の子供もいる。友達の答えを聞いて納得できれば OK の子供もいる。その子にあった到達目標があっている。そのことにより個に応じた目標ができる。
- ・単元のデザインやルーブリックを活用して「ここができれば次は個々を目指そう」などと児童自らファシリテートできるように、教師がファシリテートする。子供のファシリテーション能力を高めるために教師のファシリテーション能力を高めるという視点を持って取り組んでいる。中1ギャップだけでなく高1ギャップがあるなど、学校によって様々な課題がある。自立した学習者を育てるために主体性を育てるという視点も必要

### 3 助言者から

#### ①間接指導における協働的な学びについての手立て

- ・複式の学習指導では児童に直接関わる時間に制約がある。そのために児童の学習状況を適切に把握して本時の学習への意欲付けや学習内容の定着に向けて、直接指導と間接指導で児童にどのように関わるかを明確にしておくことが大事。
- ・児童の資質・能力を育成するためには、評価を意識して授業を構成する必要がある。知識・技能に比べ、思考力・判断力・表現力は意識されていない現状がある。児童がそれらを身につけたいと思って授業を受けているか、教師がそれを意図して計画的に授業をしているかについて振り返るひつようがある。特に個別最適な学びと協働的な学びが求められる中、協働的な学びを授業の中で取り組めるように児童を育てていく必要がある。そのためには教師が教え込むのではなく、児童が協働的に学ぶための問いかけが必要。そのためには一人一人の子供を尊敬すること・わからない児童は何につまずいているのか算数の本質に沿って理解してから授業に臨むことが大事になる。
- ・教師が教材研究を通して児童がどんなことにつまずきそうなのか、そのつまずきを解決するためにはどんな説明を児童ができるようになれば良いのかを想定すると共に、授業の中で児童が目指すべきゴールを学級全体で共有することにより、児童が学び合いで理解し合う思考力が身につく授業が展開されると考えられている。
- ・間接指導において自主的な授業ができるように直接指導における教師の働きかけが重要。
- ・振り返りの場面では、身についた資質・能力を自覚することに加え、児童自身が気づきや疑問などから新たな課題を見だし次の学びにつなげるなど主体的に取り組ませる上でとても大切な活動である。そのため児童が単元を通して学習を自分の問題としてとらえ、粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる学習活動を児童自らが生み出していく時間を位置づけることが重要となる。

#### ②ICT の効果的な活用

- ・ICT の活用は自力解決時にはノートやワークの代わりに使用できること。そして試行錯誤をすること。学び合いの時には一瞬で記述内容が転送でき対話的な学びの充実につなげることが可能となる。このようなICT の活用というのはこれからの学校教育を支える基盤的なツールとして必要不可欠であり、日常的に活用できる環境整備を整えていく必要がある。
- ・ぜひ先生方にはこれまでの先生方の実践と ICT を最適に組み合わせることで様々な活動を解決し、教育の質の向上につなげていっていただきたい。
- ・資質・能力の向上に向けて ICT を効果的に活用し教師が工夫していくことはとても重要である。一方で ICT は教師と児童の具体的関係の中で、教育効果を考えて活用することが重要である。活用自体が目的とならないように留意する必要がある。
- ・児童に算数の理論を理解されることが大切であり、教師の丁寧な指導の下で ICT を活用する場面を適切に選択する必要がある。
- ・最後に厚沢部町立鶯小学校の取組について提言いただきました八木先生本当にありがとうございました。今回提言いただいた実践例を参考にしながら協働的な学びの手立てについて、そして ICT の効果的な活用について意識し、これからの日々の実践を積み重ねていただければと思う。

## 分散会Ⅲ「学習指導の深化・充実②」

提言者	【十勝管内】音更町立音更西中小学校	校長	松井 眞治 様
助言者	北海道教育庁石狩教育局義務教育指導班	指導主事	加藤 慎嗣 様
運営者	池田 幸則	道へき・複連研究推進委員	学習指導部長（上川）
司会者	土谷 直樹	道へき・複連研究推進委員	（空知）
記録者	原 健一	道へき・複連研究推進委員	（根室）
写真	真木下めぐみ	道へき・複連研究推進委員	（オホーツク）
配信対応	道下 誠	道へき・複連事務局次長	（後志）

### 1、発表概要

#### (1) 提言主題

「自ら考え探究し 共に学び合える子ども」の育成を目指して  
～ICTを活用し 対話を通して深い学びを実現する授業づくり～

#### (2) 提言概要

心豊かな人を育むまち音更町にある、十勝平野の中央に位置する音更町立西中音更小学校は全校児童15名の学校である。教育目標は、「考える子、親切な子、頑張る子、元気な子」として設定し、子どもの好奇心を刺激し、探求心に火を点け、彼らの未来に責任を負う教育を推進することをねらいとして取り組んでいる。

校内研修について、1年次では、「学習活動にICTを活用した授業づくり」をテーマに、学習活動でのICT活用の研究、教師の指導力向上研修等に取り組んだ。

成果は、全教職員の積極的・協働的なICTの活用及び児童の主體的・能動的な学習の取組が推進されたことである。課題は、各教科の目標を達成するための適切な活用場面や、学習内容にあったコンテンツの選定である。

このことを踏まえて、2年次では、「考えを深め、共に学び、互いに高め合う子どもの育成」をテーマに、算数科に絞り、数学的活動や学習過程の工夫、思考力を高めることをねらいとして、実践研究を行った。

成果は、教師のICT活用スキルが高まり、様々なアプリケーションを活用することができるようになり、授業において、児童の学習意欲の向上、筋道を立てて考えるなどの思考力が育まれたことである。課題は、複式学級における指導の充実や個に応じた指導、表現力の育成である。

1・2年次の実践研究を踏まえ、3年次では、「自ら考え探究し、共に学び高め合える子どもの育成」をテーマに、他教科にも対象を広げ、子どもが豊かに表現しながら、高め合えることをねらいとして、実践研究を行った。

実践では、Googleジャムボードを活用し、自分の考えと他者の考えを比較し、自分の考えを振り返る活動を重視するとともに、複式学級において、各学年の学習状況を同時にモニターに映すことにより、「わたり・ずらし」の時間を効率的に進めるなどの取組が見られているところである。本研究は、現在進行中の取組であり、今後、成果と課題をまとめ、質の向上につなげていきたい

### 2 研究協議

#### 〈討議の柱〉

○ ICT機器の効果的活用など、学ぶ意欲を高める指導方法の改善と充実

#### 〈全体協議〉

- ・複式学級においては、多様な考えに触れる機会が少ないことから、他の複式学級と連携を図り、合同・遠隔学習を進めていくことが大切であるとする。
- ・ICTの効果的な活用に当たっては、これまでとは違う全く新しいものに取り組むのではなく、これまでの授業をより良くするための手段であるという考え方を大切にし、まず、「慣れよう、使ってみよう」というところから始めることが大切である。



- ・ICTの活用に当たっては、校長がリーダーシップを発揮しつつも、教職員に委ねる場面も設定しながら、組織的に取り組むことが大切である。
- ・一人一台端末だけでなく、授業に使えるアプリの共有や大型モニターの設置など、学習環境を整備することが大切である。
- ・児童がICTを効果的に活用するためには、文字を入力する上でのタイピング練習を行うことが大切である。そのため、様々な機会を活用して、児童自らが楽しんでタイピングを練習できる環境を整備することが大切である。
- ・一人一台端末については、Googleジャムボードなどの様々な機能(アプリ)があるが、児童にとって必要感があるかという点から、活用を考える必要がある。
- ・ICTを活用することにより、これまでできなかった共同編集や時間の効率化を図ることができる。
- ・ICTを活用するか、ノートを活用するかは児童の実態を踏まえ、学習のねらいや意図を明確にして、活用する必要がある。その際、個別最適な学びを実現するという観点から、ICTかノートかを児童自らが選べるようにすることも大切である。
- ・教師は児童の学びの伴走者として、児童が主体的に学ぶという観点から、AIドリルやシンキングツールのアプリなどを効果的に活用しながら、児童自らが学習を進めていくことができるように指導することが大切である。
- ・日々の授業で、ICTを活用して、高まった意欲を家庭学習につなげることが大切である。その際、長時間使うことによる視力の低下などの健康面も配慮する必要がある。
- ・ICTの効果的な活用に当たっては、小・中学校9年間を見通した縦の連携や学校同士の横の連携が大切である。

### 3 助言者から

音更町立音更西中小学校はICTの効果的な活用について研究と実践を進め、学習指導の一層の充実に向けた取組を進めている。これまでの校内研究において、1年次には、理解力・表現力の向上に向け、児童自らがICTを効果的に活用することを重点として推進されてきた。また2年次には、算数科におけるICTの効果的な活用について研究を進め、ICTを活用した数学的活動や学習過程を工夫し、児童の学習意欲の向上や思考力の育成に取り組んできた。そして、3年次には、ICTを活用し、対話を通して深い学びを実現する授業づくりと豊かに表現しながら学びを共有し合うことを大切にし、授業改善を図ってきた。成果と課題を明らかにしながら、組織的・継続的に日常的な授業改善を図っていることは、他校の参考になるものである。

次に、協議の柱については、ICTは文房具として、これからの学校教育を支える基盤的なツールとして必要不可欠なものであるということをも前提として、児童自身がICTを自由な発想で活用できるような環境を整え、授業をデザインすることが重要である。

ICTの活用については三つの段階があるとされている。ステップ1は「積極的に活用する」、ステップ2は「効果的に活用する」、そしてステップ3は「主体的に活用する」段階である。

ICTは使うことが目的ではなく、授業の目標を達成するために活用するという視点が非常に大切である。

教師は、ICT活用のメリットを感じていると思うが、児童はどうだろうか。児童自身が、ICTを使って学ぶ方法を選択していくこと、自分で選択していくことが個別最適な学びにつながり、学習意欲の向上につながっていく。

ICTは一人一人の児童生徒が自分のよさや可能性を認識することで、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え豊かな人生を切り開き、持続可能な社会の創り手となるために活用するものである。本日の提言を参考にしながら、教育活動の質の向上を図っていただくようお願いする。今後、本研究大会において、継続的な研究を進められ、その成果を積極的に発信し、各学校における授業改善の取組が一層充実することを期待する。

## 第72回

### 全道へき地複式教育研究大会 胆振大会

#### Ⅲ 分科会会場校の研究および配信方法



第3分科会 白老町立虎杖小学校

# 第1分科会

## 【研究主題】

「単式でも複式でも使える「学びの質を高める」学習指導の探求」  
～少人数のメリットを活かした学習指導の改善と工夫～



洞爺湖町立とうや小学校

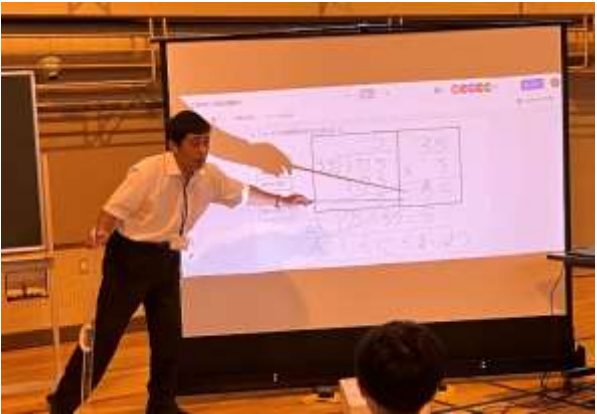


# 授業の様子

【公開授業1：第3学年】



【公開授業2：第4学年】



# 研究の概要

## 1 研究主題

「単式でも複式でも使える「学びの質を高める」学習指導の探求」  
～少人数のメリットを活かした学習指導の改善と工夫～

## 2 研究主題設定の理由

### (1) 前研究の成果と課題から

- ① 道徳科において、確かな指導観に基づいた授業の展開を構想することで、本時のねらいに沿った発問やワークシート等の教材を用意でき、ねらいに沿った評価につながるという成果を得ることができた。今年度は、この成果を道徳科に限らず他教科にも広げていきたい。
- ② コロナ禍でしばらく積極的な話し合い活動が行えなかったことから、オンライン対面学習やオンライン児童交流など「対話的で深い学び」に関わる指導の工夫についても考えていきたい。

### (2) 本校の実情から

本校の児童数は各学年、毎年10名前後を推移していることや特別支援学級対象の児童もいることを考えると、毎年単式学級で推移する可能性は低い。いつ複式学級で授業することとなっても児童・教師とも困り感なく学習を進められるような体制づくりの必要がある。

### (3) 社会的背景から

- ① 学びの質を高める学習指導の探求は、学習指導要領で求められている「児童の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」につながる。
- ② 洞爺湖町 GIGA スクール構想に基づいた ICT 機器が順次配備されてきていることから、その効果的な活用方法を理解し共有する必要がある。

## 3 道へき複第10次長期5か年計画研究推進計画との関連

【分野Ⅰ】 学校・学級経営の深化・充実

〈研究課題1〉 『確かな経営理念の確立と、家庭や地域と連携した確かな学びをつくる特色ある教育課程の創造と推進』

- 一人一人が目的をもってチャレンジし、元気に通う学校づくり
- 洞爺湖有珠ジオパークを活用した学習の推進
- 地域人材の活用や地域に根差した教育活動を通じた人材育成

【分野Ⅱ】 学習指導の深化・充実

〈研究課題6〉 『主体性を育てる学習指導過程の改善と充実』

- リーダー学習・少人数のメリットを活かした授業の改善・工夫
- 児童の主体的・対話的な学びにつながる ICT 機器の効果的な活用
- 教育効果を高める家庭学習と振り返り学習



4 全体構造図

研究主題

**単式でも複式でも使える「学びの質を高める」学習指導の探求**

～少人数のメリットを活かした学習指導の改善と工夫～

**めざす子ども像**

1	2	3
思いやりの気持ちを持ち、力を合わせて活動する子	基礎基本を身に付け、楽しく学び合う子	強い意志を持ち、最後までやり抜く子
お互いを高め、学びの質を高めるためのリーダー学習	児童の主体的・対話的な学びにつながる ICT 機器の効果的な活用法	教育効果を高める家庭学習と振り返り学習

**研究の仮説**

1	2
複式や少人数教育のメリットを活かした指導の改善・充実を図ることで、主体的・対話的で深い学びの実現につながるだろう。	確かな指導観に基づいた学習指導の改善や工夫は、学級形態や学級規模に関わらず児童の学びの質の向上につながるだろう。

**研究の視点・内容**

1	2	3
少人数のメリットを活かした授業の改善・工夫 ～リーダー学習の活用～	ICT 機器の効果的な活用 Chromebook を活用した 相互評価	振り返り、定着につながる 「ぐるぐるノート」の活用

**【令和5年度の重点内容】**

児童の主体的・対話的な学びにつながるリーダー学習の在り方と  
ICT を活かした相互評価の方法

各教科における適切な言語活動

一人一人が目的を持ち、積極的にチャレンジしながら元気に通う子を育む

**とうや小の学級経営**

スタンダード 5  
(町内統一の学習授業指標)

学校教育目標

## 5 研究内容

### (1) 研究期間

3カ年計画（今年度は3年次目）

<参考>

令和4年度（昨年度）町教研指定公開研究会兼全道へき地複式研究大会 胆振大会  
(ファーストステージ)

令和5年度（今年度）全道へき地複式研究大会 胆振大会(ファイナルステージ)

### (2) 研究対象教科

算数科

### (3) 研究仮説

- ①複式や少人数教育のメリットを活かした指導の改善・充実を図ることで、主体的・対話的で深い学びの実現につながるだろう。
- ②確かな指導観に基づいた学習指導の改善や工夫は、学級形態や学級規模に関わらず児童の学びの質の向上につながるだろう。

### (4) 研究内容

#### ☆授業力・指導力を高め、児童が輝くための3本の矢

**1の矢**…ICT機器の効果的な活用（Chromebook、GoogleMeet、デジタル教科書…）

- ① 児童の主体的・対話的な学びにつながる ICT 機器の効果的な活用法
  - I Jamboard を活用した対話的な学び
  - II 子どもたちに多様な表現方法を意識させ、自由な自己表現を促す。
  - III 他者の考えを知る機会として位置付けるとともに、記載した内容を基に話し合い活動を活性化させる。
  - IV 学習履歴を蓄積し、適切かつ効果的な振り返りにつなげる。
  - V 個人用デジタル教科書（算数）の活用法  
(5, 6年のみの導入により、5・6年生からの先行研究とする)
  - VI Chromebook を活用した相互評価。
- ② 効果的な ICT 端末の活用に向けた（低学年の）指導計画の改善・充実
  - I Chromebook 活用に向けた google application の導入「事例紹介」
  - II WindowsOS 端末による効果的な活用を考える「実践発表」

**2の矢**…少人数のメリットを活かした授業の改善・工夫～リーダー学習の活用～

- ① 学びの質を高めるためのリーダー学習
- ② 「学習過程における児童の姿」、リーダー学習、ICT 機器活用の相互関連
- ③ 学習規律の定着と基本的な学びの学習過程の確立（スタ5との関連）

**3の矢**…振り返り、定着につながる「ぐるぐるノート」の活用

- ①本校の特色の一つとなっている「ぐるぐるノート」の活用実践例
- ②教育効果を高める家庭学習と振り返り学習

(5) 研究主題と研究内容の関連について

「単式でも複式でも使える」「学びの質を高める」 学習指導の探求

～少人数のメリットを活かした学習指導の改善と工夫～

「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の3つが連動することで学びの質を高めることができる。実社会で役立つ資質・能力の育成には、「主体的な学び」と「対話的な学び」が、身に付けた知識・技能の活用・発揮につながる「深い学び」に向かうような、確かな学びになっていることが重要である。

◎この3つの柱の中で、児童に期待する具体的な姿を示したものが以下の資料①である。参考資料①

＜3つの視点における子供が思考・判断・表現する具体的な姿＞

「主体的な学び」の視点	「対話的な学び」の視点	「深い学び」の視点
<ul style="list-style-type: none"> <li>・興味や関心を高める</li> <li>・見通しをもつ</li> <li>・自分と結び付ける</li> <li>・粘り強く取り組む</li> <li>・振り返って次へつなげる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・互いの考えを比較する</li> <li>・多様な情報を収集する</li> <li>・思考を表現に置き換える</li> <li>・多様な手段で説明する</li> <li>・先哲の考え方を手掛かりとする</li> <li>・共に考えを創り上げる</li> <li>・協働して課題解決する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・思考して問い続ける</li> <li>・知識・技能を習得する</li> <li>・知識・技能を活用する</li> <li>・思いや考えと結び付ける</li> <li>・知識や技能を概念化する</li> <li>・自分の考えを形成する</li> <li>・新たなものを創り上げる</li> </ul>

(NITS 資質・能力の育成を目指す主体的・対話的で深い学びのイメージ図より)



上記の資料①にある3つの視点における児童に期待する姿を整理した【「学びの質」の共有に向けて “学習段階における児童の姿 (算数科)”】が、我々の研究を進める上での拠り所となるものである。(参考資料②を参照)

更に ICT を有効利用できる場面で押さえておきたいのが【「学びの質」の共有に向けて “ICT を活用した学習段階における児童の姿 (算数科)”】である。(参考資料③を参照) ICT を有効利用できる授業では、積極的に取り入れることで児童の学びの質は効果的に高まることが期待される。これが研究内容1の矢である『ICT 機器の効果的な活用』である。

参考資料②「学習過程における児童の姿 (算数科)」 参考資料③「ICT を活用した学習過程における児童の姿 (算数科)」

『学習の質』の共有に向けて「学習段階における児童の姿 (算数科)」の整理(2022.5.1)

領域	意	意	意
算数科	算数科の学習は、数や図形などの具体的な対象を扱うだけでなく、数や図形の本質的な性質や関係性を理解し、それに基づいて問題を解決したり、新しい問題を発見したりすることを目指す。また、数や図形を扱う過程で、論理的思考力や問題解決力、コミュニケーション能力などを育成する。	算数科の学習は、数や図形などの具体的な対象を扱うだけでなく、数や図形の本質的な性質や関係性を理解し、それに基づいて問題を解決したり、新しい問題を発見したりすることを目指す。また、数や図形を扱う過程で、論理的思考力や問題解決力、コミュニケーション能力などを育成する。	算数科の学習は、数や図形などの具体的な対象を扱うだけでなく、数や図形の本質的な性質や関係性を理解し、それに基づいて問題を解決したり、新しい問題を発見したりすることを目指す。また、数や図形を扱う過程で、論理的思考力や問題解決力、コミュニケーション能力などを育成する。

『学習の質』の共有に向けて「学習段階における児童の姿 (算数科)」の整理(2022.5.1)

領域	意	意	意
算数科	算数科の学習は、数や図形などの具体的な対象を扱うだけでなく、数や図形の本質的な性質や関係性を理解し、それに基づいて問題を解決したり、新しい問題を発見したりすることを目指す。また、数や図形を扱う過程で、論理的思考力や問題解決力、コミュニケーション能力などを育成する。	算数科の学習は、数や図形などの具体的な対象を扱うだけでなく、数や図形の本質的な性質や関係性を理解し、それに基づいて問題を解決したり、新しい問題を発見したりすることを目指す。また、数や図形を扱う過程で、論理的思考力や問題解決力、コミュニケーション能力などを育成する。	算数科の学習は、数や図形などの具体的な対象を扱うだけでなく、数や図形の本質的な性質や関係性を理解し、それに基づいて問題を解決したり、新しい問題を発見したりすることを目指す。また、数や図形を扱う過程で、論理的思考力や問題解決力、コミュニケーション能力などを育成する。

そして「学びの質」の高まりを見取るために (参考資料④)

研究を進めて2年目が終わった時点で、児童の「学びの質」を見取るためのアンケートを行った。アンケート結果から高学年になるにつれて、算数の問題解決に取り組む意欲が低くなっていることが分かった。また、「自分の考えをまとめ、積極的に発表する」



との項目が低い反面、「友だちの考えを聞いて自分の考えが深められている」と感じている児童が多いのは、研究の成果と言えよう。

「自分の考え」については、解決方法は見出しているが、それを言葉で伝えることが難しいと感じている児童も多い。言語活動の充実にも力を注いでいくために、全校で統一して取り組んでいる「話す・聞く・話し合う・書く」の基本をこれからも意識させたい。また、リーダー学習を多く取り入れ、話し合いの基本をしっかりと身に付けさせ、振り返り、自己評価を続けていくことで、「できた・わかった・やってみたい」という意欲につなげていきたい。

#### 参考資料④（高学年用アンケート結果抜粋）

名前	学年	①やってみ たいと思っ て、問題を 解いていま すか。	②問題文を 読んで、ど のように解 決すればよ いか考える ことができ ますか。	③習ったこ とを使っ て、問題を といていま すか。	④自分の考 えを説明す ることがで きますか。	⑤自分の考 えを積極的 に発表して いますか。	⑥友達のコ えを聞い て、自分の 考えを深め ていますか。	⑦算数の勉 強がよくな りますか。	⑧習ったこ とを使っ て、別の問 題を解くこ とができま すか。
	6年	4	4	4	3	3	4	4	4
	6年	3	3	4	4	3	4	4	3
	6年	4	4	4	3	3	3	4	4
	6年	4	4	4	3	2	4	4	4

また、終末の「振り返りシート」に、児童の発表に対する意欲や問題に取り組む態度を見取ることができる項目を入れることで、自己評価の低い項目に対して教師が支援することもできる。問題解決型の学習に「振り返りシート」を活用して、自分で解決することができたという自己肯定感も高めていきたい。

更に、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の3つが連動することで学びの質を高めるには、研究内容2の矢である『少数者のメリットを活かした授業の改善・工夫～リーダー学習の活用～』を研究していく必要があると考える。

リーダー学習の活用のねらいは、

- ①いつ複式学級で授業することとなっても児童・教師とも困り感なく学習を進められるような体制をつくること。
- ②リーダー学習の効果的な活用によって学びの質を高める。

といったことが本校では挙げられるであろう。そういった研究を進める中で、授業の狙いに沿った効果的な活動形態やリーダーの役割、そして教師の出番といった【ぶれない指導観】を我々教師が培う必要があるだろう。

(6) 研究内容に関わる資料編

★1の矢 ICTの効果的な活用法 に関わる追加資料（基礎・基本編）

資料①

文部科学省『算数・数学科の指導におけるICT活用について』より抜粋

小学校算数科におけるICTの活用の効果

（○：ICTの活用が効果的な場面、×：ICTの活用に留意が必要な場面）

◎表やグラフの作成・・・○多量なデータでも、目的に応じていろいろなグラフを一瞬で簡単に作成できる。

◎図形指導の充実・・・○プログラミングで正多角形をかく。図形を動的に変化させる。  
×小学校の段階では、3次元の立体は、実際に作って体験する方が大切。

◎問題解決の流れの中で

- ・問題提示の時・・・○問題を一瞬で配布できる。問題を拡大して見せることができる。  
×初めて出会った問題に対しては、一瞬で配布しても多くの子供は理解できない。演示の実施や絵・図の提示による工夫、一文ずつ丁寧に読み解くことが大切。
- ・自力解決の時・・・○ノート、ワークシートの代わりに使用できる。教師はワークシートを前もって印刷する必要がなく、子供は何枚も自由に使うことができる。試行錯誤が可能。  
×具体物が必要な内容や子供もいる。
- ・学び合いの時・・・○一瞬で記述内容が転送できる。一覧表示が可能。対話的な学びの充実。  
×記述内容を配布されても、多くの子供はその考えを理解できない。読み解くことを丁寧にすることが大切。
- ・まとめ・振り返りの時・・・○まとめ・振り返りの共有。振り返りの記述の蓄積。

◎学習内容の蓄積・・・○タブレットに書いた内容が蓄積される。ノートであれば何冊も必要となるところ、タブレット一つで蓄積が可能。

◎個人の状況把握・・・○個人の問題解決の状況を把握できる。

◎知識・技能の伝達・・・○秤などの細かな目盛りを読む、コンパスの回し方などの動きを知る。

★2の矢 少人数のメリットを活かした授業の改善・工夫 ～リーダー学習の活用～

に関わる追加資料（基礎・基本編）

## ◆学習の活動形態についての押さえ

- ◎全体学習：○全体の意見や反応が確認できる。  
△児童が発言しやすい環境づくりが必要になる。  
△学習リーダーを育てていく必要がある。
- ◎グループ学習：○多様な考え方を少人数で検討できる。発言の苦手な児童にとっては全体学習よりも安心して自分の意見を述べやすくなる。  
○司会を決めると進めやすくなる。
- ◎ペア学習：○ペアとなる児童とお互いの考えを話し合ったり、学習状況を確認したりできる。
- ◎個別学習：○ひとりひとりの状況に応じて、じっくりと取り組むことができる。  
△自分の考えが持てない児童生徒には、サポートが必要。(教師の支援、ICT)

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業を展開するうえで、言語活動やペア学習、グループ学習などを取り入れる場面を整理し、授業進捗の見通しを立てることが大切。小規模校においても、意図的にペア学習やグループ学習を仕組むことは効果があると考えられる。また、1単位時間や単元全体の中で「教師が教える場面」をどこに設定するか考えておく必要がある。

## 6 これまでの成果と課題（本研究主題の2年次までの反省より）

### (1) 【研究内容1】ICT機器の効果的な活用について

#### ①「児童の主体的な学び」に関わって

児童は苦手な学習においても、タブレットを取り入れた学習は楽しみにしている。ICTを活用することで児童が興味をもって取り組めるメリットを生かし、今後も自力解決や交流の場面で活用していくことが望ましい。

今年度の何よりの成果は、子ども達がタブレットを日常的に使用できていることである。学習では、写真やグラフを貼り付けて個人の学習のまとめや、友達と共有しながらグループのまとめに使うなど、調べたりまとめたりする時の手段の一つになっている。

ただ、一方で児童のタブレットに入っているデジタル教科書を使いながらの授業は少なかった。また、単元によっては、TVモニターのデジタル教科書+児童の教科書+黒板という複数の視聴覚教材を活用したり、児童が体感的に操作を通じて主体的に学習に取り組んだりするものもあるので、実践事例などを参考に、より良い使用の仕方を研修していきたい。

#### ②「対話的な学び」に関わって

ペア学習、全体交流の場でChromebook (Jamboard) は「子ども同士の協働」や「自分の考えを深めること」に大きな効果があった。

高学年は Jamboard を使うことでペア学習に取り組みやすくなったり、更に考えを比較したり深めたりするのに効果があった。今後は chromebook をうまく活用して、話し合いが深められるような指導をしていきたい。

家庭待機児童との MEET や中学校との MEET を行ったことで、児童の MEET に対する抵抗感はほとんどなくなった。他校の児童生徒との MEET 学習は今後行う予定である。

### ③「教師の ICT 活用技能向上」に関わって

低学年に chromebook が割当たる時期が令和 5 年度の 2 学期からという中、低学年の担任の先生も積極的に活用場面や方法を考えていた。2 年生は yahoo の平仮名キーボードでの検索やゲーム、担任が用意した Jamboard での学習（文字は手書き）などができるようになった。3 年生以上の方向性が見えてきたので、そこにつなげるための低学年の指導計画に関する研修が次年度ある程度必要になると思う。令和 2 年度に作成したプログラミングや ICT 活用の年間計画を見直し、今の実態に応じた計画の原案を提示し、精査していきたい。

## (2)【研究内容 2】ICT 機器活用以外での少人数のメリットを活かした授業の改善・工夫

### ①「自主的な学びにつながるリーダー学習」に関わって

リーダー学習は、子どもたちが授業の流れやパターンを理解し、問題に対して自分たちが何をどう考えればよいのかをつかむ必要があるため、まさに子どもたちの主体的な学びにつながっていくと考える。学習リーダーを中心に授業を進めることで、なんとかリーダーを助けなくてはという意識もはたらか、子どもたちの授業に対するやる気や集中力も高まっていた。また、課題を立てる場面やまとめの場面を子どもたちに託すことで、本時の問題の本質をつかませることができ、何ができた（分かった）授業であったかをまとめることにもつながった。しかし、進め方シートなど使わないと学習が止まってしまうたり、授業の後半は担任が進めたりしてしまうこともあった。課題に向かって論点や話題がずれないように学習を進めることは大変高度なことであるため、リーダー学習を進めていくには、各学年の積み上げを系統的に、確実に行うことが重要と考える。高学年に向けてさらに自ら考えて活動できるように、言語活動も充実させていきたい。

### ②「学習ルールの確立や基本的な学びの学習過程の確立」に関わって

「学習過程における児童の姿の一覧」の流れで授業を進めることにより、少しずつ学習規律が整ってきた。基本的な授業の学習過程を整えていくことは、深い学びや学習内容の定着につながっていくと考える。今後も聞き方、話し方、書き方名人を意識した学習規律の定着と、リーダー学習や ICT 機器を活用する時の「学習過程における児童の姿」に近づけるようにしていきたい。



### (3) 3年次に向けて

#### ①【研究内容①】ICT機器の効果的な活用に関わって

- ・ICT機器を使つての「振り返り」と「次につなげる」学習の構築。
- ・ICT機器の効果的な活用による、対話的な学びの充実。
- ・改定したプログラミングやICT活用の年間計画を元にした実戦。
- ・児童の思考の流れを可視化する板書とICTの効果的な使い分け。

#### ②【研究内容②】少人数のメリットを活かした授業の改善・工夫

～リーダー学習の活用～に関わって

- ・「話す・聞く」力を育て、より学びの質を高めるリーダー学習の継続。
- ・学習過程における児童の姿の一覧とスタ5との関連を意識した指導。
- ・子どもたちの達成感や学習内容の定着につながる『まとめと振り返り』。
- ・教師と児童との授業観の共有を図る授業アンケートの実施。

#### ③【研究内容③】振り返り、定着につながる「ぐるぐるノート」の活用

- ・発達段階に応じた、習慣づけから内容の充実への継続指導。
- ・他者の取組に興味を持たせたり、家庭学習の意欲喚起を促したりする指導の工夫

# 算数科学習指導案

日 時 令和5年9月14日(木) 1校時  
 児 童 洞爺湖町立とうや小学校  
 3年生 15名  
 指導者 教諭 佐々木 淳也

1. 単元名「あまりのあるわり算」

2. 単元設定の理由

(1) 教材について

本単元は、学習指導要領の第3学年の2内容A「数と計算」(4)に示された指導事項のうち、除数と商が共に1位数である「あまりのある除法」の計算を指導するために設定された単元である。

本単元の前(第3学年1学期初め)に「②わり算」で、九九を1回適用して求答できるわり算や答えが九九にない簡単なわり算など、いずれもわり切れる場合のわり算の学習をしている。

本単元では、既習のわり算の発展として、わり切れない場合「あまりのあるわり算」の意味やその計算の仕方などについて取り扱い、除法に関わる数学的活動を通して、除法についての知識、技能を身に付けていく内容になっている。

今後、本単元の学習は、第4学年「1けたでわるわり算の筆算」へと発展していく。

(2) 児童について

本校の3年生児童の学習意欲は高い。しかし、算数科の学習においては、自分から進んで全体の場で考えを説明することが苦手な傾向がある。そのため、自分の考えと周りの考えを比べたり、自信をもって考えを話したりできるように、ペアなどの少人数の交流を行っている。1学期に行った「わり算」(あまりのないわり切れるわり算)では、わり算の意味、計算の仕方について学び、九九やかけ算の式を使って答えを出す技能を身に付けている。しかし、九九を間違ってしまう児童や、わり算の計算に時間がかかる児童もいる。そのため、児童の実態に合わせて、ノートやJamboard上で前時の学習の振り返りをしたり、少人数交流で考えを深めたりしながら、学習を進めていきたい。

(3) 指導に当たって

①単元全体に関わって

本単元で、豊かにしたい数学的な見方・考え方は、わり算の意味についての見方・考え方である。「②わり算」では、余りのないわり切れる場合の等分除と包含除の場面について学習しているが、本単元では、余りのないわり算から余りのあるわり算へとわり算の意味を拡張する。このような統合的・発展的な見方・考え方を大切にしていく。そのために、あまりのあるわり算の意味理解を図るための数学的活動を大切にしていき、言葉と操作、図と式を結び付ける双方向の活動を通してわり算の意味理解を確かなものにしていきたい。

## ②ICT 機器の効果的な活用

本単元では、あまりのある数について、図と式から、言葉を用いて説明させる活動を取り入れる。その際に、考えを交流する手立てとして Jamboard を使用する。Jamboard を活用することで、どうしてその考えになったのかを視覚的にも見やすく説明することができる。また、全体交流をする際にも友達のことを画面共有することで、より伝わりやすい交流ができる。

## ③少人数のメリットを活かした授業の改善・工夫

児童は、これまでに何度か（リーダーの手引きをもとにして）リーダー学習を進めている。3年生の段階ということもあり、自分達で意見をまとめたり、考えを広げたりすることにまだ慣れていない実態がある。そのため、児童の発達段階に応じ、教師側が適度に声かけをしながら、リーダーや困り感のある子をサポートしてきた。本単元においても児童が課題意識をもって交流し合い、主体的に学習が進められるように、効果的にリーダー学習やグループ学習を取り入れていく。

### 3. 単元の目標

余りのあるわり算について、余りの意味やその計算の仕方を理解し、わる数と余りの大きさの関係をとらえたり、場面に応じて余りの処理をしたりできるようにするとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。

#### 〈知識・技能〉

- ・ 除法の意味について理解し、除法が用いられる場合について理解することができる。
- ・ 除法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすることができる。
- ・ 除法と乗法や減法との関係について理解することができる。

#### 〈思考力、判断力、表現力〉

- ・ 除法が用いられる場面の数量の関係を、具体物や図などを用いて考えることができる。
- ・ 余りのある除法の余りについて、日常生活の場面に応じて考えることができる。

#### 〈主体的に学習に取り組む態度〉

- ・ 除法に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとしている

### 4. 指導計画（9時間扱い）

時	○は主な学習活動 (★はリーダー学習 ICTはICTの活用)	主な評価規準
1	○レディネステスト ○九九を用いて、わり切れるわり算のふりかえり ★全体交流・授業進行 ICT デジタル教科書	【知・技】 除法と商が共に1位数である除法の計算が確実にできる。(観察・レディネステスト・ノート)
2	○12個のあめを1袋に3個ずつ分ける場面から、元のあめが13個あった場合の答えを求める活動をもとに、わり切れないときは余りが出ることを知り、これからこのようなわり切れない	【態度】 除法が用いられる場面の数量の関係を、具体物や図などを用いて考えようとしている。(観察・発言) 【知・技】

	<p>わり算について考えていくという課題をつかむ。</p> <p>★全体交流・授業進行</p> <p>ICT デジタル教科書、Jamboard</p>	<p>◎除法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすることができる。(Jam・ノート・発言)</p>
3	<p>○わり算の意味に着目し、余りはいつもわる数より小さくなることを考える。</p> <p>★全体交流・授業進行</p> <p>ICT デジタル教科書</p>	<p>【知・技】</p> <p>割り切れない場合に余りを出すことや余りは除数より小さいことを知ることができる。(ノート)</p>
4	<p>○等分除で余りのあるわり算の意味を理解し、適用問題に取り組む。</p> <p>★全体交流・授業進行</p> <p>ICT Jamboard</p>	<p>【知・技】</p> <p>包含除や等分除など、除法の意味について理解し用いることができる。</p> <p>◎除数が1位数で商が2位数の除法の計算を知ることができる。(ノート・Jam)</p>
5	<p>○わり算の意味に着目し、余りのあるわり算の答えを確かめる。</p> <p>★全体交流・授業進行</p> <p>ICT Jamboard</p>	<p>【思・判・表】</p> <p>除法は乗法の逆算と捉え、除法の計算の仕方を考えることができる。</p> <p>【知・技】</p> <p>◎除数が1位数で商が2位数の除法の計算を知ることができる。(ノート)</p>
6	<p>○練習問題に取り組み、答え合わせをしていく。</p> <p>★答え合わせ</p> <p>ICT デジタル教科書</p>	<p>【知・技】</p> <p>除数と商が共に1位数である除数の計算が確実にできる。(発言・ノート)</p>
7 本 時	<p>○問題提示後、立式し、わり算の答えを求め、余りの処理をどうすればよいかという点に着目し、課題を提示する。</p> <p>○余りの意味を考え、余りを切り上げて処理する方法を理解する。</p> <p>★全体交流・授業進行</p> <p>ICT Jamboard</p>	<p>【思・判・表】</p> <p>◎除数が1位数で商が2位数の計算において余りのある除法の余りの処理について仕方を考えることができる。(発言・Jam)</p> <p>【態度】</p> <p>除法が用いられる場面の数量の関係を、考えようとしている。</p>
8	<p>○問題提示後、立式し、わり算の答えを求め、余りの処理をどうすればよいかという点に着目し、課題を提示する。</p> <p>★全体交流・授業進行</p> <p>ICT Jamboard</p>	<p>【思・判・表】</p> <p>除数が1位数で商が2位数の除法の計算を知ることができる。(発言・Jam)</p>
9	<p>○練習問題に取り組み、答え合わせをしていく。</p> <p>★全体交流・授業進行</p> <p>ICT デジタル教科書</p>	<p>【知・技】</p> <p>除法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすることができる。(発言・ノート)</p>



5. 本時案

(1) 本時の目標

【思・判・表】◎除数が1位数で商が2位数の計算において、余りの処理の仕方を考えることができる。

【態度】除法が用いられる場面の数量の関係を、考えようとしている。

(2) 本時の展開

時	○主な学習活動 (★リーダー学習) ・は予想される児童の反応	配慮事項 ICTはICTの活用
つ か む 7 分	<p>○問題把握</p> <p>35人の子どもが、長いす1きやくに4人ずつすわっていきます。</p> <p>★問題文を読ませ、大事な数字、聞かれていること、キーワードを確認し、長椅子の数を求める問題であることをつかませる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「今までの問題と同じ。」</li> <li>・「今までと違って余りを聞かれていない。」</li> <li>・「式と答えは求められる。」</li> </ul> <p>★式と答えをノートに書かせる。</p> <p>★式を発表させ、答えが出たかどうかを問わせる。</p> <p>○答えを求め、自分の出した答えでよいかどうか、問題文を復唱し、考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「8あまり3です。」</li> <li>・「答えは8脚です。」</li> <li>・「答えは9脚です。」</li> </ul> <p>○答えが9脚になることを知る。</p>	<p>ICT デジタル教科書で問題を投影する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大事な数字に丸。聞かれていることに赤線、キーワードに青線を引く。</li> <li>・思考が止まっている児童がいないか確認する。</li> </ul> <p>ICT Jamboard を用いて35を4ずつくり、余りが出ている図を作る。</p>
見 通 す 3 分	<p>めあて： なぜ答えが9きやくになるのかを考えよ</p> <p>○課題把握</p> <p>★めあてをみんなで読みノートに書かせる。</p> <p>★答えではなく、なぜ9脚の答えになるのかを各自考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「みんな座れないとだめだから・・・。」</li> <li>・「8きやくだけでみんな座れるのかな。」</li> </ul> <p>★見通しを確認させる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図を操作しながら考えていく。</li> <li>・問題文のキーワードもとにして説明をしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「あまりは」ではなく、「みんなすわるには」になっているのに着目させる。</li> </ul> <p>ICT クラスルームに本時に必要な Jamboard データを貼り付けておく。</p>
自 力 解	<p>★時間を決めて Jamboard に考えを書かせる。</p> <p>★5分経過後、友達の考えやヒントのページを見てもよいことを伝える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取り掛かりが遅い児童への支援。</li> <li>・5分後、教師による声</li> </ul>

決 10 分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「あまった人も座れないとだめだから。もう1脚増やさないと。」</li> <li>・「いすがたりない。」</li> <li>・「あまった人が座れない。」</li> </ul>	かけを行う。
集 団 解 決 10 分	<p>★ペア学習でめあてについて考えたことを交流させる。 (ミニリーダーの司会)</p> <p>○全体交流</p>	<p>ICT Jamboardを使って2人の考えをお互いに発表し合い、交流する。</p> <p>ICT Jamboardを全体に投影し、意見交流する。 ・キーワードに注目させる。「みんなすわるには・・・」</p>
ま と め る 15 分	<p>○余りの処理の仕方を理解する。</p> <p>まとめ：あまりを取り入れる場合は、答えを1ふやす。</p> <p>○学習のまとめをする。</p> <p>★まとめを読ませる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まとめをノートに書く。</li> </ul> <p>○適応問題に取り組む。 (教科書 P111 の△△の問題を通して余りを切り上げる練習に取り組む。)</p> <p>★適応問題の答え合わせを行う。</p> <p>○学習の振り返り (スプレッドシートによる振り返り)</p>	<p>【思・判・表】除数が1位数で商が2位数の計算において、余りの処理の仕方を考えることができる。</p> <p>ICT デジタル教科書で問題を投影する。</p> <p>ICT スプレッドシートによる本時の自己評価を行う。</p>

## 6. 板書計画

9 / 14 余りのあるわり算		
<p>問題</p> <p>35人の子どもが、長いす1きやくに4人ずつすわっていきます。みんなすわるには、長いすが何きやくいりますか。</p>	<p>めあて</p> <p>なぜ、答えが9きやくになるのかを考えよう。</p>	<p>△式、<math>11 \div 2 = 5</math> あまり1 全部はこぶにはもう 1回はこぶから6回 答え 6回</p>
<p>式 <math>35 \div 4 = 8</math>あまり3 答え、9きやく なぜ9きやくになるのかな</p>	<p>見通し</p> <p>図、キーワード</p> <p>「みんなすわるには」のこりの3人すわるにはもう1きやくあるとすわれる。 答え、9きやく</p>	<p>△ <math>52 \div 8 = 6</math> あまり4 全部読むにはもう 一日ひとつようなので 7日 答え 7日</p>
<p>まとめ</p> <p>「みんなすわるには」あまった子はどうする？</p>	<p>まとめ</p> <p>あまりを取り入れる場合は、答えを1ふやす。</p>	

# 算数科学習指導案

日 時 令和5年9月14日(木) 2校時

児 童 洞爺湖町立とうや小学校 4年生 7名

指導者 教諭 吉村 亮

## 1. 単元名「あまりのあるわり算の筆算」

## 2. 単元設定の理由

### (1) 教材について

本単元は、学習指導要領、第4学年の2内容A「数と計算」(3)に示された指導事項のうち、除数が2位数の整数の除法の筆算を指導するために設定されたものである。

本単元は、第3学年での九九1回適用の「わり算」や「あまりのあるわり算」、第4学年での「1桁でわるわり算の筆算」の学習を受けて、2位数でわる計算の仕方や除法に関して成り立つ性質について学習し、「小数÷整数」や第5学年「小数÷小数」といった「小数のわり算の筆算」へと発展していく。

### (2) 児童について

本校の4年生児童は、1学期に学習した「1桁でわるわり算の筆算」を概ね習得してきている。しかし、個人差があり、七の段の九九を間違ってしまう児童や、わり算の商の見当に時間がかかってしまう児童などもある。そのため、児童の実態に合わせた補充問題を行ったり、学習のヒントをJamboard上に貼り付けたりしながら、児童の思考が止まらないように工夫していきたい。また、自分の考えに自信がもてず、積極的に発表することができなかったり、考えを言葉で説明することが難しかったりする児童もいる。そのためICT機器や学習リーダー(ペア活動、グループ活動を含む)を効果的に利用して、友だちの考えと自分の考えを比較することで考えを広げたり、自信をもたせたりしていきたい。

### (3) 指導にあたって

#### ①単元全体にかかわって

本単元では「2桁でわるわり算の筆算」の指導を通して、既習事項の「1桁でわるわり算の筆算」を活用しながら、新しい問題を解決する能力や態度を育てることが重要である。

ここでは、実際の生活場面を意識させながら、「2桁でわるわり算の筆算」の計算の仕方について学習していく。仮商を立てる時の見当づけの際に、何十でわる計算は大きな役割を果たす。実際に10円玉や10の束を操作して、10の個数で考えることの意味を確認したり、児童が説明したりする数学的活動を取り入れ、理解が深まるように支援していく。

筆算では、既習事項の「わる数が1位数の筆算」の時に学習した筆算のアルゴリズムである「たてる」「かける」「ひく」「おろす」を意識させながら、合理的で迅速に処理できる「筆算の良さ」を感じ取らせたい。

## ② ICT機器の効果的な活用

本単元では、問題文から式を作り、「2桁でわるわり算の筆算」の解き方を考えていく活動が主である。そのために、既習事項の「1桁でわるわり算の筆算」を活用したり、具体物や半具体物を操作したりして、課題を解決していき、基本的な解き方は「1けたでわるわり算の筆算」と同様にできることを理解させたい。その際の操作場面や課題解決時の交流場面においてICT（主にJamboard）を活用し、ヒントを提示したり、先にできた子の考え方を参考にさせたりしながら、児童が自ら考えを確立させ、理解度や達成感を高められるようにしていきたい。

## ③少人数のメリットを活かした授業の改善・工夫

児童はこれまでに、算数の課題解決型の学習において、「リーダーの手引き」を基にしたリーダー学習を行ってきた。リーダーが進めることによって、児童が主体的に学習に参加することができるとともに、児童のつまづきを担任が丁寧に見とることができる。さらに、少人数の特質を活かして、一人一人がしっかりと課題に向き合う場を設定することにも重点をおいている。そうすることで、児童同士の学び合いの時間が充実し、自分の考えに自信をもったり、友達との考え方の違いに気付いたりすることができる。また、教師が進めるほうが効果的な場面においても、今後、複式形態で学習する際、間接指導時の学習を主体的に進められるように、意図を持ってリーダー中心の学習形態を仕組んでいる。

## 3. 単元の目標

数量の関係に着目し、わり算の計算の仕方を考えたり、計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに、わり算の筆算の仕方やわり算の性質を活用して、計算を工夫したり、生活や学習に活用しようとする態度を養う。

### 〈知識・技能〉

- ・除法の計算が確実にでき、それを適切に用いることができる。
- ・ $(被乗数) = (除数) \times (商) + (余り)$ という関係を理解することができる。
- ・除法に関して成り立つ性質を理解することができる。

### 〈思考力・判断力・表現力〉

- ・1桁でわるわり算をもとに2桁でわるわり算の筆算の仕方を考える。
- ・見当づけた商の修正の仕方を考える。

### 〈主体的に学習に取り組む態度〉

- ・既習事項を用いて、わり算の筆算の仕方を進んで考えている。
- ・わり算の性質を活用して計算を工夫し、生活や学習に活かそうとしている。



4. 指導計画（12時間扱い）

時	○は主な学習活動 (★はリーダー学習 ICTはICTの活用)	主な評価規準
1	<p>○10の個数に着目して、(何十)÷(何十)の計算を行う。</p> <p>★全体交流・授業進行</p> <p>ICT10円玉の図を操作して、(何十)でわって商が1桁で余りのない計算の仕方を交流する。</p> <p>(Jamboard)</p>	<p>【思・判・表】</p> <p>10円玉の図を使って、<math>80 \div 20</math>の計算の仕方を考えている。</p> <p>(Jamboard・発表)</p> <p>【知・技】</p> <p>◎(何十)でわるわり算ができる。</p> <p>(ノート・ドリル)</p>
2	<p>○(何十)でわって、商が1桁になるわり算(余りあり)の仕方を考える。</p> <p>○求めた答えに対して、(商)×(除数)+(余り)=(被除数)により確かめを行う。</p> <p>★全体交流・授業進行</p> <p>ICT10円玉の図を操作して、(何十)でわって商が1桁で余りがある計算の仕方を交流する。</p> <p>(Jamboard)</p>	<p>【思・判・表】</p> <p>◎10を単位として、(何十)でわって、余りのあるわり算の仕方を考えたり説明したりしている。</p> <p>(Jam・発表)</p> <p>【知・技】</p> <p>(何十)でわって、余りのあるわり算ができる。(ノート・ドリル)</p>
3	<p>○(2桁)÷(2桁)による筆算を行う。</p> <p>★全体交流・授業進行</p> <p>ICT図や言葉を使って、2桁のわり算の筆算の仕方を考え、説明する。(Jamboard)</p>	<p>【知・技】</p> <p>(2桁)÷(2桁)の筆算の仕方を理解し、筆算で計算できる。(ノート・ドリル)</p>
4 本 時	<p>○(3桁)÷(2桁)で、商が1桁になる筆算の仕方を考え、計算を行う。</p> <p>★全体交流・授業進行</p> <p>ICT(3桁)÷(2桁)の筆算の仕方を説明し、交流する。(Jamboard)</p>	<p>【思・判・表】</p> <p>◎(2桁)÷(2桁)の筆算の仕方をもとに、(3桁)÷(2桁)の計算の仕方を考えたり、説明したりしている。(観察・Jam)</p> <p>【知・技】</p> <p>(3桁)÷(2桁)の筆算の仕方を理解し、筆算で計算することができる。(ノート・ドリル)</p>
5	<p>○(3桁)÷(2桁)で、商が1桁で余りのある筆算の計算を行う。</p> <p>★全体交流・答え合わせ</p> <p>ICT(3桁)÷(2桁)で、商が1桁になる筆算の演習を行う。(デジタルドリル)</p>	<p>【知・技】</p> <p>(3桁)÷(2桁)で余りのある筆算の仕方を理解し、計算することができる。(ノート・ドリル)</p>

6	<p>○(3桁)÷(2桁)で商が1桁になる筆算で、余りのある場合仮商の修正を行い、わり算を行う。</p> <p>★全体交流</p> <p>ICT 仮商の見つけ方と、修正の仕方を交流する。</p> <p>(Jamboard)</p> <p>習熟問題に取り組む。(デジタルドリル)</p>	<p>【思・判・表】</p> <p>◎見当づけた商が大きすぎることに気づき、その修正の仕方を、考えたり説明したりしている。(Jam・発言)</p> <p>【知・技】</p> <p>仮商の修正の仕方を理解し、筆算で計算することができる。</p> <p>(ノート・ドリル)</p>
7	<p>○(3桁)÷(2桁)で、商が2桁になる筆算の仕方を考え、わり算を行う。</p> <p>★授業進行・全体交流</p> <p>ICT 3桁÷2桁で、商が2桁になる筆算の練習</p> <p>(デジタルドリル)</p>	<p>【思・判・表】</p> <p>手隠し法に合わせて、筆算の手順を説明している。(Jam・発言)</p> <p>【知・技】</p> <p>◎商が2桁になる(3桁)÷(2桁)の筆算の仕方を理解し、筆算で計算することができる。</p> <p>(発表・ドリル)</p>
8	<p>○(3桁)÷(2桁)の筆算の仕方をもとに、(4桁)÷(2桁)、(4桁)÷(3桁)の筆算をする。★授業進行・全体交流</p> <p>ICT 既習事項をもとに、(4桁)÷(2桁)、(4桁)÷(3桁)の筆算の仕方を考え、交流する。(Jamboard)</p>	<p>【態度】</p> <p>◎(3桁)÷(2桁)の筆算の仕方をもとに、(4桁)÷(2桁)、(4桁)÷(3桁)の筆算の仕方を考えようとしている。(Jam・観察)</p> <p>【知・技】</p> <p>商の立つ位置に気を付けて、筆算で正しく計算できる。(ノート・ドリル)</p>
9	<p>○練習問題を行う。</p> <p>★答え合わせ</p> <p>ICT 練習問題に取り組む。(デジタル教科書)</p>	<p>【知・技】</p> <p>これまでの学習内容を確実に身に付けている。(ノート)</p>
10	<p>○商が等しいわり算の計算を比べて、わり算の性質を使って工夫した計算の仕方を考える。</p> <p>★授業進行・全体交流</p> <p>ICT お金の図を使って、商が同じになるわけを説明しあう。(Jamboard)</p>	<p>【思・判・表】</p> <p>◎数のまとまりや関係に着目して、商が等しいわけを考えたり、説明したりしている。(発言・Jam)</p> <p>【知・技】</p> <p>わり算の性質を理解し、計算を工夫することができる。(ノート・ドリル)</p>
11	<p>○わり算の性質を活用して、工夫して計算を行う。</p> <p>★授業進行・全体交流</p> <p>ICT 6500÷250の計算をわり算の性質を使って、計算しやすくする工夫を考え、説明する。(Jamboard)</p>	<p>【思・判・表】</p> <p>わり算の性質を使った計算の工夫の仕方を考えたり、説明したりしている。(Jam・発言)</p>

12	<p>○わり算の筆算のまとめを行う。</p> <p>★答え合わせ</p> <p>ICT学びのまとめに取り組む。</p> <p style="text-align: right;">(デジタル教科書)</p>	<p>【知・技】</p> <p>(3桁) ÷ (2桁) で、商が1桁や、2桁になる筆算ができる。</p> <p style="text-align: right;">(ノート)</p>
----	---	--

5. 本時案

(1) 本時の目標

【思・判・表】◎ (2桁) ÷ (2桁) の筆算の仕方をもとに、(3桁) ÷ (2桁) の計算の仕方を考えたり、説明したりしている。

【知・技】(3桁) ÷ (2桁) の筆算の仕方を理解し、筆算で計算することができる。

(2) 本時の展開

時	<p>○は主な学習活動 (★はリーダー学習)</p> <p>・は予想される児童の反応</p>	<p>配慮事項</p> <p>ICTはICTの活用</p>
つかむ	<p>○問題把握</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>色紙が175枚あります。35人に同じ数ずつ配ると、1人分は何枚になりますか。</p> </div>	<p>ICTデジタル教科書で問題を投影</p>
7分	<p>★問題文を読ませ、大事な数字、聞かれていること、キーワードを確認し「同じ数ずつ配る」からわり算になることをとらえ、立式させる。</p> <p>★式と答えをノートに書かせ、今までと違うところを考えさせる。</p> <p>・「3桁になっている。」</p> <p>・「100の位がある。」</p> <p>★今までとの違いから、課題を考えさせる。</p>	<p>既習事項との比較</p> <p>96 ÷ 32 を提示</p>
見通す	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>Ⓢ (3けた) ÷ (2けた) の筆算の仕方を考え</p> </div> <p>○課題把握</p> <p>★みんなで課題を読み、ノートに課題を書かせる。</p> <p>○既習事項の確認。</p>	
3分	<p>・「(3桁) ÷ (1桁) の計算が使いそう。」</p> <p>・「(2桁) ÷ (2桁) の計算が使いそう。」</p> <p>・「手かくし法で計算できそう。」</p> <p>○手かくし法を使って、どのくらいから商がたつかを予想させる。</p>	
自力解決	<p>★自力解決の時間を伝え、自力解決に取り組ませる。(8分)</p> <p>★筆算の式を書き、どのように解いていくかをJamboardのシートにそれぞれ説明させる。</p> <p>★8分経過後、延長の有無を確認し、必要なら3分延長する。延長の必要がなければ、グループ交流するように指示する。(4分)</p>	<p>ICTJamboardに筆算の仕方の説明を書く。</p> <p>3分経過後、友だちのシートを参考にしたり、ヒントカードを確認したりするよ</p>

分	○集団解決に移る。	うに伝える。 児童の交流進捗の確認 ICTJamboard の画面を通して、グループで考えを交流する。
集団解決5分	<p>★考えたことを、全体で交流させる。</p> <p>★指名し、発表させる。</p> <p>・「(2桁) ÷ (2桁) の計算と同じように、商の見当をたてて、計算する。」</p> <p>・「手かくし法で、商がたつ位を考え、計算する。」</p> <p>・「商は1の位にたつ。」</p>	【思・判・表】 (2桁) ÷ (2桁) の筆算の仕方をもとに、(3桁) ÷ (2桁) の計算の仕方を考えたり、説明したりしている。
まとめ	<p>○ (3桁) ÷ (2桁) の筆算の仕方を理解する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>㊦ (3けた) ÷ (2けた) の筆算も。(2けた) ÷ (2けた)</p> </div> <p>○学習のまとめをする。</p> <p>1 ・まとめを読み、ノートに書く。</p> <p>7 ○適応問題に取り組む。 (教科書 P110 の㊦の問題で練習に取り組む。)</p> <p>★適応問題の答え合わせを行う。</p> <p>○(時間が余れば) デジタルドリルの問題に取り組む。</p> <p>○学習の振り返り (スプレッドシートによる振り返り)</p>	【知・技】 (3桁) ÷ (2桁) の筆算の仕方を理解し、筆算で計算することができる。 (ノート・デジタルドリル) ICTデジタル教科書で答え合わせ(板書に変更する可能性あり) ICTデジタルドリルの取り組み ICTスプレッドシートによる、自己評価の積み重ね。

## 6. 板書計画

9 / 14 | 2けたでわるわり算の筆算

P 1 2 1

**問**

色紙が175枚あります。35人に同じ数ずつ配ると、1人分は何枚になりますか。

式)  $175 \div 35 = 5$

答え) 5枚

**課**

(3けた) ÷ (2けた) の筆算の仕方を考えよう。

見通し

- ・習ったことを使う。
- ・(2けた) ÷ (2けた) と同じ方法を使う。
- ・手かくし法を使う。

$$\begin{array}{r} 3 \overline{) 175} \\ \underline{105} \phantom{0} \\ 70 \phantom{0} \\ \underline{70} \phantom{0} \\ 0 \phantom{0} \end{array}$$

~~$$\begin{array}{r} 3 \overline{) 175} \\ \underline{35} \phantom{0} \\ 35 \phantom{0} \\ \underline{35} \phantom{0} \\ 0 \phantom{0} \end{array}$$~~

ま と

(3けた) ÷ (2けた) の筆算も。(2けた) ÷ (2けた) の筆算と同じように計算することができる。

△ ①  $31 \overline{) 124}$       ②  $54 \overline{) 486}$       ③  $55 \overline{) 110}$

## 8 研究協議

### 授業者から

(3年：佐々木教諭)

#### ○ICT

- ・タブレットの使用～入力に慣れておらず、時間オーバーしてしまい、適用問題、振り返りまで行けなかった。
- ・振り返り～数値で評価、何ができるようになったかわかったかを具体的に記述させている。
- ・45分をどう使うか考えることが大切。

#### ○その他

- ・子どもたちは見通しを持ちながら参加していた。

(4年：吉村教諭)

#### ○ICT

- ・Jamboardでは、これまで図などを使って考え方の交流に使うことが多かった。今日の筆算の仕方の学習では、昨日やったこと以外になんとか説明できないかと考えてしまっていた。

#### ○リーダー学習

- ・リーダーは順番でやっている。
- ・進行表は、学習内容によっていくつかのパターンがあるが、今日だけのオリジナルカードを作ったがために、子どもがいつもと違うことに対応しようとして、いつも通りに進められなかったところがある。

#### ○その他

- ・1時間の内容としては、課題解決に時間がかかりすぎた。
- ・終了時刻が迫ったが、見ていただきたいという思いから途中で切らずに、最後入れ込んでしまった～子どもたちの理解が十分でなかったところも…？適応問題は解けていた。

### 助言者講評

(北海道へき地複式教育研究連盟 研究推進委員 音更町立東士幌小学校長：増田覚様)

#### ○リーダー学習

- ・個別最適な学びを作るために、指導の個別化が必要。
- ・指導の個別化とは ～子どもが選択できる指導環境をつくる。
- ・「自分で興味関心のある学習を行い、自分にあったアウトプットをする」

#### ○自主的・主体的学習

- ・自主的・主体的学習とは、自分で学習課題を見つけ、自分で手段や方法を選んで課題を解決できること



- ・個々によって方法はいろいろあるが、次のときにできるのか、最終的にどうなりたいのかと考えることが大切。
- ・今日は、算数的思考を鍛える目当て、学習のまとめを、子どもたちの言葉から組み立てていたのが良かった。

(北海道教育庁胆振教育局 義務教育指導班主任指導主事：中脇尚子様)

#### ○ICT を活用した授業改善

- ・試行錯誤しながら考えを整理していた。
- ・自身の困り感を元に課題解決の手立てを探し、主体的に取り組んでいた。
- ・スプレッドシートの振り返り
  - ～教師からの把握が手軽であり、授業改善につなげられる。
  - 単元の振り返りを1シートにまとめるよさがある。(以前のものと比較できる)
- ・学校の組織的取組として ICT の活用を改善している～単元計画に活用場面を明記
- ・文科省 ICT 活用の教科シリーズ
  - ～ICT は、算数の論理を理解させるために活用すること
  - ～授業のどの場面にどんな活用方法があるかが示されている：メリットと注意事項
- ・今後への改善策
  - ・わからなかった子～友達の話は何度か聞く場面を作り、その子の言葉で再現させる場面を作る
  - ・わかっていた子～自分と違う考えから共通する部分を見つけさせる

#### ○リーダー学習を活用した協働的な学びの充実

- ・他者に伝えることで考えを整理していた
- ・他者の考えを聞くことで新たな考えに気づいていた
- ・数学的な結果を日常生活の問題場面に照らし合わせて判断していた
- ・授業を通して人と人を結びつけるような心理的安全性を持てる学級経営ができていた
- ・今後への改善策
  - 交流できなかつた子～各教科において協働的に学ぶよさを実感させること
  - 児童のつまずきを算数(または国語など他教科)の視点で把握すること
  - 児童の姿でゴールを描くこと～どんな問題が解ければよいか
  - どんな言葉で説明できたらよいか

【全体協議より】

## 9 成果と課題

### 【討議の柱】

- ① ICTの活用により、児童の学習活動が効果的に進められていたか。
- ② リーダー学習を取り入れることで、児童が意欲的に学習できていたか。

### ①「ICTの活用により、児童の学習活動が効果的に進められていたか。」について

#### 成果

#### ○Jamboardの活用

- ・図やグラフなどの思考ツールとして有効。
- ・複式になっても、自分たちで学習を進められる。
- ・低位の児童（特別支援が必要な子）にも対応できれば、視覚的な支援になり、共有については大変有効である。
- ・子どもが自分の考えを表現するのに使い勝手がよいツール。友達の考えを参照させるにも、教師側が末尾にヒントを用意しておくこともできる。
- ・児童が自力解決で困ったときに、自分のタイミングで友達の考えを見て参考にできる。
- ・ノートを回収しなくても全員の思考を確認することができ、教師も全体解決の場で取り上げやすい。
- ・全体解決のときに同じ画面を見ながら交流でき、友達の考えを共有しやすい。ポインターなど使いながら説明する力が育つ。
- ・説明しながらリアルタイムで計算の仕方を書いたり、ポインターで示したりしたことで、聞いている側がわかりやすい。
- ・Jamboardのファイルはシンプルなものだった。教師の準備が簡単にできると、継続して日常的に使いやすい。

#### ○スプレッドシートによる振り返りの活用

- ・単元を通した振り返りを残し、自分でも振り返ることができるところが良い。
- ・低学年でも簡単に活用することができる。
- ・振り返りを、グラフなどで振り返ることもでき、励みにもつながる。また教師としては、次の授業づくりに活かすこともできる。
- ・教師が事前に児童の反応や躓きを予想して、より効果的なものを準備することができる。

#### ○その他（ICT活用など授業全般に関わって）

- ・机横に取り付けているタブレット入れは、一旦よせておいて机の上を整理するのに有効。
- ・小中連携につながると思う。
- ・ICTをうまく利用することで、タイムマネジメントができる。

## 課題

### ○Jamboard の活用

- 説明には良いが、多様な思考を生むだろうか。
- 複式になった場合、2学年分の準備を毎回するのは大変なので、Jamboard のデータなど蓄積できるものは蓄積しておくとのよいのでは。
- 自分の思考の足跡が手元に残らない。（データとしては残るが、振り返りには便利とは言えない）
- 学習の振り返りに使えるのは、ICT なのかノートなのか考えることがある。どちらもメリットデメリットがあるのでベストミックスを探りたい。
- 現在は考えを交流する場面で Jamboard を使っているが、いずれ Jamboard を本時のまとめや、ノートに残すまとめに使うことがあるかもしれない。
- 説明をするという意味では、ノートでも Jam でも、選択できたほうがよいのではないだろうか。
- タブレットを使うか、ノートを使うか、その内容その児童によって、選択していけるような授業づくりが大切である。
- Jamboard に用意しすぎていたのではないか（3年）。なぜ8ではなく9になるのかを考えさせるには、もう少し操作させて（最初から9脚と伝えず、いくつかを考えながら椅子の数分くらせるとか）もよかったのではと考える。
- 4年生は逆に Jamboard 上に考えるためのヒントが足りなかったのではないか。

### ○スプレッドシートによる振り返りの活用

- スプレッドシートの記入には時間がかかる。
- せっかく書いた考えを消してしまう。
- 自己肯定が低い児童は、低くつける傾向がある。
- 発達段階に応じて、Jamboard での振り返りもできるのではないか。

### ○その他（ICT 活用など授業全般に関わって）

- 活用場面の選別、つまり、どのタイミングで、どのように使用すれば良いのか常に検証しなければならない。児童の思考をより促すために、ICT なのかノートなのか、調べ学習では本なのかネットなのかを選択できるように、発達段階に応じてノート指導を定着させたり、情報活用能力を身につけさせたりすることが大切。
- 児童がたくさん思考をしていたため、技術論理で終わってしまうのがもったいなかった。
- 操作にやっぱり時間がかかる。
- 先生が説明している間にも触っている子もいた。
- デジタル教科書を全体共有することで、時間短縮することもできたかもしれない。
- 特別支援での活用は、プログラミング的な内容で行ったりしている。Meet なども使っている。
- 書字障害をもつ児童への支援として、タブレットがもっと活用できるようにしたいところ。

## (充実させる方策)

- Jamboard も児童の学習の助けになるように活用したい（補助プリントと立ち位置は変わらない）
- 入力に時間がかかる児童には音声入力を使うようにする。ローマ字入力のカもつけていきたい。
- 子どもたちが楽しんで活用できるようなアプリなども、もっと充実させていきたい。

## ② リーダー学習を取り入れることで、児童が意欲的に学習できていたか。

### 成果

- 主体的に学ぶ学習モードにつながっていた。
- 回数を重ねており、とても馴れている様子だった。
- リーダーに先生の役割を移管することで、教師が子どもの様子を看取る余裕が生まれている。
- 指導者が余裕を持って児童の支援に当たることができる。過剰な支援をしないで済む。
- 系統的にリーダー学習を進めているところがよい。
- 前に出て授業を進める体験は、児童の自信にもつながる。
- 学習リーダーが解決への見通しを持って学習を進めていくことで、自分たちで学習を進めていけるという意欲と自信がわく。
- 子どもが主体になって、学習リーダーを務める経験が意欲と自信をもつことにつながる。
- 学習の流れ、パターンを捉えることにつながるので、見通しをもつことにもなる。
- リーダーに進行をさせながら、教師の言葉によって良いところやポイントとなるところを伝えられる。
- 大きい学校でも、全体進行だけではなく、学習グループの中でリーダーを生かして学習することで主体的に学習が進んでいくと感じた。
- シナリオがあることで、不安なく進めることができていた。
- 複式になっても、すぐに対応できそうだった。

### 課題

- リーダー以外の子も主体的になれるようにする必要がある。
- 活動や時間が固定されていて、多様な学び方ができる幅が少なかった。もし幅があれば、児童同士の練り合い、伝え合いなども行われたかもしれない。
- 最終的にどのようなリーダー学習にしたいのか、イメージを持つことが必要である。
- 児童が主体的に進められる分、どこで教師が介入し思考を促すことができるのかを検討することで更にリーダー学習を活用できる。
- 児童に指示を出すタイミングは、学習リーダーであっても難しい。教師がファシリテーターとして進めていく部分が大事だと思う。
- 児童の実態によっては定着に時間がかかる。リーダー学習をすることでタイムロスになることもある。
- シナリオづくりの難しさがある。

- リーダーの負担はないのだろうか。自分の考えを深める時間が少なくなるのではないかと  
いう懸念がある。
- 考えさせる場面では、リーダーをどう役割させるかが難しい面があるだろう、兼ね合いが  
大切ではないか。
- リーダーにまとめまで進めさせるようにしていけたらよいのではないか。
- 「リーダー学習の手引き」を元に取り組むことで学習の進行をガイドできるようにはな  
るが、リーダー中心の学習へとどのように発展させていくのかは今後の課題であると思  
う。ガイドも理科・算数では比較的可能だが、他教科では難しい。
- 時間配分の課題。問題把握に力を入れすぎたり、リーダーの説明に先生が補足したりする  
ことで、適応問題や振り返りに入れなかったのではないか。

#### （充実させる方策）

- 今後も積み重ねていくことでリーダー学習を身につけていくことができる。
- リーダー以外の児童も主体的になれるよう、教師がリーダーの進行と児童の思考を上手く  
結びつけるようにする。
- リーダーを中心に児童に任せる部分と、教師が進める部分とを明確にする。
- リーダーの活用の仕方は十分主体的に学ぶ雰囲気や育まれているので、リーダーに担わせ  
すぎないように、教師との兼ね合いを考えるようにする。
- 色々な学び方ができるような、一人ひとりが学習を自己調整できるような幅もあるとい  
い。

#### その他（授業の進め方や協議中の意見）

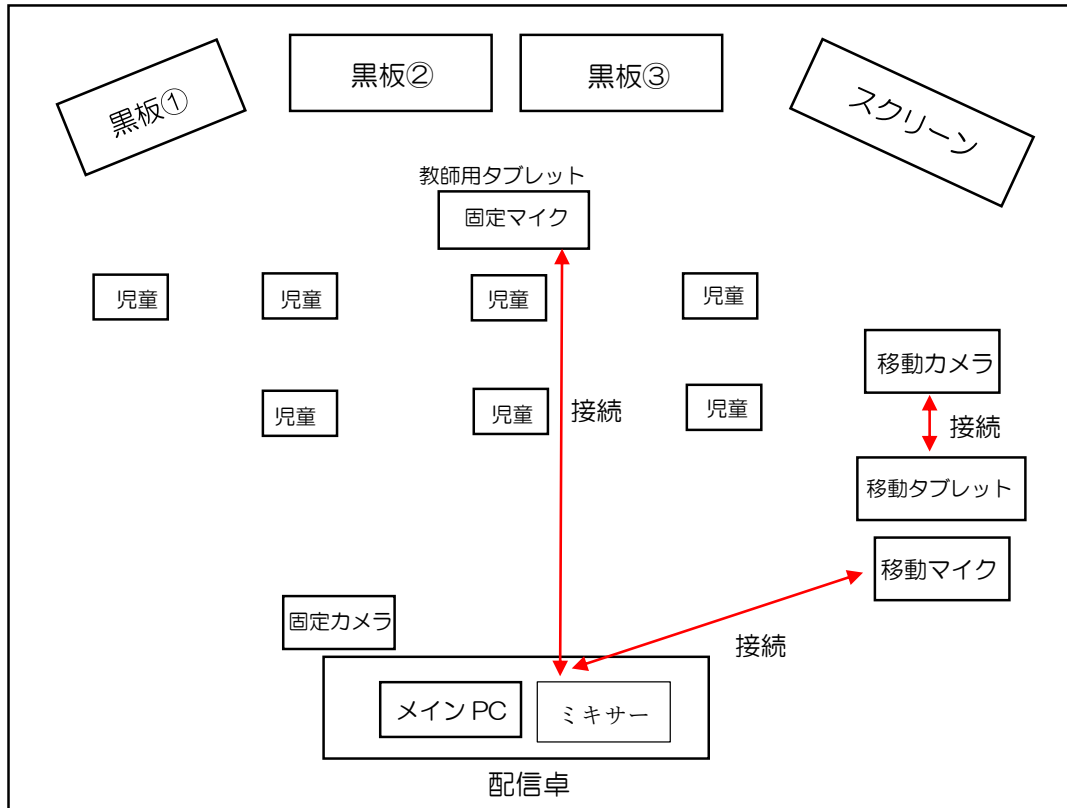
- 教科書ノートは使いかたによっては、問題や図が最初から記載されているので便利であ  
る。しかし、使い方が制限されるところもあるので、使い分けるときもある。
- リーダーの指示していた「キーワードの確認」の「キーワード」は何を指していたのか。  
数字と問いの文を押さえただけで、問題の題意を捉えたことになるのだろうか。題意を捉  
えて立式するとはどういうことなのか明確にする必要がある。
- めあてとまとめの整合性。また、まとめが概念をおさえて汎用性のあるものになっている  
のか疑問を感じた。
- 授業の展開云々だけでなく ICT の活用も考える 2 段階の協議は複雑に感じた。
- 胆振の中でも地域によって、端末が違ったり、アプリが共有できなかつたりする。地域差  
もあるし、転勤のたびに操作が違って、大変である。情報共有が必須なのではないか。
- 特別支援学級の中で、どのように端末に親しませていくか、使えるように支えていくか、  
課題もある。諦めないで、こつこつと積み重ねていくことも必要だと感じた。



令和5年度 洞爺湖町立とうや小学校配信状況

(1) 配信図

【体育館】3・4年生共通（下図は4年生）



(2) 詳細 (Zoom2画面配信)

① 配信卓



• 接続状況

【接続①】

メイン PC の USB 端子にキャプチャーボードを接続

【接続②】

キャプチャーボードの HDMI 端子からビデオカメラを接続  
(ビデオカメラはミニ HDMI 端子)

【接続③】

メイン PC の USB 端子または C 端子からライブストリーミングミキサーを接続

【接続④】

メイン PC の HDMI 端子からモニターを接続

②メイン PC

○使用ソフト

- OBS Studio(オービーエススタジオ)～ストリーミング配信・録画ソフトウェア～  
⇒固定カメラ映像と教師用端末映像を切り替えて映すため OBS を使用



アイコン



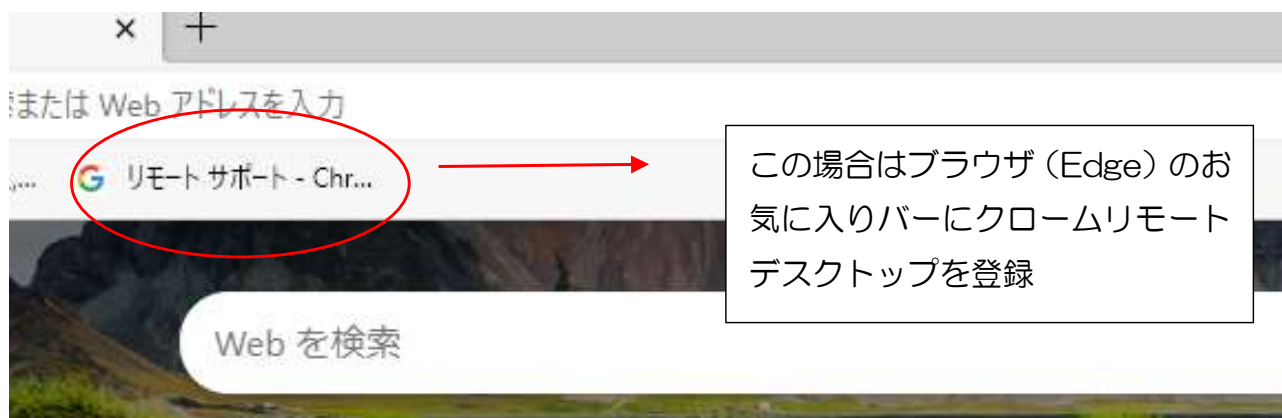
メイン画面



固定カメラ画面映像

(この枠内映像が Zoom の画面に映ります)

- 教師用タブレットとの画面共有について
  - ・クロームリモートデスクトップを使用



### この画面を共有

他のユーザーがこのパソコンにアクセスして管理できるようにするには、ダウンロード ボタンをクリックします。

リモートのデバイス

### 別のパソコンに接続

リモートで別のパソコンにアクセスするには、受け取ったワンタイム アクセスコードを入力します。

アクセスコード

サポート依頼者は、あなたのメールアドレスと接続に必要なその他の情報 (IP アドレスなど) にアクセスできます。

ダウンロード

クロームリモートデスクトップ起動後、別のパソコンに接続のアクセスコード欄に教師用タブレットでアクセスコードを生成し(後述)、この欄に入力。



OBS の詳しい使用方法は省略しますが、教師用タブレットと共有可能になると教師用タブレットの映像を映し出すことができます。固定カメラ映像と教師用タブレット映像を任意のタイミングで切り替えることが可能。

(ワンタッチ)

### ③ストリーミングミキサー

- 固定マイクと移動マイクを切り替えて使用するためミキサーを使用  
今回は端子①に固定マイク、端子②に移動マイクを接続



マイク端子①  
(有線接続)

マイク端子②  
(有線接続)

### ④固定マイク (教師と児童の間に設置)



幅広く声を拾うことができる

⑤移動マイク（後方の児童が発表する時などに使用）



AD スタイルで移動

⑥デュアルモニタ

- OBS の画面と Zoom の画面を一台の PC で把握することが難しいため外付けモニタを使用。

⑦移動タブレット及びカメラ

予備の chromebook を使用。（Zoom 接続時はオーディオ接続 OFF）  
chromebook の USB 端子にキャプチャーボードを接続。  
キャプチャーボード（HDMI 端子）とビデオカメラ（ミニ HDMI）を接続。



移動カメラ専用バック（市販バック改造）

ビデオカメラ



chromebook  
収納



### ⑧教師用 chromebook

- 画面共有について

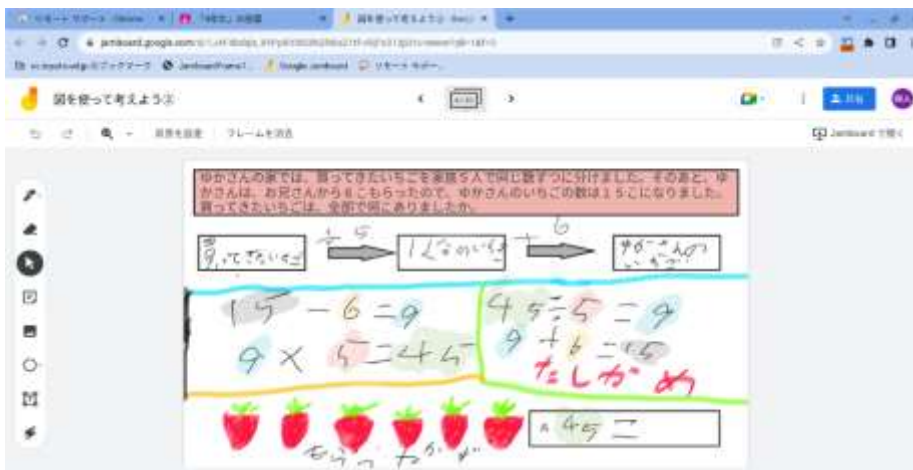
基本的な操作はメイン PC と同様ですが、コード生成をクリック



コードが生成されたら番号をメイン PC のアクセスコード欄に入力



教師用タブレット端末側で共有を許可すると共有が開始されます



この画面がメイン PC 上にも投影されます

- 画面共有時の注意事項  
別添資料参照・・・へき複研究大会に向けた画面共有について（授業者用）
- 運用面での課題  
当日の配信時、児童が一斉にタブレットを開いたときに共有が切れる場面や練習時、ふとした時に急に切れる場面があった。再接続で対応した。  
現時点で、原因や対処方法は不明。

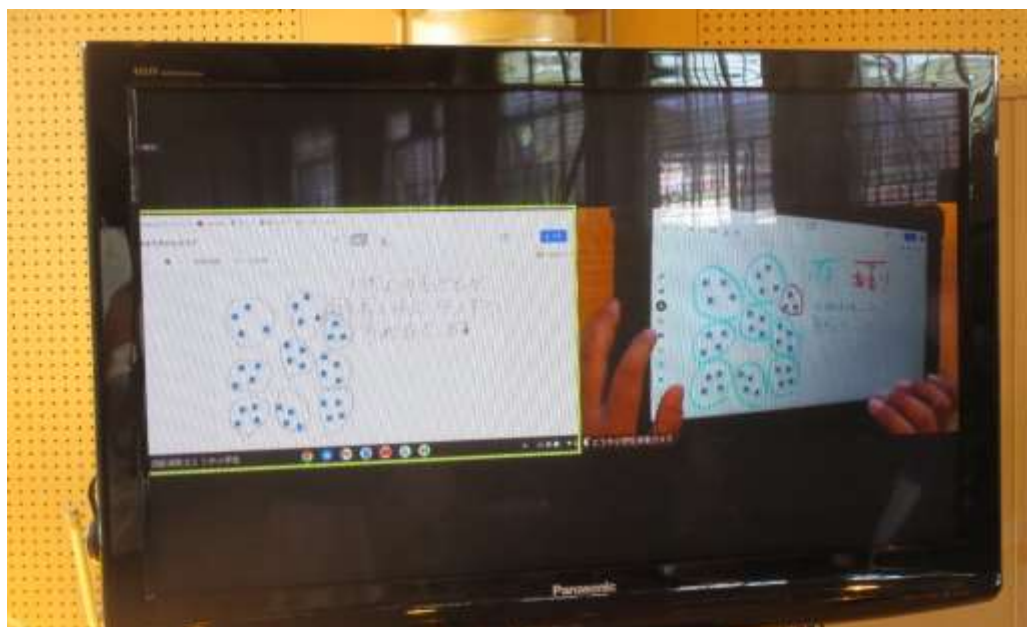
### ⑨ スクリーン

- 当初はテレビ使用を予定していたが、画面が小さいため変更

用途① 授業者用端末の映像を chromecast で投影。

用途② 授業者用デジタル教科書の映像を投影。

### (3) Zoom 画面



実際の Zoom 画面の様子。左がメイン PC の固定カメラ。右が移動カメラ。  
この写真では左のメイン PC は教師用タブレットの共有画面。

(4) 配信用機材

機材名	価格	備考
キャプチャーボード Cam Link 4K (メインPC⇔固定ビデオカメラ接続用)	22,000円 (令和2年購入)	
キャプチャーボード I-O DATA GV-HUVC/S (移動カメラ用端末⇔移動ビデオカメラ接続用)	19,800円 (令和3年購入)	
固定マイク Audio-Technica AT2050 (コンデンサーマイク)	28,380円 (令和4年購入)	
移動マイク Audio-Technica AT2020 (コンデンサーマイク)	12,980円 (令和4年購入)	
ストリーミングミキサー YAMAHA AG06 MK2	27,500円 (令和4年購入)	

※ビデオカメラ2台は外部マイク端子無しの普通のビデオカメラです。

# 第2分科会

【研究主題】

「未来を創る児童生徒の育成」

～少人数・複式学級におけるコミュニケーション力の向上を通して～



伊達市立大滝徳舜瞥学校



## 授業の様子

### 【公開授業1：第5学年 外国語】



### 【公開授業2：第5・6学年 国語】





# 研究の概要

## 1 研究主題

「未来を創る児童生徒の育成」  
～少人数・複式学級におけるコミュニケーション力の向上を通して～

## 2 研究主題設定の理由

令和 3 年度までの 3 年間の研修を通して、「聞き方や話し方、授業の流れなどの学習スタイルの定着が、児童生徒の主体的な学びにつながった」という成果がある一方、「複式学級での指導や学力差を考慮し学びを深める指導や交流の仕方」、「発達段階による指示や発問の言葉選び、反応を深める教師の声掛け」等の指導力向上に関する課題の他、「少人数や複式学級での話し合いの深まり」、「自分の考えとの違いに気付き言語化し伝えること」等の児童生徒に身に付けさせたい力に関する課題が残った。

また、児童生徒に行ったアンケートでは、インプットの領域である「読むこと」「聞くこと」に比べ、アウトプットの領域である「話すこと」「書くこと」に苦手意識を感じていること、伊達市学力テストの分析結果や教師側のアンケートでは、主体性・言語力・発信力といったコミュニケーション力に課題がある児童生徒が多いという実態が明らかになった。

文部科学省によると、コミュニケーション能力とは「話す・聞く・書く・読む」といった言語活動のほか、非言語による伝達手段(イメージ、音、身体)も含めた広範な活動に関わるものとしており、そのため、「コミュニケーション能力」の向上には、言語能力のほか、非言語能力の向上も必要であるとされている。

また、平成 28 年中教審答申には 2030 年の社会と子どもたちの未来について記載されており、その答申を受けて改訂された現在の学習指導要領の前文には、育成を目指す児童生徒の姿について、次のように記載している。

『これからの学校には、(略)一人一人の児童(生徒)が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協同しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。』

この育成を目指す児童生徒像を、本校では「未来を創る児童生徒」と定義し、その育成のためには、少人数・複式学級におけるコミュニケーション力の向上が重要であると考え、令和 4 年度より本研究をスタートさせた。

## 3 道へき複第 10 次長期5か年計画研究推進計画との関連

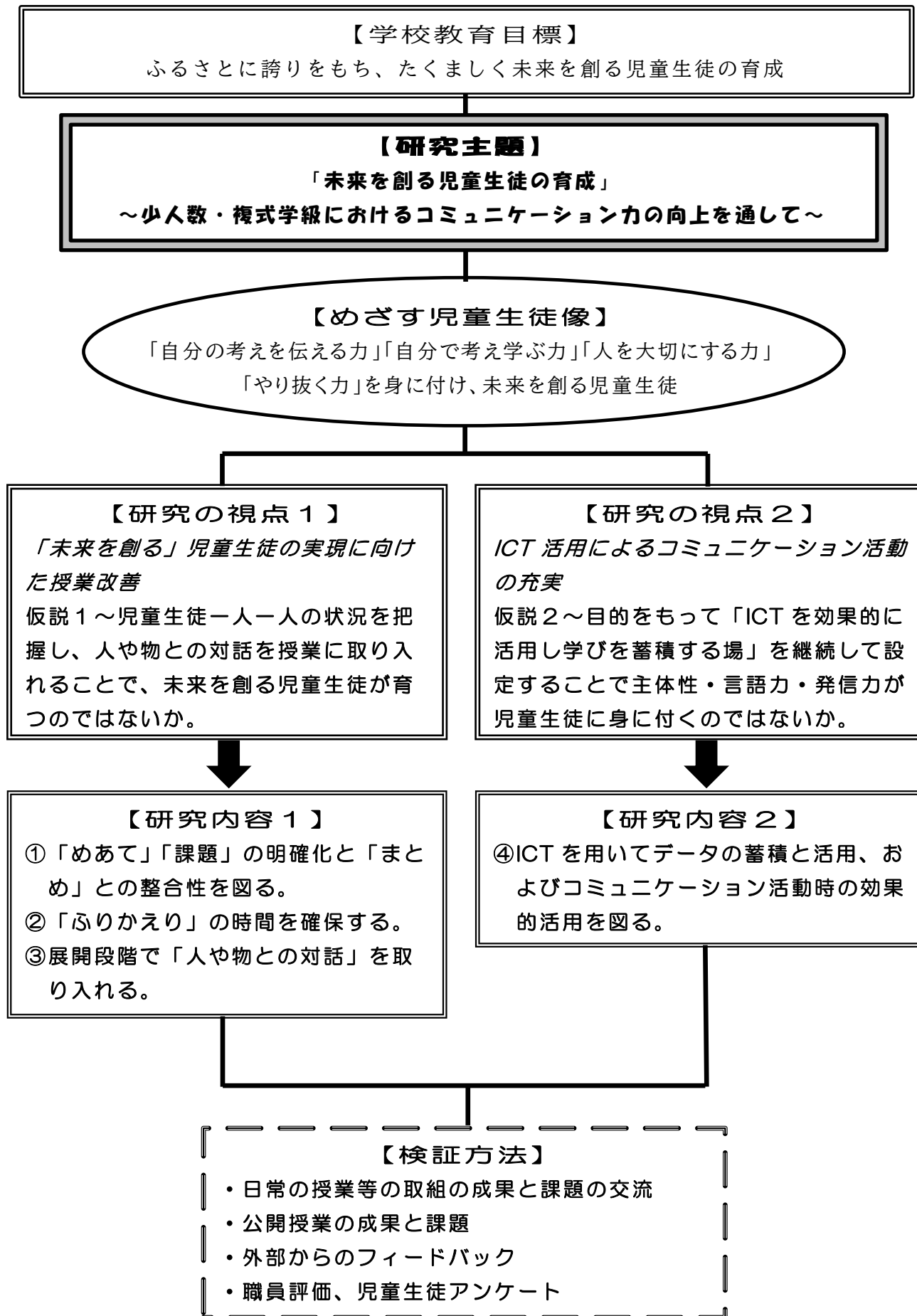
### I「学校・学級経営の深化・充実」

- 1 確かな経営理念の確立と、家庭や地域と連携した確かな学びをつくる特色ある教育課程の創造と推進

### II「学習指導の深化・充実」

- 5 学ぶ意欲を高める指導方法の改善と充実

4 全体構造図



## 5 研究内容

「児童生徒に『自分の考えを伝える力』『自分で考え学ぶ力』『人を大切にする力』『やり抜く力』を身に付けさせることで、未来を創る児童生徒が育つのではないか。」という基本仮説を立て、今年度がスタートした。仮説にある4つの力は、一人一人の「未来を創る力」に必要な資質・能力を育むために必要な力であるとおさえ、

- 自分の考えを伝える力…コミュニケーション力、相手と意思疎通するために必要な力
- 自分で考え学ぶ力…自分を客観的に捉え、意思に従い学ぶ能力、自己調整能力
- 人を大切にする力…周りの人々の気持ちを思いやる力、やさしさ、共感力
- やり抜く力…困難に遭っても挫けずに努力を重ねる情熱や粘り強く取り組む力

これらを児童生徒に身に付けさせたい。

今年度の研修で行うことは、昨年度に引き続き、大きく分けて4つである。「①『めあて』『課題』の明確化と『まとめ』との整合性を図る。」「②『ふりかえり』の時間を確保し、充実を図る。」ともに開校1年目から取り組んできた内容であるが、今年度も、「③展開段階で『人や物との対話』を取り入れる。」を重点1、「④ICTを用いてデータの蓄積と活用、およびコミュニケーション活動時の効果的活用を図る。」を重点2として研究を進めていく。

「研究内容1」「研究内容2」のおさえとしては次のとおりである。

### 【研究の視点1】

「未来を創る」児童生徒の実現に向けた授業改善

### 【仮説1】

児童生徒が学習に見通しをもって授業に臨み、主体的に学習を進め、自身の学びの過程を振り返り、学習の価値を自覚することで、未来を創る児童生徒が育つのではないか。

### 【研究内容1】

- ①「めあて」「課題」の明確化と「まとめ」との整合性を図る。
- ②「ふりかえり」の時間を確保し、充実を図る。
- ③展開段階で「人や物との対話」を取り入れる。

① 「めあて」「課題」の明確化と「まとめ」との整合性を図る。

「めあて(目標)」は、単元の導入段階で児童生徒に示す。単元を通して一つの「めあて(目標)」ということもありえる。単元で何がどのようにできるとよいのか、何が身に付けばよいのかを児童生徒に示すことで、主体的な学習を促す。



「課題」は、本時の導入段階で児童生徒に示す。その時間で何がどのようにできるとよいのか、何が身に付けばよいのかを児童生徒に示すことで、主体的な学習を促す。

「まとめ」は、本時の終末段階で、「課題」に正対する形で児童生徒に示す。児童生徒が本時で学習した内容を言葉などで表現し、まとめる。

②「ふりかえり」の時間を確保し、充実を図る。

「ふりかえり」は、定着・今後の活用の見通しを持たせるために、児童生徒にアウトプットさせる。

○「身に付いたこと」「次に頑張りたいこと」「気付いたこと」「疑問に思ったこと」など児童生徒の言葉で記述させる。

○発達の段階や教科の特性、単元内容などに合わせ「挙手させる」「記号で書かせる」「学んだことが身に付いているかテストし確認する」などの工夫も考えられる。

③展開段階で「人や物との対話」を取り入れる。

展開の段階で、タブレットや付箋・ホワイトボードなどを活用し、自分の考えを自身や他の児童生徒が確認する。

#### 「人や物との対話」で考えられる活動



互いの考えを比較する



多様な手段で説明する



多様な情報を収集する



協働して課題解決する



思考を表現に置き換える



共に考えを創り上げる



先哲の考えを手掛かりとする

#### <物との対話の例>

- ・国語、英語→教材文、図書、新聞
- ・社会→資料、グラフ、地図
- ・算数、数学→ブロック、表、グラフ、式
- ・生活、理科→生き物、資料、グラフ

#### 「対話を通して学びを深める姿」



思考して問い続ける



知識や技能を概念化する



知識・技能を習得する



自分の考えを形成する



知識・技能を活用する



新たなものを創り上げる



人の思いや考えと結び付ける

#### 【研究の視点2】

ICT活用によるコミュニケーション活動の充実

#### 【仮説2】

目的を持って「ICTを効果的に活用し学びを蓄積する場」を継続して設定することで主体性・言語力・発信力が児童生徒に身に付くのではないか。

#### 【研究内容2】

④ICTを用いてデータの継続的蓄積と活用、およびコミュニケーション活動の効果的活用を図る。

④ICTを用いてデータの蓄積とコミュニケーション活動の効果的活用を図る。

単位時間でのICT活用では、導入段階で「前時までの学習履歴（データ）のふりかえりと本時での活用」、展開段階で「学習履歴の保管と活用」「学習履歴の更新（深化・統合・発展）」など、短いスパンで蓄積したデータを活用することが考えられる。また、「人や物との対話」をする時には、昨年まで蓄積してきたデータを1人学級などで活用し、多様な考えを知り、長いスパンで活用することができる。

「ICT活用の場の設定」

- 導入段階 前時までのふりかえり、問題提起
- 展開段階 グループや全体での話し合い活動
- 終末段階 ふりかえり など



たデ  
るな

示  
動

遠隔合同授業においてICTを用いたコミュニケーション活動の効果的な利活用として、一昨年から伊達市立関内小学校と道徳（令和3年度、令和4年度）、外国語活動（令和4年度）、外国語（令和5年度の各教科等）で取り組んできている。また、その中「協働的な学び」の手段として、映像を通しての交流やジャムボードを共有しての発表など、試誤しながら実践を重ねてきた。子どもたちの意欲に交流し合う姿や「ふりかえり」の内容の変容などからも、小規模校ならではの課題でもあるコミュニケーション力の育成や多様な考えに触れながら自分の考えを広げたり深めたりするのにICTを用いたコミュニケーション活動がより効果的であると感じられた。今後も少人数の児童生徒への学びの手段としてICTの利活用が有効であると考えている。



ニケ  
度か  
4年  
年度)  
で  
意見  
行錯  
欲的

今年度は、令和4・5年度における2か年計画の2年目となるが、開校1年目から取り組んできた研究を踏襲しながら、昨年度の反省を受けての取組となる。今まで培ってきた成果と課題を再確認し、コロナウイルスの関係で変化しつつある現状を見つめ、新たに取組むべきことを共有しながら全職員で研究を進めていく。

## 6 成果と課題（ファーストステージ反省を含む）

### ①「めあて」「課題」の明確化と「まとめ」との整合性を図る。

#### 【成果】

- ・「めあて」「課題」の提示により、児童生徒が身につけるべき学習内容を明確化させることができた
- ・全学年を通して、板書の仕方など統一することができた。
- ・「めあて」「課題」の提示をすることによって、児童生徒自身が授業の見通しを持たせて授業を行うことができた。

#### 【課題】

- 主要教科に比べると芸体系授業では意識がうすく、できていないことが多かった。
- 形式の統一、使用する色の統一など、少し先生方により違いがあった。
- 言語活動による課題の提示を行うとともに、問題解決型の課題を多く設定できるとよかった。

### ②「ふりかえり」の時間を確保する。

#### 【成果】

- ・1枚のワークシートに小单元ごとに「ふりかえり」をまとめることで、自分の成長を感じ取れた。
- ・「ふりかえり」の時間に、適用問題に取り組んだり、学習について感じたことを発表したりすることで、学習内容の定着や今後の活用の見通しを持たせることができた。
- ・スクールタクトやドキュメント、スプレッドシート入力による「ふりかえり」を習慣化できた。

#### 【課題】

- 授業の内容によっては、授業時数に対して指導事項・内容が非常に多く、「ふりかえり」の時間まで確保すると、内容が進まない。大单元ごとの「ふりかえり」で精一杯のことも多かった。
- 「ふりかえり」の時間の確保が難しい場面があったため、授業改善を通して時間を生み出せるようにしていく必要がある。



③展開段階で「人や物との対話」を取り入れる。

【成果】

- ・教科によっては、学年を超えての対話を取り入れることができた。
- ・ジャムボードを使ってそれぞれの考えを共有することで、多様な考えを知ることができていた。
- ・コミュニケーション活動を帯活動として毎時間取り組むことで、自分の考えていることを表現する習慣づけを行った。

【課題】

- 1人学級や少人数学級の場合は、同級生との対話の経験が非常に少なくなってしまう。また、多様な意見にも触れにくい。
- 1時間の中に「対話」の時間を十分に保証してあげることがなかなか難しい。
- 自分の考えを対比させたり、受け入れたりすることをしない生徒の場合、ただ聞き流してしまっている場面もあった。

④ICTを用いてデータの蓄積とコミュニケーション活動の効果的活用を図る。

【成果】

- ・作品などの画像データの蓄積は可能だった。前年度分などを参考に考えることもできる。
- ・スクールタクトやジャムボードの活用により、お互いの考えを比較する場面を取り入れることで、書くことを基にしたコミュニケーション活動の充実の一助となった。

【課題】

- データの蓄積と活用について、どのような方法で行い活用するのかを明確にする必要がある。
- ICTの活用場面を選定し、児童生徒にとって効果的に活用できるようにしていく必要がある。
- 端末とノートを目的や利点によってどのように使い分けるか考慮する必要がある。

## 7 指導案

### 外国語科学習指導案

日 時	令和5年9月14日(木)					2校時
児 童	大滝	第5学年	男子2名	女子0名	計2名	
	関内	第5学年	男子3名	女子3名	計2名	
指導者	T1 池田 桂祐					
	T2 Kaden Neil Walters					
	T3 入瀬 嘉子					

#### 1 単元名／教材名

Lesson5 「Where is my treasure?」 宝物への道案内をしよう。

#### 2 単元について

##### (1) 児童生徒観(大滝)

徳舜警学校の児童は、ペア・グループでの活動に対して意欲的に取り組んでいる。ALTとの会話やGoogle Meetを活用したコミュニケーション活動では、分からない表現について自ら繰り返し練習したり、ジェスチャーや簡単な表現を使って相手に懸命に伝えようとする姿勢が日常的に見られる。失敗しても大丈夫だという雰囲気作りが学級内でできているため、間違いを恐れずに自分の気持ちや考えを発信することができる集団である。

学習指導要領解説(3)話すこと(やりとり)「ア 基本的な表現を用いて指示、依頼をしたり、それらに応じたりすることができるようにする。」や「イ 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができるようにする。」についてはこれまでの単元の中で繰り返し取り組んできた。Google Slideといったプレゼンテーションソフトを効果的に活用し、遠隔授業の中で定期的に交流しているため、既習内容は十分に定着していると考えられる。

##### 児童生徒観(関内)

関内小学校の児童は、小グループでの活動に対して意欲的に取り組んでいる。他の学習ではコミュニケーションをとることが苦手な児童も、どうにか英語を話して自分の考えを伝えようと努力している。話す能力、相手の英語を聞き取る能力には個人差はあるが、英語での活動は楽しみながら取り組んでいる。特に、活動の中のゲーム的要素は、6人ともに楽しめている。端末の操作にはだいぶ慣れ、Meetの接続や画面共有などは、スムーズにできるようになった。

学習指導要領解説(3)話すこと(やりとり)「ア 基本的な表現を用いて指示、依頼をしたり、それらに応じたりすることができるようにする。」や「イ 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができるようにする。」についてはこれまでの単元の中で繰り返し取り組んできた。遠隔授業以外は本校のALTと学習を行い、遠隔授業では大滝徳舜警学校の教諭やALT、児童と交流しているため、既習内容は定着していると考えられる。

##### (2) 教材観

本単元では、学習指導要領解説(3)話すこと(やりとり)「ウ 自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問をしたり質問に答えたりして、伝え合うことができるようにする。」ことをねらいとして設定した。単元の目標として「他者に配慮しながら、宝物への道のりやその場所を表現することができる。」としたように、相手に情報を伝えるために必要な表現を理解し、相手意識を持って言語活動を行う必要がある。単元の1時限目で学習に対しての見通しを児童と共有し、足場架けなどの活動を継続して組み込んでいき、単元末で「話すこと(やりとり)」に関する記録に残る評価を行う。「聞くこと」の評価については、目標に向けて指導を行うが、記録に残す評価は行わない。

本単元では、英語を使って簡単な道案内の言い方を学習していく。そのために必要な知識・技能としては、建物や教室名の表現・進む方向を表す表現・位置を表す表現の3種類である。建物や施設の表現については、例えばレストランのように日本語として定着しているものも多い。日本語と英語の発音の違いに気付かせるとともに、社会科で既習した地

図記号と建物や施設を一致させることにより、外国語科と社会科の連携を図り、児童の知的好奇心を高めるようにしたい。

### (3) 指導観

本学年の児童は外国語科の中で2023年4月から継続して伊達市立関内小学校との遠隔授業を行っている。普段は2名の児童とALT、JTEの4名での授業となるが、交流をすることにより、一層充実したコミュニケーションの機会を作ることができる。英語は教科であると同時にコミュニケーションツールである。交流授業を通して、自分の気持ちや考えを簡単な英語で表現しあい、相手に自分が伝えたいことを伝えることができた達成感なども感じることができると考える。

さらに、情報の差を利用した「本物」の場面を生み出すことが可能である。例えば、本学年のLesson1では自己紹介活動を行うことになっている。自己紹介とは本来、自分のことを知らない人に対して行うものであるが、同じ学級の中では、お互いの名前や好きなものなどは当然把握しており、相手のことを知っているものの自己紹介しあうという状況になる。一方で、遠隔授業では普段あまり交流しない人たちとコミュニケーションをとることが可能となる。自分のことを知らない人に対して自己紹介を行うという「本物」の場面の中で言語活動を行うことで、どうすればより分かりやすく相手に英語を伝えることができるのか、児童は工夫を凝らすことができる。そういった課題解決的な授業展開を遠隔授業では容易に生み出すことができる。本単元でも、本物の場面づくりを意識して授業を展開していく。

### 3 単元の指導目標

- ・建物・教室の名前や宝物がある方向や位置について、道案内の言い方を理解し表現することができる。
- ・必要な情報を聞き取り、宝物への道のりやその場所を理解することができる。
- ・他者に配慮しながら、宝物への道のりやその場所を表現することができる。

### 4 単元の評価規準

#### 【知識・技能】

<知識>

建物・教室の名前や宝物がある方向や位置の言い方について、理解している。

<技能>

建物・教室の位置や宝物への道のりについて必要な情報を聞き取る技能を身につけている。

#### 【思考・判断・表現】

他者に配慮しながら、教室の配置や宝物への道のりについて表現することができる。

#### 【主体的に学習に取り組む態度】

他者に配慮しながら、教室の配置や宝物への道のりについて表現しようとしている。

### 5 単元の指導計画（8時間扱い）【本時 3/8】

	○主な学習活動	【領域】評価（評価方法）
1	遠隔授業 ○ALTとの言語活動による単元目標の把握 「自分の学校の中にある宝物を探し出そう」 <課題> 相手に道案内をするためにはどういう表現をするのだろう？ →施設や方向、教室名などの基本的な表現を知る。	【聞くこと】<知識・技能> 建物・教室の名前や宝物がある方向や位置の言い方について、理解しているか (行動記録)
2	○自分の学校の教室などの配置を相手に伝えることができるようにする。 <課題> 関内小学校の学校の中の配置をたずねるためにはどんな表現をすれば良いのだろう？ →施設や方向、教室名などの基本的な表現を習得する。 (使用する表現) Where is the library? Go straight. / Turn right. / Turn left. など	<主体的に学習に取り組む態度> 他者に配慮しながら、自分の学校の教室配置を表現しようとしている。 (Can Do リスト)
3 本時	遠隔授業 ○相手の学校がどのような配置になっているかをコミュニケーションを通して把握する	【話すこと（やりとり）】 <思考・判断・表現> 他者に配慮しながら、自分の学校の教室配置を表現

	<p>&lt;課題&gt; 学校の配置をたずねたり答えるときに、聞き手と話し手はどんなことを意識したら良いだろうか？ →ゆっくり話したり、相づちを打つ必要性に気付く。</p> <p>(言語活動) 教師はお互いの学校の校内図をジャムボードに貼り付けた状態で配布。児童は空白部分を知るために相手に質問し、情報をメモする。 (例) 大滝の児童は関内小学校の校内図をもっており、一部空白になっている。それを関内小学校の児童に質問し、埋めていく。</p>	<p>したり、必要な情報を聞き取ることができているか (ワークシート) &lt;主体的に学習に取り組む態度&gt; 他者に配慮しながら、自分の学校の教室配置を表現しようとしている。 (Can Do リスト)</p>
4	<p>○相手の学校の中にどんな宝物をどこに隠すか考える。 &lt;課題&gt; どこにどんな宝物を隠したら良いだろうか？ →教室名や基本的な英単語を表現する必要性に気付く。</p> <p>・(必要に応じて)イラストの作成 ・大滝は1名につき1つ、関内は2名1グループで1つ、どこに何を隠すかを考える。</p>	<p>&lt;主体的に学習に取り組む態度&gt; 他者に配慮しながら、教室の配置や宝物への道のりについて表現しようとしている。 (Can Do リスト)</p>
5	<p>○自分が隠す宝物の場所を相手に伝えるための表現を練習する &lt;課題&gt; 自分が宝物を隠した場所を案内するには、どんな表現を使えば良いのだろうか？ →1・2校時で習得した表現の必要性に気付く。</p>	<p>&lt;主体的に学習に取り組む態度&gt; 他者に配慮しながら、教室の配置や宝物への道のりについて表現しようとしている。 (Can Do リスト)</p>
6	<p>○自分が隠す宝物の場所を相手に伝えるための表現を練習する &lt;課題&gt; 相手にわかりやすく伝えるためにはどうすれば良いのだろうか？ →ゆっくりはっきりと話すことの重要性に気付く。</p>	<p>&lt;主体的に学習に取り組む態度&gt; 他者に配慮しながら、教室の配置や宝物への道のりについて表現しようとしている。 (Can Do リスト)</p>
7	<p>遠隔授業 ○自分の学校のどこに宝物があるかを相手から聞き取る。 &lt;課題&gt; 自分の学校のどこに宝物が隠されているだろうか？ →やり取りの中で必要な情報を聞き取る。</p>	<p>【話すこと(やりとり)】 &lt;思考・判断・表現&gt; &lt;主体的に学習に取り組む態度&gt; 他者に配慮しながら、宝物への道のりやその場所について表現したり、必要な情報を聞き取ることができているか (ワークシート) &lt;主体的に学習に取り組む態度&gt; 他者に配慮しながら、宝物への道のりを表現しようとしている。 (Can Do リスト)</p>
8	<p>○パフォーマンステスト ・自分が本単元で習得した表現をプレゼンテーションソフトを使用しながら説明し、その映像を記録・蓄積し、その後の学習に生かす。</p>	<p>&lt;思考・判断・表現&gt; &lt;主体的に学習に取り組む態度&gt; 他者に配慮しながら、宝物への道のりやその場所について表現できているか (発表・Can Do リスト)</p>

6 研究に関わって

○「未来を創る」児童生徒の実現に向けた授業改善

本単元では、「自分の学校の中にある宝物を探す」ために必要な情報を得る上で、”Where is ~?” や”Go straight.”などの表現を習得する。児童が学習したくなるような単元目標を設定し、課題を児童自身が解決したいと思うようにさせるねらいがある。児童がワクワクし、「やってみたい」「できるようになりたい」と感じるような課題を設定することは、英語を用いたコミュニケーション能力の向上には必要不可欠だと考える。

そのため、単元目標に向かうまでの1つ1つの授業は、目標を達成するためのストーリーになるようにしている。「相手の学校はどんな配置になっているのか」を知るために必要な表現を学ぶ。相手の学校について知った後は「自分の学校に隠された宝物がどこにあるか」を相手にたずねるにはどうすれば良いかを考える。このように目的や場面を適切に設定した上で、ステップを踏みながら学習をすることで、問題解決に主体的な児童の育成を目指す。

○ICT活用によるコミュニケーション活動の充実

Google Meet を日常的に活用した遠隔授業では、Information Gap(情報の差)を容易に作ることができる。そのため、「相手のことが分からないから質問する」といった、“本物の状況”の中で児童は言語活動を行うことができる。こうした実際のコミュニケーションにおいて、自分が伝えたい気持ちや情報を伝えることで達成感を味わうことができるよう配慮している。




また、自身で作成した Google Slide を全画面共有で相手に提示しながらやりとりをすることも行っている。継続して行うことで、コミュニケーション能力と同時に情報活用能力の向上も期待することができる。また、交流の際には各自でヘッドフォンを付けて交流している。そうすることで、小グループごとのやりとりが可能となる。小グループごとのやりとりを繰り返し行うメリットとして、1度のやりとりで終わるのではなく繰り返し相手を変えて表現していくことで、学びが深まり、表現の習得をすることができると思う。

7 本時の目標

- ・互いの学校内の配置をしっかりと表現し、必要な情報を聞き取ることができる。

8 本時の展開 (3/8)

段階	○主な学習活動	・留意点 【観点】評価（評価方法）
つかむ5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・両校の児童は小グループの Meet、ジャムボードを起動させておく。</li> <li>・あいさつ</li> <li>・学習課題の提示</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">                     学校の配置をたずねたり答えるときに、聞き手と話し手はどんなことを意識したら良いだろうか？                 </div>	Meet により学習課題のスライドを全画面共有する。その後、ホワイトボードに印刷済みの学習課題を提示。
考える13分	<p>&lt;1ピリオド&gt;</p> <p>大滝の児童は、関内の児童に関内小学校内 1F の配置を質問する。(2分)</p> <p>その後、関内の児童は、大滝の児童に徳舜警学校内 1F の配置を質問する。(2分)</p> <p>交流で困ったことがなかったか確認する。(1分)</p> <p>&lt;2ピリオド&gt;</p> <p>大滝の児童は、関内の児童に関内小学校内 1F の配置を質問する。(4分)</p> <p>その後、関内の児童は、大滝の児童に徳舜警学校内 1F の配置を質問する。(4分)</p> <p>1F の配置図（正解）の確認</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Meet を使い、小グループ内での交流</li> <li>・post office など既習事項であるため、架空だが、学校内にあるものとして組み込んでいる。</li> <li>・質問しあう教室や施設は児童自身が選択している。</li> <li>・どんなやり取りをすればいいか全員が理解していることを確認するため、2回に分けて1F についての言語活動を行う。</li> <li>・1~2ピリオドの中で1F、3ピリオドで2F の教室配置を聞き取る。</li> </ul>

<p>深める 17分</p>	<p>○学習課題の再確認 相手に伝わりやすい英語を表現するにはどうすれば良いかそれぞれの学校で考える (3分) 両校で意見交流する (4分)</p>   <p>&lt;3ピリオド&gt; 大滝の児童は、関内の児童に関内小学校内 2F の配置を質問する。(5分) その後、関内の児童は、大滝の児童に徳舜警学校内 2F の配置を質問する。(5分)</p> <p>2F の配置図 (正解) の確認</p>	<p>・児童はジャムボード上で意見を入力する。それらを見ながら意見交流を進める。</p> <p>・2ピリオドと相手を変えて交流する。 【思考・判断・表現】 他者に配慮しながら、自分の学校の教室配置を表現したり、必要な情報を聞き取ることができているか (行動観察・Can Do リスト)</p>
<p>まとめる ・ふりかえる 10分</p>	<p>○3回の交流で感じたことや気付いたこと、わかったことを確認</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>Where is the library? / Go straight. / Turn right. / Turn left.などの表現を 聞くときは、相づちを打つ、わからないときは質問する</p> </div> <p>○Can Do リストの入力</p> 	<p>・児童はジャムボード上で感じたことなどを入力。まとめは児童が入力したジャムボード上の付箋を使用する。 なお、まとめは左に記したような内容になることが想定されるが、児童の言葉を使ってまとめる。</p>



# 国語科学習指導案

日 時 令和5年 9月14日(木) 3校時  
児 童 第5学年 男子2名 女子0名 計2名  
第6学年 男子2名 女子1名 計3名  
指導者 高 田 実 千 穂

## <第5学年>

### 1 単元名/教材名

「3 物語の全体像をとらえ、考えたことを伝え合おう」

「たずねびと」

### 2 単元について

#### (1) 児童生徒観

授業に対して、非常にまじめに取り組む学年である。本意見を交流したりすることに積極的で、情報と自分たちの経験から考えを発表することに対しても臆せず取り組むことができる。学年2人のため、互いに自分の考えを説明する活動を通して、学習を深めさせていきたい。

#### (2) 教材観

本教材は、中心となる人物の「綾」からの一人称で描かれている。「綾」は児童と同じ11歳であり、児童は「綾」の思いや考えを自分と重ねながら、「綾」が体験した出来事を読むことができると考える。また、表現の特色として、心情を表すために使われている言葉や表現に注目させたい。「綾」はなぜ「そう感じたのか」を話の前後から考えることで、「綾」の心情を深く読み取ることができるだろう。

#### (3) 指導観

本単元は、文章の読み取りをもとに、最初と最後の考えの広がりや変化を文章にまとめる指導をする。文章の内容を精査・解釈する段階で文章の表現の効果を考えながら考えを深め、自分たちの考えを文章化する活動をしていきたい。

### 3 単元の指導目標

(1) 話や文章の構成、展開について理解できている。[知識・技能] (1) カ

(2) 登場人物の心情について、描写を基に捉えることができる。[思考・判断・表現] C (1) イ

## <第6学年>

### 1 単元名/教材名

「3 作品の世界をとらえ、自分の考えを書こう」  
「やまなし」 資料「イーハトーヴの夢」

### 2 単元について

#### (1) 児童生徒観

理解力にやや個人差はみられるが、全体的に学習に意欲的で、自分の感じたことや考えたことを積極的に共有することができる。それぞれの考えを共有させ、より妥当なものは何かを話し合うことを通して、考えを深めさせていきたい。

#### (2) 教材観

本教材は作者独特の表現が多く、児童にとって一読しただけでは作品世界をとらえることが難しい作品である。その表現を味わい、題名が「やまなし」である理由を考える過程で、「イーハトーヴの夢」で描かれる作者の生き方に触れる。一人で読んでもわかりにくい部分があるが、他の文章や他者との対話を通して、少しずつ情報のつながりを見出し、自分なりに意味づけをしていく活動を通して考えを深めさせていきたい。

#### (3) 指導観

本単元では、本文の他に、資料「イーハトーヴの夢」を用いて、「やまなし」に描かれた世界に対し、表現や構成、作者の思いなどから作品の世界観を自分なりにとらえ、文章にまとめて交流する。解釈が難しい作品に対し、より妥当なものは何かを、本文や資料を参考にしながら話し合いを進めさせたい。

### 3 単元の指導目標

(1) 語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。[知識・技能] (1) オ

(2) 物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。[思考・判断・表現] C (1) エ

(3) 物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。[思考・判断・表現] C(1)エ

(4) 言葉の使い方や工夫に気が付き、登場人物の心情の変化と表現を結びつけて考えようとしている。[主体的に学習に取り組む態度]

4 単元の評価規準

【知識・技能】

○話や文章の構成、展開について理解している。

((1)カ)

【思考・判断・表現】

○登場人物の心情について、描写を基に捉えている。(C(1)イ)

○物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。(C(1)エ)

【主体的に学習に取り組む態度】

○登場人物の心情の変化について、その要因を探そうとしている。

○課題に対しての自分の意見や考えを、相手にわかりやすく共有しようとしている。

(3) 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。[思考・判断・表現] C(1)カ

(4) 言葉の使い方や工夫に気が付くとともに、作者の人生観と作品を結びつけて考えようとしている。[主体的に学習に取り組む態度]

4 単元の評価規準

【知識・技能】

語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。((1)オ)

【思考・判断・表現】

○物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(C(1)エ)

○文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(C(1)カ)

【主体的に学習に取り組む態度】

○言葉の使い方や工夫に気が付くとともに、作者の人生観と作品を結びつけて考えようとしている。

5 単元の指導計画(6時間扱い)【本時 4/6】

5 単元の指導計画(6時間扱い)【本時 4/6】

時	○主な学習活動	【領域】評価 (評価方法)	時	○主な学習活動	【領域】評価 (評価方法)
1	○単元のめあてと本時の課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">           単元のめあて 物語の全体像をとらえ、考えたことを伝えあおう。         </div> ○本文を通読する。 ○読んで疑問に思ったことを共有する。 ○登場人物を確認する。 ○漢字の確認をする。	【態度】疑問に思ったことや気が付いたことを積極的に挙げて交流している。(観察・発言)	1	○漢字の確認をする。 ○単元のめあてと本時の課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">           単元のめあて 作品の世界をとらえ、自分の考えを書こう。         </div> ○通読する。 ○読んで疑問に思ったこと、気が付いたことを共有する。	【思判表】文章を読んで出た疑問や感想を共有している。(観察・発言)
2	○「綾」の心情を第一場面から第四場面までの範囲で、場面ごとに整理する。 ・①綾の前に現れたもの・人 ・②心情を表す言葉 ・③その時の心情 の3点を整理する。	【思判表】登場人物の心情を表す言葉を見つけ、整理している。(観察・パドレット) 【態度】登場人物の心情と表現を結びつけて考えようとしている。(観察・発言・パドレット)	2	○作品の構造を整理する ○本文の叙述を基に、5月と12月の場面をイラストで表現する。	【思判表】物語の全体像を具体的に想像している。(観察・発言・ワークシート)

3	<p>○「綾」の心情を第五場面から第八場面までの範囲で、場面ごとに整理する。①綾の前に現れたもの・人②心情を表す言葉③その時の心情の3点を整理する。</p> <p>○完成した表をもとに、心情の変化をノートにまとめる。</p>	<p>【思判表】登場人物の心情を表す言葉を見つけ、整理している。(観察・パドレット)</p> <p>【態度】登場人物の心情の変化と表現を結びつけようとしている。(観察・ノート)</p>	3	<p>○「イーハトーヴの夢」を通読し、宮沢賢治の考え方を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パドレットに宮沢賢治についての出来事を整理する。</li> <li>・「考え方」「生き方」の観点で、宮沢賢治についてノートにまとめる。</li> </ul> <p>【思判表】文章を読んでまとめた意見を共有し、自分の考えを広げている。(観察・ノート・パドレット)</p> <p>【態度】作者の人生観についてまとめようとしている。(パドレット・ノート)</p>
4	<p>○終末部分の表現を読み深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「きれいな川」「ただの名前」が「綾」にとって何を表すものになったのかを考える。</li> </ul>	<p>【思判表】物語の終末部分を、叙述を基に具体的に想像している。(観察・パドレット)</p> <p>【態度】言葉の使い方や工夫に気が付き、言葉に表そうとしている。</p>	4	<p>○作品の特徴的な表現から作品を読み深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「クラムボン」とは何なのか、イメージが定まらないことを確認する。</li> <li>・なぜこのような表現をしたのか考える。</li> <li>・この作品の中に、ほかに特徴的な表現がないか探し、共有する。</li> <li>・特徴的な表現の中から一つ選び、作者がなぜその表現にしたのか、理由を考える。</li> </ul> <p>【思判表】表現の効果を考えている。(観察・パドレット)</p> <p>【態度】言葉の使い方や工夫と作者の人生観と作品を結びつけて考えようとしている。(観察・ノート)</p>
5	<p>○第2,3時で使用した表と第4時で考えたことを踏まえ、「資料館」「記念館」「おばあさん」と出会うことで「綾」が体験して得たものが何かを整理し、読みに生かす。</p>	<p>【思判表】物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりする</p>	5	<p>○なぜタイトルが「やまなし」なのかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作品が5月と12月で分かれているが、12月にしか出ない「やまなし」がタイトルに使われていることを確認する。</li> <li>・5月と12月でそれぞれ同じ項目に当たる言葉を整理する。</li> <li>・「イーハトーヴの夢」や第3時で考えたことを基に、作者の考え方・生き方と関連付けて、タイトルに込められた理由を考える。</li> </ul> <p>【思判表】表現の効果を考えたうえで意見や感想を共有し、自分の考えをさらに広げている。(観察・パドレット)</p> <p>【態度】作者の人生観と作品を結びつけて考えようとしている。(観察・ノート)</p>

6	<p>○考えの変化を共有する</p> <p>○ジャムボードに残してある初読の感想のページに、「読み深めたあとの感想・考え」「その理由」を書き込む</p> <p>○互いにフリップで撮影しあい、記録する。</p> <p>○単元全体を振り返る。</p>	<p>【知技】話や文章の構成、展開について理解している。(観察・ジャムボード)</p> <p>【思判表】物語の全体像を把握し、表現の効果を考えている。(観察・ジャムボード・フリップ)</p> <p>【態度】言葉の使い方や工夫に気が付き、登場人物の心情の変化と表現を結びつけて考えようとしている。(観察・ジャムボード・フリップ)</p>	6	<p>○作者が作品に込めた思いを、本文と「イートハーブの夢」から考えて書く。</p> <p>・作者の考え方や生き方を踏まえ、作品に込めた思いを書き、共有する。</p> <p>・相手の考えを読んで気が付いたことや取り入れたいものを踏まえ、再度自分の考えを言葉で表現する。</p> <p>○単元全体を振り返る。</p>	<p>【知技】文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(観察・パドレット)</p> <p>【思判表】語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(観察・パドレット)</p> <p>【態度】言葉の使い方や工夫に気が付くとともに、作者の人生観と作品を結びつけて考えようとしている。(観察・パドレット)</p>
---	---	---	---	---	--

6 研究に関わって

○「未来を創る」児童生徒の実現に向けた授業改善

本文から考えたことを交流する場面をとることで、自身の考えは本文のどの言葉をきっかけにして生まれたのか、またその考え方は作品の前後の流れからすると妥当なものなのか、等自分の考えたことや本文への読みに関して少しずつ深めていき、言葉で表現できるようにしていきたい。

○ICT活用によるコミュニケーション活動の充実

それぞれの考えや活動の結果を記録・整理し交流する際に積極的に活用する。また、意見形成の時に、初発の考えを書き込み、互いに読みあうことでそれに対する感想や考えを助言としてコメントに残せるため、考えを深め整理する際に有効であると考えている。

7 本時の目標










・登場人物の考え方の変化を、本文から考えることができる。




7 本時の目標

・特徴的な表現に気づき、作者の人生観と作品を結びつけて考えることができる。

8 本時の展開（4/6）

8 本時の展開（4/6）

第5学年				第6学年			
段階	○主な学習活動	・留意点 【観点】評価 (評価方法)	指導	指導	○主な学習活動	・留意点 【観点】評価 (評価方法)	段階
つかむ5分	○本時の学習課題を知る。 		直接指導	間接指導	○「クラムボン」とは何と予想していたのかを思い出し、共有する。 		深める5分
	「綾」にとって、「きれいな川」「ただの名前」は何に変わった						
考える15分	○広島へ行く前と広島をめぐり終わった後の、「川」「名前」への描写の違いを整理する。  	【態度】言葉の使い方や工夫に気が付き、言葉に表そうとしている。(観察・パドレット)	間接指導	直接指導	○本時の学習課題を知る。 		つかむ5分
					作者が、いろいろなイメージをもてるように書いたのは、なぜ		
深める15分	○「川」「名前」は何に変わったのか、各場面の描写と、前時に整理した心情の変化をもとに考える。 	【思判表】物語の終末部分を、叙述を基に具体的に想像している。(観察・ノート)	直接指導	間接指導	○「クラムボン」を、どの描写から想像したのかを共有する。 	【思判表】表現の効果を考えている。(観察・パドレット)	考える20分
					○なぜ作者はこのような表現をしたのか、描写と「イーハトーヴの夢」をふまえて考える。  	【態度】言葉の使い方や工夫と作品を結びつけようとしている。(観察・ノート)	

まとめる・ふりかえる 10分	○話し合ったことをもとに、まとめを確認する。 <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">           「綾」が、前よりも実感を持って、広島が出来事を考えるようになったことを表すものへと変わった。         </div> ○本時の学習の振り返りをする。 	間接指導	直接指導	○話し合ったことをもとに、まとめを確認する。 <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">           読者に、自然の中にある不思議なものでも、わかろうと思ってもらいたかったから。            ※児童の言葉を使ってまとめる。         </div> ○この作品の中に、ほかに特徴的な表現がないか探す。  ○本時の学習の振り返りをする。 	まとめる・ふりかえる 15分
-------------------	---	------	------	--	-------------------

板書計画（5年生）

<div style="border: 2px solid red; padding: 5px;"> <p>まとめ 「綾」が、前よりも実感を持って、広島が出来事を考えるものへと変わった。</p> </div>	<p>○川と名前からわかる「綾」の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 最初よりも、広島が出来事を重く受け止めている。</li> <li>・ 前よりも、忘れるべきではないものとして、真剣に考えている。</li> </ul> <p>○広島を見た後</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 川：静かに流れる、夕日を受けて赤く光る水</li> <li>・ 名前：確かにこの世界にいて、あの日までここで泣いたり笑ったりしていた</li> </ul>	<p>たずねびと</p> <p>課題 「綾」にとつて、「きれいな川」「ただの名前」は何に変わったのだろうか。</p>
--	--	--

板書計画（6年生）

<p>○その他、面白い表現 イサド・光のあみ・青白い火を燃やしたり消したりしたりしているよう</p>	<div style="border: 2px solid red; padding: 5px;"> <p>まとめ 読者に、自然の中にある不思議なものでも、わかろうと思ってもらいたかったから。</p> </div> <p>○なぜこの表現をしたのか 生き物みたいに思ってほしいから。 動き回っている様子をイメージしてほしいから。 わからないものについても考えてみてほしかったから。</p>	<p>やまなし</p> <p>宮沢賢治</p> <p>課題 作者が、いろいろなイメージをもてるように書いたのは、なぜだろうか。</p>
--	---	---



## 8 研究協議

### (1) 授業者から

#### 【5年生】

池田 教諭（大滝徳舜警学校）

- ・緊張した様子も見られたが、一生懸命頑張っていた。
- ・基本的な音声を聞き取り、簡単な英語を使って気持ちを表すことができていた。
- ・目的や場面の設定を適切に行うことで、子どもたちが積極的にコミュニケーションをとれていた。
- ・評価は、両校で共有し、単の後半で話すやりとりで評価する。
- ・英語を使うバランスやタイミングには気をつけている。クラスルームイングリッシュや簡単な指示や活動場面では英語を、機器操作を伴う指示などは日本語を使用するようにしている。
- ・遠隔授業は、単に人数が増えるだけでなく、「自己紹介」や「学校案内」など、本物の状況が生み出せるメリットもある。
- ・遠隔授業はメリットも多いが、事前に入念な打合せやお互いの情報共有、予期せぬ接続不良や機器のトラブルへの対応など、大変なことも多い。

入瀬 教諭（関内小学校）

- ・子どもたちの学力差が大きいですが、外国語についてはその差は小さい。
- ・ミートを3つに分けることで、絶対に話さなければならない状況になるが、1対1から1対2になったことで、話すことが苦手な子どもにとっても、スムーズに進めることができた。
- ・見えない部分でのヒントカードの活用などで、スライド・ジャムボード・ミートを使った画面共有などが、全員できるようになった。
- ・ヘッドセットのマイクが使えない子どもが出て、機器のトラブルがあった。

#### 【5・6年生】

高田 教諭（大滝徳舜警学校）

- ・話し合い活動は、情報共有のための活動で、全員がかなり積極的に行うことができる。
- ・考えの根拠となる部分について、本文を元にここから考えたということを使って授業作りを行っている。
- ・今回目指したことは、どちらも物語なので、本文の表現・記述・描写をもとに深めることを共通課題とした。
- ・5年生は、登場人物の気持ちの変化を、本文の言葉や情景描写をもとに気づいたことを自分の言葉で話すことを、6年生は、読み取ったことをもとに、情報共有して考えをプ

ラスして変化を書き言葉で表現できることを目標にしていた。

- ・文章を読み込んで、考えを整理するなど、本日のやりたいことはおおよそ、自分の見立てではできた。
- ・授業は時間管理の甘さから両学年とも最後までしっかりとできなかった。

## (2) 協議内容

### Aグループ（国語の授業を中心に）

#### （成果）

- ・話し合い活動がとても活発であった。
- ・タイムキーパーが中心に話し合い活動が上手に行われていた。
- ・パドレットの活用は、とてもわかりやすく、とてもよかった。

#### （課題）

- ・子どもの実態によって、話し合い活動の難しさがある。（今回は良かったが…）
- ・導入時の教科書読みがなかったが、子どもの考えを深める上では教科書読みは必要ではなかったのか（小学校国語では大事ではないのか）

### Bグループ（外国語の授業を中心に）

#### （成果）

- ・子どもたちが生き生きと活動していた。
- ・ピリオド2のあとの「ふりかえり」が有効で、より主体的な学びになり、ピリオド3の活動で活かされていた。
- ・遠隔授業により、「学校探検ごっこ」から「本物の学校探検」になっていた。
- ・ジャムボードが効果的に活用されていた。

#### （課題）

- ・答え合わせの場面は、教師主体ではなく、子ども中心に行えると良かった。
- ・ICT機器を使える教師側のICTスキルの差を埋める必要がある。
- ・ふりかえり場面での子ども同士の交流には、さらに操作の上達が必要である。

### Cグループ（外国語の授業を中心に）

#### （成果）

- ・宝探しの道案内は、英語を話す必然性をつくる良い单元である。
- ・早く終わっても、英語で会話をかわして、普段の授業の積み重ねが感じられた。
- ・まとめは、子どもたちの言葉でまとめられていたが、課題との整合性が図られていた。
- ・ジャムボードを使用してアバターの活用を行っていたのが効果的であった。

(課題)

- ・ A L T の活躍場面が少なく、もう少し活用できるとよい。(授業の流れによるが…)
- ・ 子ども同士の会話が顔の見えない状況だったので、難しいとは思いますが、顔を見ながら行う方法はないか検討する必要がある。
- ・ 遠隔授業は、準備が大変であり、機器の不具合や通信トラブルなどの心配があるが、進んでいけば、便利であり、効果が期待できる。

### (3) 参観者の声

#### ① 公開授業について

- ・ 子供たちが生き生きと学び合っている姿に感銘を受けました。
- ・ 関内小とオンラインで遠隔交流を行った外国語の授業が素晴らしかったです。端末を用いて児童の意見交流を効果的に行った国語の複式授業大変勉強になりました。どちらの授業も児童のブラインドタッチ等、普段からの積み上げの姿が感じられました。
- ・ お二人とも非常に落ち着いていてとっても良い授業でした。
- ・ 国語で児童が積極的に自分の考えを出し合い、意見交換をする様子が素晴らしかったです。日頃の先生方の指導の成果と思いました。
- ・ 授業者として、多くの方からのご助言や経験の共有ができたことが嬉しかったです。
- ・ 外国語も国語も、とてもよい授業でした。「持続可能」にするために1コマの授業準備に費やす時間を短くする工夫が必要だと感じました。
- ・ 2年続けての全道大会お疲れさまです。
- ・ 大変勉強になりました。子どもたちの生き生きした活動が見ることができてよかったです。準備など大変ご苦労されたと思います。お疲れさまでした。
- ・ 2校間での遠隔授業のあり方、課題等を知る機会となり、貴重な機会をいただきました。
- ・ 中学校の先生が専門性を活かし授業を行ったり I C T を有効に活用して遠隔授業を行ったりするなど、複式の課題を解消し、さらに少人数を生かした最高の授業でした。大変参考になりました。ここまでつくりあげるために、試行錯誤しながらも沢山のご苦労があったと思います。そのご苦労が、しっかり子供たちの成長に繋がっていることが伺える授業でした。
- ・ I C T を活用して、児童が主体的に学習活動を行う姿が見られていた。
- ・ 【外国語】人数の少ない学校がメインになって授業を進めている様子が斬新でした。少人数が多数に「混ぜてもらおう」という状況を見るが多かったので、人数の少ない学校から働きかけてみようと感じました。
- ・ 児童がしっかりしていて感心しました。複式での決まり等よくしつけられています。また、先生方もしっかり準備されており、とても、丁寧な授業でした。
- ・ 【国語】小学校高学年が中学校の先生の授業の流れにしっかりついて行く様子がよかったです。複式の授業でしっかりとわかりやすい指示を出し、作業内容が明確になっているので児童が学習に集中できていたと思います。
- ・ どちらの授業も中学の先生が専門的な知識を生かす授業を展開されていて、義務教育学校ならではの良さを感じました。

## ② 研究内容について

- ・縦（教科担任制）と横（関内小）の連携を生かし、複式ならでの課題を解決し、「少人数だからこそ伸ばせる教育」を実現した素晴らしい研究だと思いました。
- ・移動時間が学校間交流のネックになっていましたが、ICTを効果的に活用することで、関内小との連携をさらに深めることができたのだと思いました。そのための打ち合わせもICTを活用することで、教員の負担も少なくなることがわかりました。また、子供の姿から、意味のある「振り返り」をしっかりしている→次の時間の主体的に学ぶ意欲につながっているということが伝わってきました。仮説を何度も検証しながら進めてきた研究の成果が出ていたと思いました。
- ・児童の実態や義務教育学校のよさを生かした研究の積み上げ大変参考になりました。
- ・目標 課題 まとめを明確にする。とっても参考になりました。
- ・前期・後期課程が一体となつての研究内容や目指す授業スタイルは大変勉強になりました。
- ・ICTの活用のみならず、「対話」も重視している点が良いと感じました。
- ・子どもたちがいきいきと活躍し、とても充実した研修だったと思います。
- ・研究の視点1も2も討議の柱として話がしやすかったです。特に2のICTの活用については、本校の研究とも重なっていて参考になりました。
- ・小規模校、とりわけ、複式での授業を通し児童の資質能力を育成することに創意工夫があり、規模の大きい学校も参考になるエキスが多く、明日からの実践に取り入れていきたい。
- ・子どもたちが将来、生き生きと生きていくためにということを念頭に、今、育成すべき力は何か、どうすれば良いのか考えた時に、まずは、やってみることが大事なのだと思いました。やってみたからこそ見えてきた全職員が感じる課題を解決していく。その積み重ねがみえる発表でした。本校も、義務教育学校になるので、参考にさせていただこうと思います。
- ・オンライン授業は、日々の取り組みでよくなってきていることがわかりました。ICTも有効な活用をしっかりと研究し、参考になりました。
- ・コミュニケーションの向上を通して、子どもたちが生き生きと活動する姿が見える研究であったと思う。

## ③ その他（大会運営全般含む）

- ・全道研なので、土地勘がないことや近くにお店がなかったのも助かりました。また、地元のキノコ汁も大変おいしく、地域の方の温かさを感じました。
- ・授業準備や会場準備、当日の運営まで、会場校の皆様大変お疲れ様でした。ありがとうございました。
- ・ありがとうございました。気持ちよく参加させていただきました。
- ・オンラインでしたが、特に不便なく参加できました。ありがとうございました。
- ・それぞれが忙しい中、開催に向けて準備を進めていただいたと思います。今回の大会を通し、これからの教科指導に活かしていきます。ありがとうございました。

- ・へき複研の加盟校が少なくなる中で運営は厳しくなっていくとは思いますが。その中で研修することは大切です。皆さんに無理のないよう、それでいて有意義な研修が進められることを望みます。大変ありがとうございました。お疲れさまでした。
- ・オンラインの活用など、様々な面で大変なことがたくさんあったと思います。お疲れさまでした。国語の授業の声が聞きづらいなど、いろいろ言いたいことを言ってしまって申し訳ありませんでした。
- ・少ない人数の職員で、準備から運営まで本当にありがとうございました。心からお労い申し上げます。
- ・大変温かいおもてなしをありがとうございました。少ない人数で準備や運営が大変だったと思いますが、皆さん、協力しあい、笑顔で迎えて頂いたことが、とても嬉しかったです。関内小学校様との連携も素敵だと思いました。私がお子だったら、この学校に通いたいと思いました。本当に勉強になりました。ありがとうございました。そして、本当にお疲れ様でした。
- ・みなさん、とても大変だったと思います。本当に、お疲れ様でした。
- ・貴重な経験をさせていただきました。ありがとうございます。
- ・リモートで授業に参加することができて、良かったです。
- ・オンラインの操作担当をしていました。音声をはっきりと伝わっており、本部では何も操作をする必要がありませんでした。様々な準備、ありがとうございました。

#### (4) 助言者より

##### ●堀田 大次郎 校長（北見市立西小学校）

- ・大滝徳舜警学校 研究主題「未来創る児童生徒の育成」に基づいて話します。
- ・第1分野に関連して
  - 9年間を見通した教育課程を編成することが大切です。大滝徳舜警学校は、学びの多い環境にあります。小学校の学習内容がわかるので、中学校(後期課程)の先生方には、とても良い経験になると思います。
- ・第2分野に関連して
  - I C Tの活用によって小規模性僻地性というデメリットを克服する取り組みがなされています。今は「まずは使ってみよう」から「子どもたちが主体的に使える」という段階にきている。
- ・本日は外国語の授業にて、アバターを使っていましたが、初めて見ました。めざす児童生徒像「自分の考えを伝える力」「自分で考え学ぶ力」「人を大切にする力」「やりぬく力」のもと、「めあて」「課題」「まとめ」「ふりかえり」をきちんと提示することで、分かりやすい授業になった。
- ・子どもたちは言わされるのではなくて、聞く人を大切にする気持ちで主体的に話していた。また、子ども同士、先生同士の連携がよかった。
- ・国語の授業「やまなし」は、大人が読んでも様々な解釈がある作品です。子どもたちが自分事として考えるしかけがなされていた。
- ・少数数のデメリットを克服するために、過去の(先輩方の)データの蓄積や遠隔授業がなされている。
- ・大切なのはその授業でどんな力をつけさせたいのかを、ぶれずに考えていくことです。
- ・子どもたちと、指導計画を一緒につくる、ゴールを一緒に設定するということにも取り組んでみてはどうでしょう。
- ・学校の雰囲気よさを感じた。大滝徳舜警学校も関内小学校も安心して通わせることができる学校であると感じた。

●関川 恭平 指導主事（北海道教育庁胆振教育局 義務教育指導班）

・指導計画・学習過程に関することについて

見通しをもつ活動、個人思考する時間、ふりかえりの時間を設定することが大切です。自分自身の疑問が生まれ新たな学びへとつながります。指導計画では、しっかり教える場面、自身の学びを深める場面を設定することが大切です。その時間ですべて網羅しようとするのではなく単元全体を見通した計画を作成すべきです。

・資質・能力の育成について

指導要領3つの柱をもとに評価規準を見通して授業をつくるのが大切です。

・ICTを用いた効果的な授業

ICTはノートやワークシートの代わりに活用できます。利点は一瞬で書き直せることなどがあります。活用自体が目的化しないようにすることが大切です。例えば、1～2年算数科で具体物を扱うような授業では無理にICTを使用すべきではありません。それぞれの教科の特性を生かして使用するべきです。

## 9 成果と課題

### 《視点1》「未来を創る」児童生徒の実現に向けた授業改善

☆ 「めあて」「課題」の明確化と「まとめ」との整合性を図る。

☆ 「ふりかえり」の時間を確保し、充実を図る。

☆ 展開段階で「人や物との対話」を取り入れる

#### 【成果】

○「めあて」「課題」の提示により、児童生徒が身に付けるべき学習内容を明確化させることができたと同時に、「めあて」「課題」を明確に示すことにより主体的な学びにつながっていた。

○「ふりかえり」の時間に、適用問題に取り組んだり、学習したことについて考えたり、発表したりすることで、学習内容の定着や今後の活用の見通しを持たせることができた。

○他校との遠隔授業は、児童が多様な考えに触れることができる一つの方法として有効であり、自分の考えを形成し表現することができていた。

○「人や物との対話」を意識的に取り入れることで、自分の考えを自信や他の児童生徒たちと積極的に確認しあえるようになった。

#### 【課題】

○「課題」と「まとめ」との整合性を常に意識しながら、授業改善をしていく必要がある。

○「ふりかえり」の時間の確保やふりかえりの観点を「めあて・目標」に照らし合わせて整理・検討する必要があり、授業改善を通して時間を生み出し、次時につながるような「ふりかえり」の観点や書き方・記録の仕方を考えていく必要がある。

○「人や物との対話」を効果的に行うための授業づくりや学びを深めるための素材選びを行っていく必要がある。



## 《視点2》ICT 活用によるコミュニケーション活動の充実

☆ ICT を用いてデータの継続的蓄積と活用、およびコミュニケーション活動の効果的活用を図る。

### 【成果】

- お互いの考えを比較する場面や意見の交流場面などでの、スクールタクトやジャムボード、新しく使用を始めたパドレット等の活用により、コミュニケーション活動の充実が見られた。
- 過去データを活用した発表動画の視聴や作品の鑑賞などで、一人学級はもちろんのこと、少人数学級での学習の広がりが感じられた。

### 【課題】

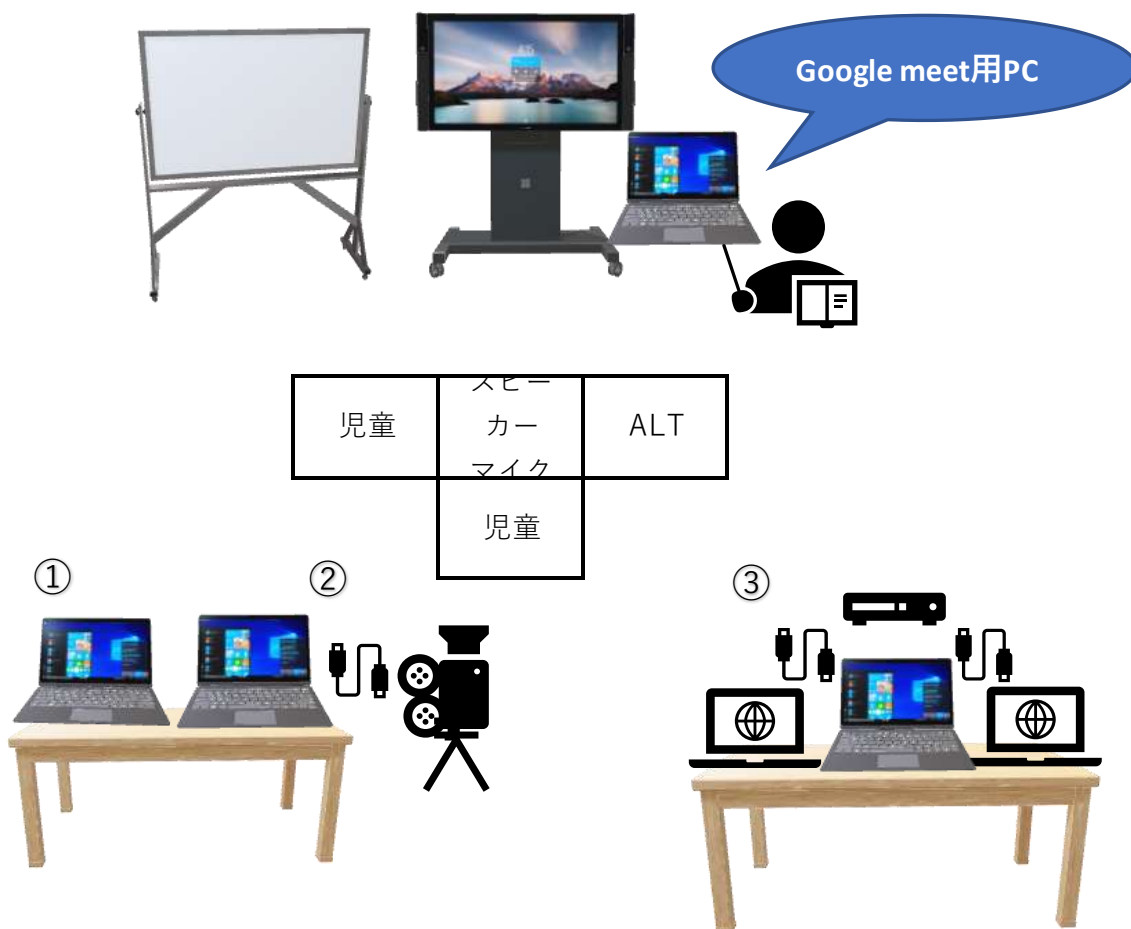
- データの蓄積と活用については、活用の仕方を意識しつつ、今後も蓄積していく必要がある。
- 児童生徒にとって、ICTがより効果的に活用できる場面を考え、使用していく必要がある。
- 遠隔授業では、予期せぬ接続不良や機器トラブルに対応できる体制や教師側のスキルを備える必要がある。
- ICT端末とノートのそれぞれの良さを押さえ、学習内容や学習状況によって適切に使い分ける必要がある。

令和5年度 伊達市立大滝徳舜警学校 配信状況

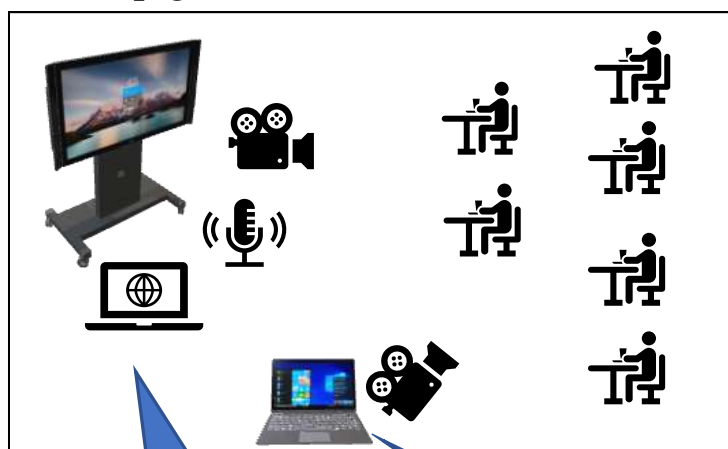
5年生外国語授業(関内小学校との遠隔授業)

(1)配信図

『大滝徳舜警学校 体育館』



『関内小』④



Google meet用PC

Zoom用PC

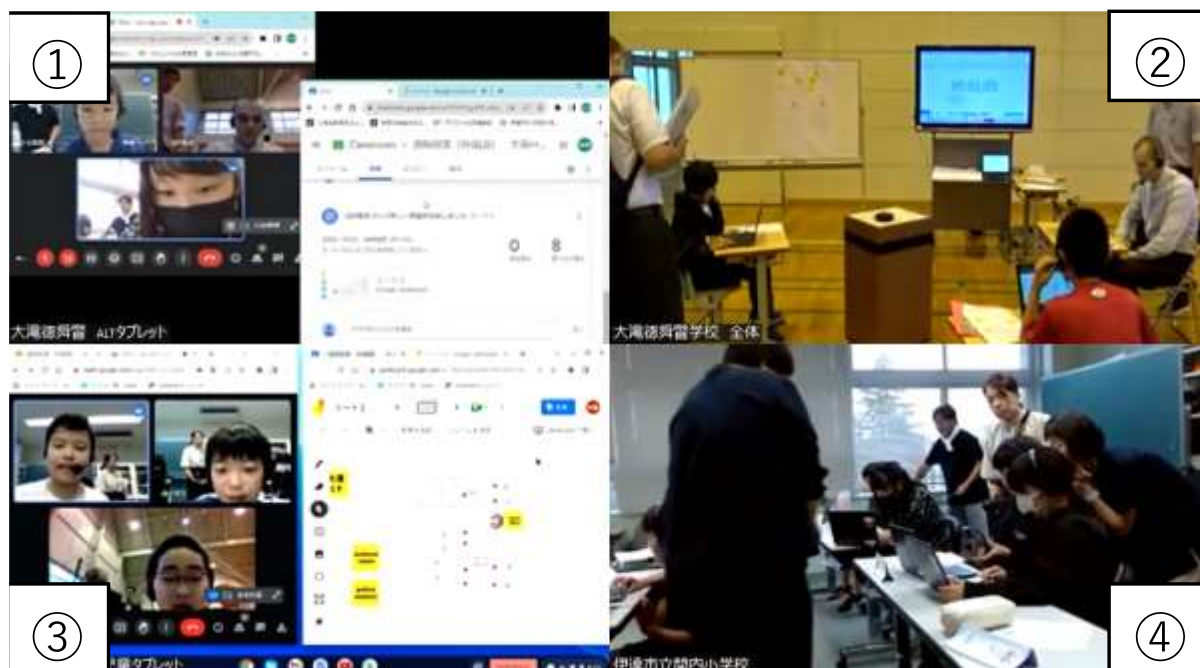
(2)授業配信内容・機材

記号・撮影内容	機材
①・ALT chromebook画面	PC1台(OBS+Zoom+Google meetを併用)
②・教師+全体	PC1台+キャプチャーボード1台+ビデオカメラ1台+三脚1台+HDMI mini-HDMIケーブル 1本+USBTypeC-USBTypeA 1本
③・児童 chromebook画面	PC1台+chromebook2台+HDMI 2本+HDMI-USBTypeC変換ケーブル2本+USBTypeC-USB-A1本+ATMEminiPro(スイッチャー)1台
④・関内小学校 児童	キャプチャーボード+カメラ+三脚+PC (meet用 chromebook+モニター+マイク+カメラ)

【Zoom内 画面イメージ】

①ALT タブレット画面	②教師+全体
③児童タブレット画面 (スイッチャーで切替)	④関内小学校 児童

≡音が聞こえる画面(切替必要)



### (3)配信方法および状況

#### ① ALT タブレット画面

OBSソフトとGoogle meet・class room(Jambord)を起動

↓

児童が交流しているGoogle meetに参加

(カメラOffにしてmeetの交流を邪魔しないようにする)

↓

meetの映像(デスクトップの画面)をOBSに反映させる。

「OBSの設定」

<ソース>の下にある+をクリック

→ウインドキャプチャを選択

→名前を変更(分かりやすい名前に、児童画面1など)

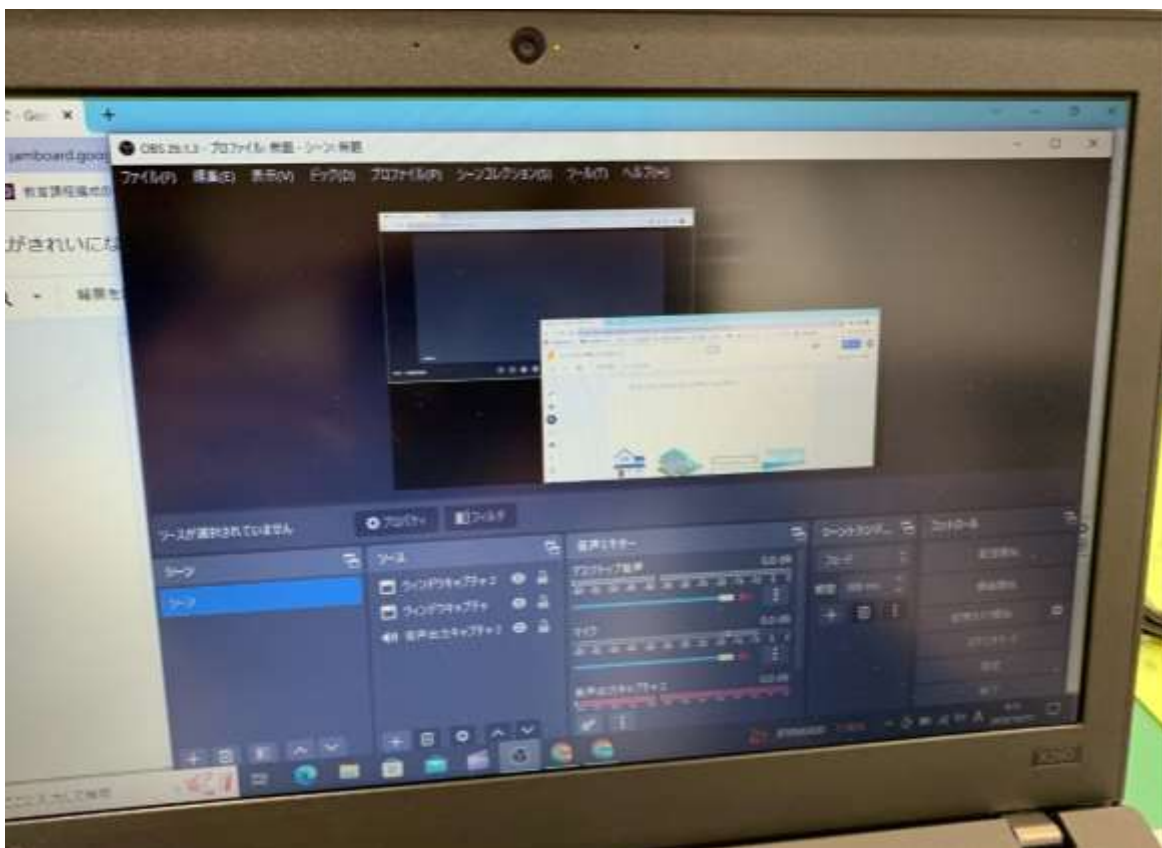
→キャプチャするウインドを選ぶ

(meetやJambord等事前に開いておいたウインドのタイトルが表示されている)

→キャプチャしたウインドが真ん中の黒枠内に表示される

(実際にOBSからZoomへ出力される映像となる)

※必要に応じてサイズや位置、画面追加を調整する。



↓

ZoomにOBSの画面を反映させる。(Zoom内カメラ選択→OBS virtual Camera)

(OBSの画面で<コントロール>仮想カメラ開始を押すと反映できる。)

※今回はmeetとJambordの2画面を半分ずつZoomに反映させている。

② 教師+全体

ビデオカメラ+キャプチャーボード+PCを接続

児童の間にあるスピーカーマイクをBluetoothで接続

(モニターから聞こえる関内小学校の音声を、スピーカーマイクで拾っている)

↓

途中の交流活動は児童(+ALT)がヘッドセットを装着するため

④のスイッチャーでmeet内の音声をZoomで聞こえるように切り替える。



③ 児童 タブレット画面

PCとchromebook2台をスイッチャーを通して接続

(chromebookの理由は拡大がしやすいから)

↓

PCでZoomに接続、ChromebookでGoogle meetに接続

児童2人の画面を一定ごとに切り替える(今回はmeetとJambordの2画面構成)

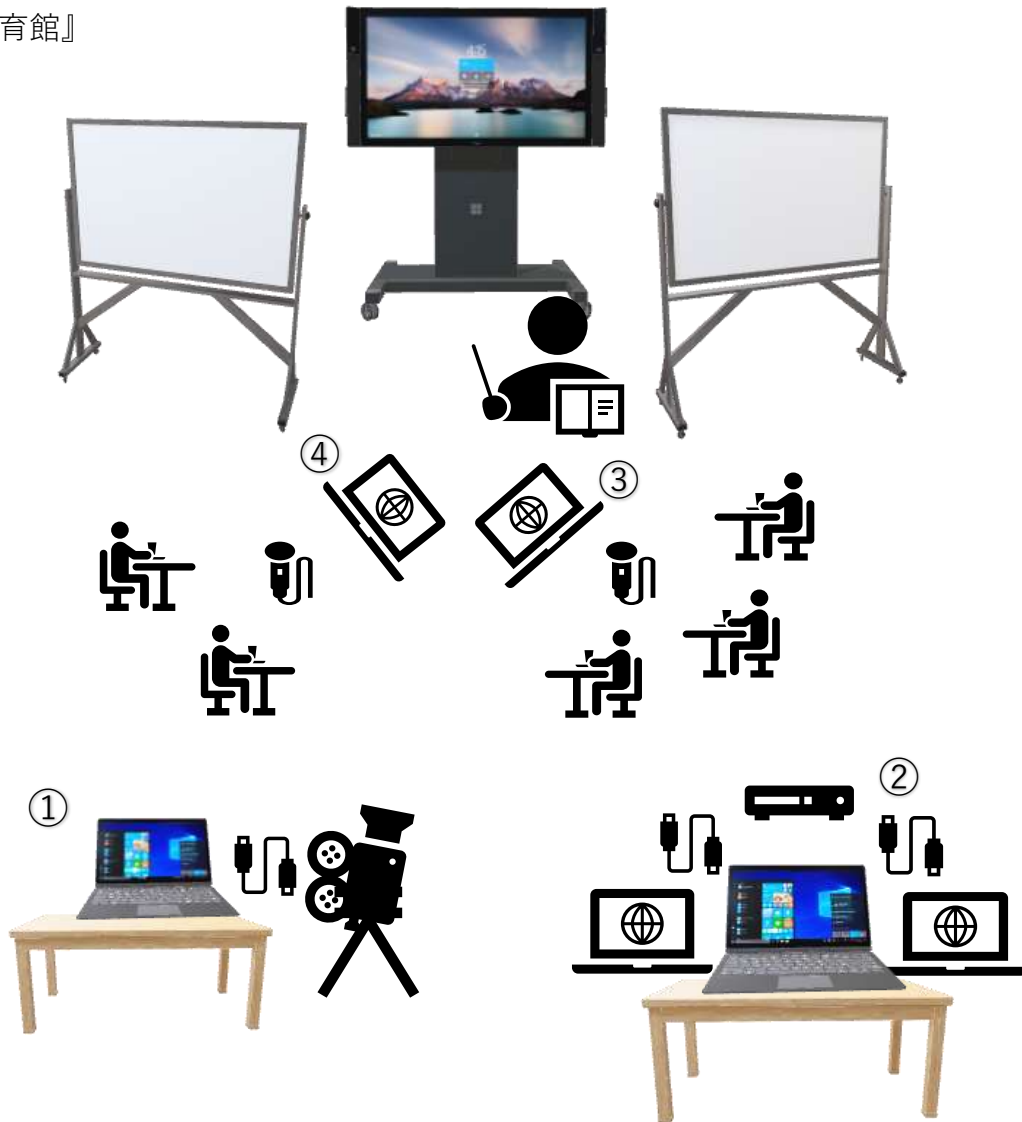




5・6年生 国語科授業

(1)配信図

『体育館』



(2)授業配信内容・機材

記号・撮影内容

機材

記号・撮影内容	機材
①・教師+全体	PC1台+キャプチャーボード1台+ビデオカメラ1台+三脚1台+HDMI mini-HDMIケーブル 1本+USBTypeC-USB A 1本+ピンマイク2個(+受信機1個)
②・児童 タブレット画面	PC1台+chromebook2台+HDMI 2本+HDMI-USBTypeC変換ケーブル2本+USBTypeC-USB-A1本+ATMEminiPro(スイッチャー)1台
③・6年生	chromebook 1台
④・5年生	chromebook 1台



【Zoom内 画面イメージ】

①教師+全体	②児童 タブレット画面
③6年生	④5年生

≡音が聞こえる画面



(3)配信方法及び状況

① 教師+全体

ビデオカメラ+キャプチャーボード+PCを接続

ピンマイク受信機をビデオカメラに接続

5年生と6年生それぞれの机中央辺りにピンマイクを設置

※今回は学年ごと各机にテープで固定

Zoomに接続後、カメラとマイクを接続機器に変更できているか確認

② 児童 タブレット画面

PCとchromebook2台をスイッチャーを通して接続(chromebookの理由は同様)

↓

PCでZoomに接続、ChromebookでPadletの児童が共有している画面にログイン

5年生と6年生の画面を一定ごとに切り替える

③・④ 6年生・5年生

chromebookでZoomに接続→画角調整・マイクとスピーカーはミュートにする。

【配信用機材紹介】（価格は参照までをお願い致します。）



### ビデオカメラ

HDR-CX680(道研推奨)

今回はメインビデオカメラとして使用

価格：60,500円

USB端子がカメラについており、データ移籍も可能。

外部マイク端子有り(今回はピンマイ

### 各種ケーブル

- ・ HDMI A-HDMI マイクロ
- ・ HDMI A-HDMI ミニ
- ・ HDMI A-USB TypeC 変換アダプタ
- ・ キャプチャーボード(2000円台)

カメラによって繋げるHDMIが違う。キャプチャーボードは安くてもオンライン配信は可能、画質と通信速度は学校の通信状況にもよる。今回のchromebookとスイッチャーを繋げるには変換アダプタが必要



### Jabra Speak 750 (スピーカーマイク)

英語科授業で使用。

価格：60,500円

BluetoothやUSB-A端子で接続可能。1台でマイクとスピーカーなど多機能である。会議を想定した製品のため遠くの音は拾いづらい。





RODE Wireless Go II (マイク)  
RODE LAVALIER Go(ピンマイク)

価格：マイク(画像右)33,000円  
ピンマイク(画像左)9,900円  
国語科授業・開会式等で使用。  
遠くの音も拾いやすい。ビデオカメラ等と赤いケーブルで接続。ピンマイクはWireless



USB TypeA-USB TypeC

キャプチャーボード(GV-US2C/HD)、価格：23,100円  
ビデオカメラとPCの接続に使用。上記の安価なキャプチャーボードも同様の効果。  
ビデオカメラの映像をPCに出力する際に必要となる機械。





### ATEM Mini Proストリーミングスイッチャー

価格：64,900円

英語科・国語科両方で活用。PC等の画面を4つまでボタン1つで切替可能。画面を切り替えるエフェクトや切り替わる秒数まで決めることができる。大会では2画面を切り替えており、英語科では上記画像の赤く光っている「AFV」を押すことでGoogle meet内の児童が交流している音声をZoomに出力してオンライン参加の方にも届けることができた。児童がヘッドセットをしていたために、オンライン参加の方が音声はハッキリ聞こえたかもしれない。



# 第3分科会

## 【研究主題】

「わかった・できた・伝わったと表現できる児童を目指して」  
～個別最適な学び・協働的な学びを通して～



白老町立虎杖小学校



## 授業の様子

【公開授業1：第3・4学年（竹浦小学校との遠隔合同授業）】



【公開授業2：第5・6学年（同時間接授業）】





# 研究の概要

## 1 研究主題

わかった・できた・伝わったと表現できる児童を目指して  
～個別最適な学び・協働的な学びを通して～

## 2 研究主題設定の理由

本校は昨年度まで「共に高め合う児童を目指して」を掲げ、全教科・領域において、「主体的な学びを支える授業づくり」「協働的な学習を通して、個の学びを広げる・深める授業づくり」を中心に授業改善を行ってきた。具体的には、児童一人一人が学び方を身につけ、友達との学び合いを自分の考えに生かし、学ぶ楽しさや達成感を感じられる授業づくりを目指した。また、学習活動の中に「視点」を与えることで授業の軸がぶれにくい授業づくりも目指してきた。

そして、昨年度までの研究実践によって以下の成果を得ることができた。

- ①児童自身が見通しを持って、授業の流れに沿った学習を行えるようになってきた。
- ②同時間接授業を行うことで、授業をリーダーが進行している間、個に対応した学習指導ができるようになってきた。
- ③教師側から話し合いやふりかえりの視点を与えることで、授業の焦点化ができるようになってきた。

一方で、実践に取り組んでいく中で課題が多く見られた。

- ①教師の介入や視点の提示がないと児童自ら見通しを立て、学習を進められない様子が見られた。
- ②学び合いの中で、考えを伝えるだけで終了し、収束ができずに終わってしまっていた。
- ③交流学びでは、意見を伝え合うだけとなり、深い交流学びとなっていない。
- ④学んだことを本時以外の場面で活用することが難しそうだった。
- ⑤根拠や理由を持った説明に苦戦している様子が見られた。

このような実態から、「主体的・対話的で深い学び」や「学力向上のため」に授業改善を行っていくことが必要であると考え。そこで、本校としては、「個別最適な学び」や「充実した学び合い」の達成を目標に、わかった・できた・伝わったと表現できる児童を育成したいと考え、本主題を設定した。

## 3 研究仮説

児童一人一人にあった学びや仲間と考えを広げ・深め合うことで、児童が学ぶ楽しさや達成感、充実感を感じることができるだろう。

#### 4 研究の内容（1年計画：1年目）

##### ○個別最適な学びを支える授業づくり

- ・児童が見通しを持てる導入
- ・指導と評価の一体化
- ・ICTの効果的な活用

##### ○協働的な学びを通し、学び合いが充実した授業づくり

- ・問いを発し合えるグループ学び
- ・深めた・広げた学習内容を整理し、活用できるようにする授業の終末
- ・ICTを利用した空間的・時間的制約の緩和

#### 5 道へき複第10次長期5か年計画研究推進計画との関連

##### I 「学校・学級経営の深化・充実」の1

児童生徒一人一人の個性や能力を生かし、多様な体験を重視した教育活動の充実

- ◎学校間交流：竹浦小学校との遠隔合同授業・合同研修、幼小連携事業
- 地域素材・人材の活用：寺子屋虎杖浜による放課後補充学習、ぺこ餅作り
- 伝統や文化に関する教育：アイヌ文化学習、越後踊り体験、ふるさと学習

##### II 「学習指導の深化・充実」の5、6

学習効果を高める個別化・集団化などの指導方法の改善と充実

- ◎学習リーダー：リーダーガイドを用いた授業づくり
- ◎合同学習、集団学習、交流学習：竹浦小との遠隔合同学習、異学年交流学習
- 個別化、集団化：個人思考、集団思考時間の充実
- 学習習慣と学習規律：家庭学習の充実、学びガイドを基にした学習規律の徹底
- ノート指導：学びガイドにて全校で発達段階に応じたノート指導

主体的・対話的で深い学びの視点から、児童生徒一人一人の多様な考え方や個人差・学年差に即した学習指導過程の改善と充実

- ◎主体的・対話的で深い学び：個人・集団思考の時間の確保、発表方法の改善
- ◎同時間接、同時間接指導：リーダーガイド学習を基にした柔軟な学習指導
- ◎リーダー学習：リーダーガイドを基とした授業づくり
- ◎ガイド学習：4段階「つかむ」「考える」「まとめる」「深める」の授業形態
- 個に応じた学習：机間巡視の充実、個に応じた課題の提示
- 意欲をもたせる課題：児童自ら学習を調整できるような授業の「ゴール」提示
- 学習形態の工夫：授業に合った段階が提示できるような段階カードの充実
- 間接指導と直接指導のバランス：指示・発問の工夫、机間巡視の充実

6 指導案

3年生				
(1) 本時の目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・第五場面の役割についてほかの場面との関わりに着目して捉え、考えたことを伝え合おうとしている。(思考・判断・表現)</li> </ul>				
(2) 本時の展開				
時間	学習内容	遠隔	備考	評価
つかむ	①授業の導入 前時の学習をたしかめる。 ②ゴールの提示 ゴール： <u>第五場面がある理由について考える。</u> ③児童による課題検討 課題： <u>なぜ第五場面があるのだろうか。</u>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内容のねらいがぶれないようにする。</li> </ul>	
考える	④第五場面がどんな場面か確認する。また、第五場面の必要性について、どのように考えていくとよいか確認をする。(全体で) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ちいちゃんは、いない。</li> <li>・場面が変わり、時代が変わった。</li> <li>・第五場面がある場合のない場合で比べて考える。</li> </ul> ⑤竹浦小と遠隔を行い、考えを深める。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・第五場面がある場合とない場合で、それぞれどう感じるかをノートにまとめる。(一人学び)</li> <li>・ジャムボードを使って考えを交流する。(全体)</li> <li>・児童の発言をつなげて、第五場面があることで、戦争のない今の時代が平和であることが分かるという方向にまとめる。</li> </ul> ◎交流の視点：友達との感じ方のちがいを比べ、考えをまとめる。 ◎友達の想像したことに対して、コメントやつっこみを入れる。 ※意見が出ない場合は、教師の働きかけで考えを述べさせる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・第四場面で物語が終わったら読んだ人がどんな気持ちになるだろうか。</li> <li>・第五場面があることで読んだ人がどんな気持ちになるだろうか。</li> <li>・戦争や平和を知らない子が読んだ場合は、どちらの終わり方が好きですか。</li> </ul> ⑥交流したことをもとに第五場面の必要性について自分の考えをまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「<u>          </u>」を伝えるため。という形式で、筆者の思いなども想像しながら考えさせる。</li> </ul> ◎一人学びの視点：交流を通して気づいたことを踏まえて書く。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・視点を与え、思考の焦点化をする。</li> </ul> 表・タブレット)	◎文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づいている(発表・ノート)
まとめる	⑦教材文を通して学習したことを児童がまとめる。 <u>まとめ：平和の大切さを伝えるため。</u>			
深める	⑧ふりかえりをする 視点：場面があるとないのでは、物語の印象がどのようにかわるか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ないと、暗い話で終わる。</li> <li>・あると、今の時代のことも考えることができる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・物語文を読むときに生かしていけるようにする。</li> </ul>	

4年生

(1) 本時の目標

- 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づいている。(思考・判断・表現)

(2) 本時の展開

時間	学習内容	遠隔	備考	評価
つかむ	<p>①授業の導入</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前時の振り返りを確認する。(話し合いをしたことを思い出す。)</li> </ul> <p>②ゴールの提示</p> <p><u>ゴール：一人ひとりの考え方のちがいに気づく。</u></p> <p>③児童によるめあての検討</p> <p><u>課題：友だちの意見と似ているところやちがうところはどこだろうか。</u></p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>授業内容のねらいがぶれないようにする。</li> </ul>	
考える	<p>④竹浦小と遠隔を行い、前時までの内容を交流する。</p> <p>◎jam ボードに記載された個人ごとの考えについて読み合い、感じたことや気づいたことを交流する。</p> <p>◎第六場面のおとのごんや兵十の気持ちを想像し、日記の続きを書く。</p> <p>※<u>ごんは撃たれているが想像させて書かせる。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ごんの日記の例           <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒兵十に対して、気づいてくれてありがとう。</li> <li>⇒これまでつくないをしてきてよかった。</li> <li>⇒なんで撃ってしまったの。くやしいよ。</li> </ul> </li> <li>兵十の日記の例           <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒ぬすっときつねだと思っていたけど、いいやつだったな。すまない。</li> <li>⇒どうしてそんなにおれのためにしてくれたんだ。</li> <li>⇒これまでいろんな悪いことをしてきてしまったのを知っていたからつい撃ってしまった。ごめん。</li> </ul> </li> </ul> <p>◎第六場面の日記の続きを読み、感想を交流し合う。</p> <p>※<u>物語の思いや感想にどのような違いがあったか触れる。</u></p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>児童自身がタブレットで振り返られるようにする。</li> <li>視点を与え、思考の焦点化をする。</li> </ul>	<p>◎文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づいている(発表・ノート)</p>
深める	<p>⑤ふりかえりをする</p> <p>視点：自分と周りの人の考え方の違いは何だったのだろうか。</p> <p>※<u>これまでの学習がつながっていることを意識させ、物語の内容に即した形でふり返らせる。</u></p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>今後の話し合いを行うために生かしていけるようにする。</li> </ul>	



5年生

(1) 本時の目標

- ・登場人物の心情の変化を読み取るときに大切なことがわかる。(思判表)

(2) 本時の展開

時間	学習内容	備考	評価
つかむ	<p>①前時の学習をたしかめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物の大きな心情変化がある場面をたしかめる。</li> </ul> <p>②ゴールの提示</p> <p><u>ゴール：登場人物の心情の変化の読み取り方がわかる。</u></p> <p>③児童による課題検討</p> <p><u>課題：登場人物の心情の変化はどうやって読み取るとよいのだろうか。</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内容のねらいがぶれないようにする。</li> </ul>	
考える	<p>④教材文の後半部分の登場人物の気持ちを捉え、心情の変化を考える。</p> <p>(5段落～) (一人→グループ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル教科書にハイライト入れ、心情がどのように変化していったのか考える。(ハイライトを根拠にできるようにする。)</li> </ul> <p>※広がりすぎた場合、心情を考える場面を焦点化する。</p> <p>グループ学びの視点：登場人物の心情の変化をグループの中でまとめる。</p> <p>⑤グループごとに発表をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表に対して、コメントやっこみを入れる。</li> </ul> <p>◎やりとりの想定◎</p> <p>広島についたときは、教科書の「明るくて晴れ晴れとした景色」という言葉から明るい気持ちだったと思いました。</p> <p>でも、「うちのめされるような気持ち」という言葉から辛い気持ちになったことが想像できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話の後半では、辛い気持ちだけじゃなかったと思うな・・・</li> <li>・読み取るときに、どんな言葉に着目して考えたか。</li> </ul> <p>→気持ちを表す言葉</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童がタイムマネジメントを意識しながら取り組めるようにする。</li> <li>・必要に応じて視点を与え、思考の焦点化を図る。</li> <li>・気持ちを表す言葉以外に何に注目するとよいかを気づかせたい。(場面の様子、時間の移り変わりを表す言葉)</li> </ul>	◎登場人物の心情の変化について想像したことを広げることができる。(発表・タブレット)
まとめる	<p>⑥教材文を通して学習したことを児童がまとめる。</p> <p><u>まとめ：登場人物の心情の変化は、気持ちを表す言葉を見つけていくと読み取ることができる。</u></p>		
深める	<p>⑦ふりかえりをする。</p> <p>視点：心情の変化を見て、感じたことは。</p> <p>⑧漢字の学習を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物語文を読むときに生かしていけるようにする。</li> </ul>	

6年生

(1) 本時の目標

- ・よりよい話し合いにするための方法や工夫の仕方がわかる。(思判表)

(2) 本時の展開

時間	学習内容	備考	評価
つかむ	<p>①漢字の学習を行う。</p> <p>②前時の学習をたしかめる。 ・話し合いをしたことを思い出す。</p> <p>③ゴールの提示 <u>ゴール：よりよい話し合いにする方法や工夫を見つける。</u></p> <p>④児童によるめあての検討 <u>課題：よりよい話し合いをするにはどうしたらよいのだろうか。</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内容のねらいがぶれないようにする。</li> </ul>	
考える	<p>⑤思考するためのツールを確認する。 (全体で) ・デジタル教科書のワーク、竹浦小学校6年生の話し合いの動画、自分たちの話し合いの動画をもとに、気づいたこと、わかったことを見つける。</p> <p>⑥動画を比較し、よりよい話し合いにするためにどうしたらよいか考える。 (グループ学び) 視点：よりよい話し合いにするには、どんなことを改善できそうかをまとめる。※理由もつけて。 ◎やりとりの想定◎ ・目的や条件をはっきりさせる。 ・意見を具体的にしておく。 ・話をしっかりと聞き、共感、反論し、意見を深める。</p> <p>⑦グループごとに発表をする。 ・できそうなことややってみるとよいことを見つける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレットを活用する。</li> <li>・児童自身がタブレットで動画の比較できるようにする。</li> <li>・視点を与え、思考の焦点化をする。</li> <li>・竹浦小との共有のJamボードへ意見を入れておく。</li> </ul>	◎目的や意図に応じた伝え合う内容を検討することができている。(発表・机間巡視)
まとめる	<p>⑧次回の話し合いの時に生かすことをまとめる。 <u>まとめ：次の話し合いでは、話し合いの目的や条件をはっきりさせ、友達の見解に共感、反論し、意見を深めるとよい。</u></p> <p>⑨みんなで次の話し合いのテーマを決める。 ・目的や条件に合ったテーマになるようにする。</p>		
深める	<p>⑩ふりかえりをする 視点：今後、話し合いを進める時に意識していきたいことは。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の話し合い活動に生かしていけるようにする。</li> </ul>	



## 7 研究協議

【研究発表に関して】 ～当日の意見や事後のアンケートから～

- ・ ICT やデジタル教科書の有効活用、遠隔合同授業の技術、同時間接指導の柔軟な授業づくりに向けたリーダー学習など、多種多様な研究を行っていることがわかった。
- ・ 授業の過程をどの教科でも基本的に同じ流れとしていることや、ゴールを示すことによって、児童がその時間に何を学ぶのかを明確にしている授業について知ることができた。
- ・ ICT を効果的に活用した協働的な学びの進め方について学ぶことができた。
- ・ 主題にある「表現する力」部分に特化した研究内容があってもよいと感じた。
- ・ 遠隔合同授業を行う際に、タブレットを一人一台使い、両校の児童の顔を映しながら授業するとよりよいと感じた。
- ・ 研究主題、研究内容はこれからの時代、より一層重点になってくる課題だと感じた。
- ・ 会場での発表内容は整理され、資料とともにわかりやすくまとめられていた。
- ・ 学校と地域の特色を活かした実践や、意図的に行っている活動が参考になった。
- ・ 他校と合同研修を行う、意図・目的・進め方や実践方法などが参考になった。
- ・ とても明確な研究内容だと思った。
- ・ 研究内容が明確だからこそ、研究協議でもたくさんの意見が出て、活発な協議ができたように感じた。
- ・ 成果と課題を明確にした中で、次に向けた取組を組織的に行なっているところがよかった。
- ・ 今後、研究内容の積み上げが楽しみである。
- ・ 子どもたちの授業を観て、研究主題に迫る校内研究が進められていると思った。
- ・ ゴールが指導と評価の一体化や児童の解決への見通しにつながっていると感じることができた。
- ・ 「ふりかえり」に視点があり、学習を深めることにつながっているように感じた。
- ・ 配信方法など、配信に関する内容を学ぶことができた。

### 【3・4年生】

#### (1) 授業者から

##### ■長谷部 裕也 教諭（虎杖小学校）

- ・「ごんぎつね」の授業を進める上で、竹浦小は「兵十」を中心に、虎杖小は「ごん」を中心としながら学習を積み上げてきた。
- ・授業を行っていくために、竹浦小の石井先生と授業内容の打ち合わせを繰り返して行い、検討・改善を行ってきた。
- ・「4の場面」に至るまで、登場人物同士の関係・関わりはどうだったのか、すれ違いの有無の指摘を中心に授業展開したかった。
- ・広げる深めるためにどのように授業を展開すれば良かったかについて研究協議を行っていきたい。

##### ■石井 晴香 教諭（竹浦小学校）

- ・3年生の授業を主に担当し、長谷部先生と打ち合わせを重ねて授業づくり・授業展開を行ってきた。
- ・3年生は、自分の考えを伝えるのが未熟なので、考えの根拠となるツール【言葉の宝箱】を用意した。
- ・この後の協議では、子どもたちの考えを広げたり伝えたりするためにどんな方法があるか議論していきたい。

#### (2) 協議内容（グループ発表）

##### ■Aグループ

- ・個別最適な学びという点で、3、4年がタブレットを使いこなせているのは、よかった。
- ・書いてから話し合うという順番は違うのではないだろうか。今一度、学び方のステップを検討していくことが必要だと感じた。解決策としては、まず話し合いを行い、互いの意見を聞いてから文字に変換するという方が話し合いの効果が出るのではないかと考える。
- ・協働的な学びという点では他校との交流は効果的なように感じた。
- ・遠隔合同授業を行う上での今後の課題点は、どうしても時間を要してしまう打ち合わせや授業準備に、どのように負担感を軽くして取り組んでいくかということではないか。
- ・来年の授業実践をスムーズに行うためには、今年度までの研究で積み上げてきた打ち合わせ内容や授業記録を蓄積・共有していくとよいのではないか。

##### ■Bグループ

- ・遠隔合同授業を国語科で行ったことが参考になった。
- ・離れた場所にいる子どもたちの反応をどのように拾うかが大切になってくると感じた。
- ・ジャムボードとノートの使い分けをどのようにしていくことがよいのか様々な議論が出たが結論までは出なかった。ただ、授業内容や授業形態等の実態に合わせながら使い分けを行っていくことが大切であるという共通理解ができた。

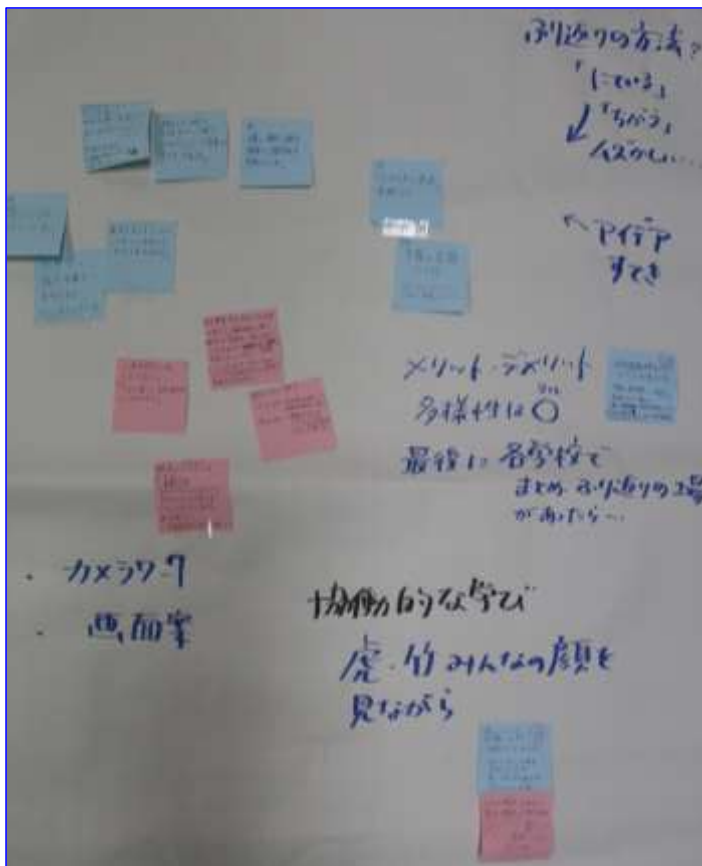
- ・遠隔合同授業を重ねていくことで更なる進化していくことができるように感じた。
- ・協働的な学習については、視点をどうそろえれば良いかなど難しさがあるように感じた。
- ・視点の示し方やタイミングなどを吟味することで学習内容が深まっていくと思う。
- ・子どもたちだけでなく、指導者が見本を見せるなど授業内容をコーディネートすることで学びの深まる授業づくりができると感じた。
- ・指導者の関わり方が個別最適な学びにもつながり、やがては協働的な学びとの往還にもつながるのではないかと思った。

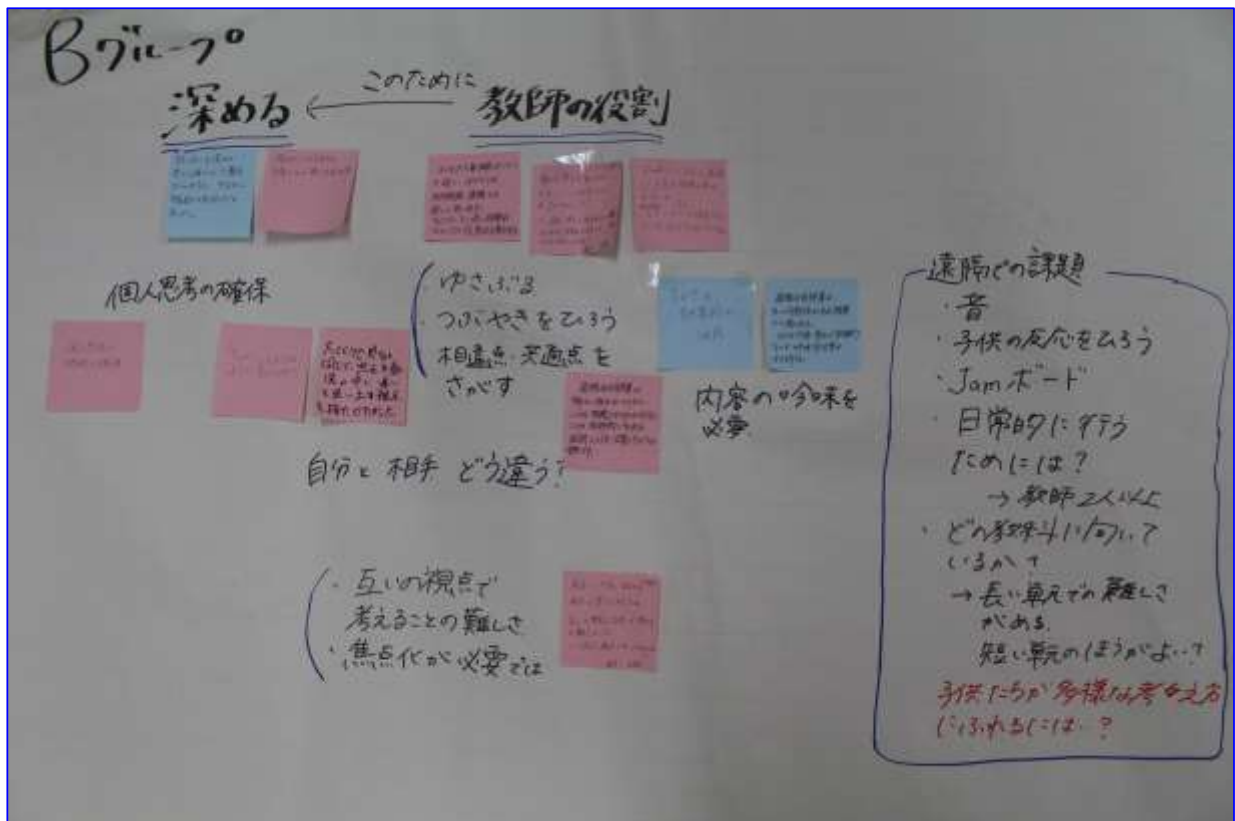
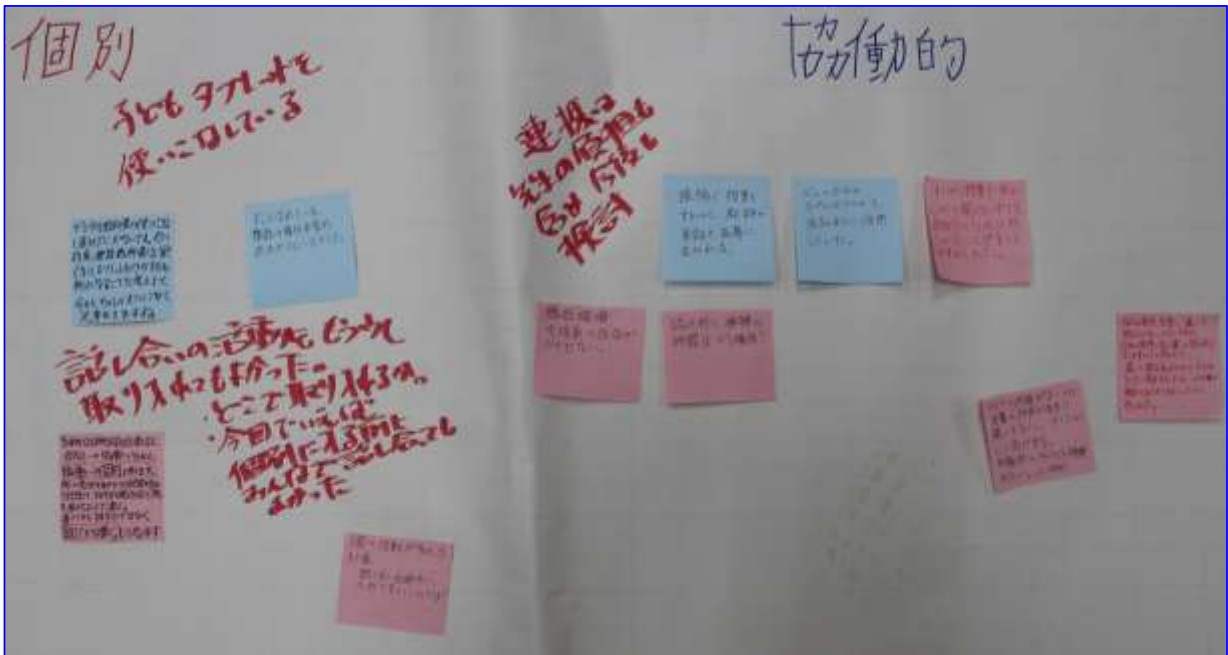
### ■Cグループ

- ・子どもたちがタブレットの使い方などのスキルを持って学習に取り組んでいた。
- ・遠隔合同授業では、カメラワークを工夫することでより相手に伝わりやすい授業づくりができる。
- ・遠隔合同学習をすることで、人数が増えたが、発表する場面が減ったということにならないようにしていくことが大切である。
- ・登場人物それぞれの立場から読み取りを行っていく授業スタイルはよかった。
- ・遠隔合同授業だと（画面を通すので）細かなニュアンスが伝わりづらくなる。そのため、授業者の発問の吟味がより一層大事になると感じた。
- ・複式学級の遠隔合同授業では、教員が自校と相手校の児童の指導をすることになるため、別学年の方を指導するための移動のタイミングをどうするか難しい。
- ・遠隔合同授業は、最初から最後までそれぞれの担任が進めた方がよいのではないか。
- ・遠隔合同授業における評価は、授業をメインで行っている先生がつけるとよいのではないか。
- ・遠隔合同授業では、先生のいない側の児童が集中力を切らさないように、互いの教室の様子が分かるような配信方法やカメラワークなどが大切である。
- ・遠隔合同授業の指導案に、画面案も一緒につけてもよかったのではないか。
- ・少人数のいいところはみんなが意見を発表できるところなのに、遠隔合同授業によって細かいニュアンスが伝わりにくいことや、画面越しだと挙手していても気づいてもらえないなど課題があるように感じた。
- ・学習の最後の部分で、お互いの考え方をまとめて発表したりなどしてみてもよいのではないか。
- ・授業の終末で、児童が課題に対してのまとめを書く場面で混乱していた。授業の到達度が高かったとように感じた。
- ・協働的な学びの場面では、先生対タブレット一人一人ではいいのではないか。
- ・協働的な学びを考えると、虎杖小と竹浦小で課題を見ながら、グループで話し合い、結果をあげることができるように感じた。

### (3) 参観者の声

- ・複式学年別指導や少人数であることの課題を克服する観点から、非常に先進的で挑戦的授業だったと感じた。
- ・複式学級における遠隔合同授業の見本のような授業だった。
- ・学習支援員がいない学校において、評価の問題を解決するためにどのような工夫が必要かなど今後の課題もあるように感じた。
- ・国語科での遠隔合同授業ということで、学習進度等両校の調整が大変だったように感じた。
- ・ICTを活用した先進的な遠隔授業から、多くのことを学ぶことができた。
- ・子どもたちの主体的に学ぶ姿を見ることができた。
- ・遠隔合同授業をどのように日常的に行うものにしていくかが今後の課題であると感じた。
- ・目の前にいる児童のつぶやきには反応できても、画面の向こうの児童のつぶやきまで反応できていなかったように見えた。
- ・できればそれぞれの児童、教師が一人一台端末で、オンラインの児童と直接目の前にいる児童を同じように扱えるようにし、授業を行うとよいのではないかと感じた。
- ・交流場面で使用していたアプリ等、とても参考になった。
- ・メリットが多いものの配慮が必要な部分なども多く、学ぶことができた。





## 【5・6年生】

### (1) 授業者から

古村 瞭汰 教諭 (虎杖小学校)

- ・5年生の「たすねびと」は、リーダーを中心に子どもたち同士で学ぶことができていたように感じた。
- ・児童がこちらの想定よりも広げて課題の意味を捉えていたため、授業者として発問や授業展開にさらなる吟味・工夫が必要だった。
- ・時間配分が少し狂った部分はあったが、予定していた学習内容を行うことができた。
- ・学習指導要領を押さえた上で、教科書の内容から少し離れた授業にしたが、児童にとって問題なく学習をすることができた。
- ・6年は集団思考をいきなり入れたが、ツールが多すぎて処理できなかつたように感じた。
- ・教科書に示されている論点を捉えてからグループ学びに入った方が良かった。

### (2) グループ発表で出された意見

#### ■Aグループ

- ・ファシリテーションの一つ、オープンクエスチョンの方法を紹介し、その手法を使って研究協議を行った。
- ・授業に対する考えを交流し、自身のエピソードを交えながら授業改善に関して交流を行った。
- ・授業の展開としては、集団思考から個人思考の流れにすることが大切であり、今日の授業展開だと子どもの思考が停止してしまうのではないか。

#### ■Bグループ

- ・個別最適な学びというところで、「ゴールを提示してから課題を考える」導入は、明確で安心して授業を進められるが、個別最適な学びという点では、個人課題を設定して進めるためにはゴールが邪魔になる危険もある。
- ・学習リーダーが一生懸命まとめようとしていたが、話し合いの時間にまとめを検討すると学習内容の理解が深まったと思う。
- ・同時間接授業においてリーダーを設けることにとらわれすぎて個別最適な学び、協働的な学びとしては、課題があるように感じた。
- ・教師の投げかけ方、どんな思考で読み取っていくのかなどの指示や発問があるとよりよい授業になったように感じた。

#### ■Cグループ

- ・リーダー学習の積み上げを感じることができた。
- ・デジタルとアナログのバランスは、目的や課題に合わせて使うことが大事ではないかと話題になった。
- ・ゴールの設定と課題の難しさを感じた。ゴールと課題がほぼ同じになってしまっていた。
- ・先生が任せつつもタイミングよく学習活動に介入できていた。



#### ■「個別最適な学び」に関して出された意見

- ・子どもたち自身でがどの方法を使うと、効果的に考えられるようになるのか見つけていくことが大切であり、線引く段階で、タブレット・教科書・ノートのどれを使ったら自分の発表がしやすいか、分かりやすいかを自己選択させていくとより高みを目指せると感じた。
- ・ふりかえりの時に、視点が飛躍しすぎていたように感じた。もう一段階のワンステップがあると児童にとって考えやすかったように感じた。
- ・リーダー学習ができるのは1年生の時から徐々にステップアップした結果だと感じた。
- ・多様な学び方があったように感じた。例えば、タブレットを活用するだけでなく、ノートに表で時系列にしたり、グループで話し合いながらまとめていく方法などがあったと感じた。
- ・ゴールと課題が似ていることは今後の課題ではないか。吟味されたゴールがあることで、子どもがやることをはっきりさせることができ、授業の見通しを持ちやすくなると思った。

#### ■「協働的な学び」に関して出された意見

- ・タイムマネジメントの難しさを感じた。実態に応じて配分を変えたり、時間を延長したりすることは必要であるが、間延びしてしまうリスクもあったり、授業内容が完了できなったりする側面もある。そのため、時間の使い方については研究していくことが必要であると感じた。
- ・3人と2人のグループ学びではなく、5人の全員学びでよかったように感じた。グループに分かれることで、それぞれ違う意見や考えが出ることもあるが、グループに分かれても自分の意見を考えている状態だった。
- ・話の課題や何を話し合わせるのかによって学習形態を変えていって良いのではと思う。
- ・実態や目的に合った協働的な学びを行っていくことが必要ではないか。子どもたち1人1人から多くの意見が出るなら少人数で行い、人の意見を聞きながら、自分の考えを深めるのなら多人数での学ぶ形が良いのではないかと思う。

#### (3) 参観者の声

- ・学習リーダーを中心として子どもたち同士で学ぶことができていたが、授業の終末が教師の意図とかけ離れていた場合の修正の仕方を学ぶことができた。
- ・学習リーダーの動き、1時間の学習過程が徹底されていた。
- ・高学年のリーダー学習がしっかりと定着されていると感じた。
- ・明確なゴールと課題の下、課題解決に向かう児童同士の対話ができている。
- ・複式学年別指導や少人数であることの課題を克服する観点から、先進的で挑戦的な授業だったように感じた。

# 協議の柱

①個別最適な学びを支える授業に関して

②協働的な学びを通して、学び合いが充実した授業に関して



<p>1/16</p>	<p>1/16</p>	<p>1/16</p>	<p>1/16</p>	<p>1/16</p>	<p>1/16</p>
<p>担任の効果的指示 リカしてやる</p>	<p>自分の命令の しように はかれる</p>	<p>リーダーが はきか 感あしました</p>	<p>教師が話すのは 子供たち ちゃんもく</p>	<p>子供も自分 でやってみる 文感</p>	<p>理由 二度きくと になる</p>
<p>六年生は二行四行 のわりがわり のよさをわかって</p>	<p>言合にも はかされる</p>	<p>リーダーが はきか 感あしました</p>	<p>子供も自分 でやってみる 文感</p>	<p>子供も自分 でやってみる 文感</p>	<p>ケルパの中 よからたもの</p>
<p>二三年生は かか</p>	<p>社会科で 効果的</p>	<p>リーダーが はきか 感あしました</p>	<p>子供も自分 でやってみる 文感</p>	<p>子供も自分 でやってみる 文感</p>	<p>友達の よからたもの</p>

緑の板書

ICTの効果的活用

個別最適な学び

リーダー学習

見通り

タイムマネジメント

ゴールの提示

メット、テメット

提示の方法

似すぎている課題

取り扱い

自ら考え、自分なりのまね

個別最適

ICTの効果的活用

見通り過ぎ

手がかりなど

教師の投げかけが弱い

算数なら...

国語では...

物語文 読み取り

学習言語の理解加?

不十分 → 深めていく

## 8 助言者より

【北海道教育庁石狩教育局 義務教育指導班主任指導主事 加藤 慎嗣 様】

(研修全体について)

- ・ 虎杖小は研究主題の実現に向けて日々実践に取り組んでいた。
- ・ 「つかむ」の場面でゴールを提示することで、児童にとって学びのイメージができたように感じた。
- ・ グループ学びの視点や振り返りの視点を与えたことが児童にとってわかりやすかったように思う。
- ・ ICT を通して、自分の考えを広げる・深める場を設定していた部分がよかった。

(3・4年生の授業)

- ・ 『読むこと』領域の指導事項「共有」にあたる学習内容だった。
- ・ この授業では、対話を通して一人一人の感じ方や考え方やその理由などの違いに気付くことが大切である。
- ・ 少人数ならではの難しさを感じることも多いが、遠隔合同授業を行うことはその課題を解決する一つの方法ではないかと感じた。
- ・ 児童から出た「切なさを伝えるため。」「きれいにお話を終えるため。」といった2つの意見が印象に残っている。
- ・ 子どもたちから、「どうして?」と意見が出るとよかった。

(5・6年生の授業)

- ・ 5年生は「ごめんね」「気づいてくれたんだね」この違いを話し合っ気付き合っが本時の目標であり、授業の要だった。
- ・ 本時の目標達成のためになぜ対話的・協働的な学びをするのかが大切である。そのためには、「子どもたち自身が選ぶ」ことが重要になり、本時では児童自身が「視点」を選ぶことができたのではないか。
- ・ 子どもが主役の授業が求められている。教師は伴走者である。
- ・ 6年生の『話すこと・聞くこと』が領域の授業では、目的を明確にするという言葉が子どもたちの考えから出てきた。
- ・ 子どもたちが気づきを生かす場があることが大事である。
- ・ 目的をもった言語活動を設定することで学びがより一層充実するので、今後工夫をしていくことが必要。



【道へき研究推進委員 留萌市立港北小学校 村元 隆一 校長先生】

(複式学級・少人数指導の在り方について)

- ・よりよい教育活動を目指すため、虎杖小・竹浦小での合同研修などの取組が必要になってくる。
- ・論文からも単式学級と複式学級に学力の差はないという調査結果が示されている。

(研修全体について)

- ・虎杖小の研究実践には様々なアイデアが見られた。
- ・同時間接授業やリーダー学習を生かしながらも発展させることが重要である。
- ・複式学級で従来行われてきた渡りずらしの4段階を基本にしつつ、新しい複式のあり方が示された。
- ・竹浦小との合同研修のように、今後は両校で研究していることのシェアをしていき、研修を分け与え、効率的な働き方で効果を得ていくことが必要である。

(授業に関して)

- ・ICTを日常的に使っていることが児童の学ぶ様子から感じる事ができた。
- ・虎杖小のICT機器活用の実践では、複式指導の困難性を克服するための活用になっていた。多くはICTを活用することを目的としがちだが、何のために使うのか、ねらいを明確にして活用することが大事だと感じた。
- ・同時間接授業では、リーダーの育成、ICTの効果的な活用を連動させながら授業展開することができていた。
- ・子どもたちに高いレベルの学ぶスキルを求めていくことが大事である。
- ・複式の授業づくりには半世紀以上の歴史があり、これまでの試行錯誤を経て今がある。しかし、今がゴールではなく、これからも授業作りを追究していかなければならない



## 9 本年度の研究における成果と課題

### ①成果

- 児童がガイドを用いたリーダー学習をある程度できるようになってきた。
- 個に応じた課題の提示やこまめな机間巡視など、一人一人に合った指導が少しずつできるようになってきている。
- 「発表名人を目指して」を元に交流学びの仕方を全校的に統一することで協働的な学びをする素地を作ることができた。
- 遠隔合同学習で隣接校と協働的な学びをする機会を経て、隣接校との協働的な学びを効果的にできるようになってきた。
- 学校として指導方法や学習規律を徹底することができていた。
- ICT を効果的に活用できるようになってきた。

### ②課題

- ツールの選択や学習の仕方など、ある程度指導者側が道筋を作ってしまう部分が多くあり、個別最適な学びになっていない部分が多い。
- 「ゴール」と「課題」が似たものになってしまっている。
- リーダー学習をすることで学び方の固定化がされている。
- 本校でのリーダー学習の手法では、児童の実態に左右されている部分が多い。
- 持続可能な遠隔合同授業の仕組み作りができていない。
- 考えや意見を伝えるだけの学び合いになってしまっている。
- 一方的な発表になってしまい、考えを深めるところまで行うことができなかった。

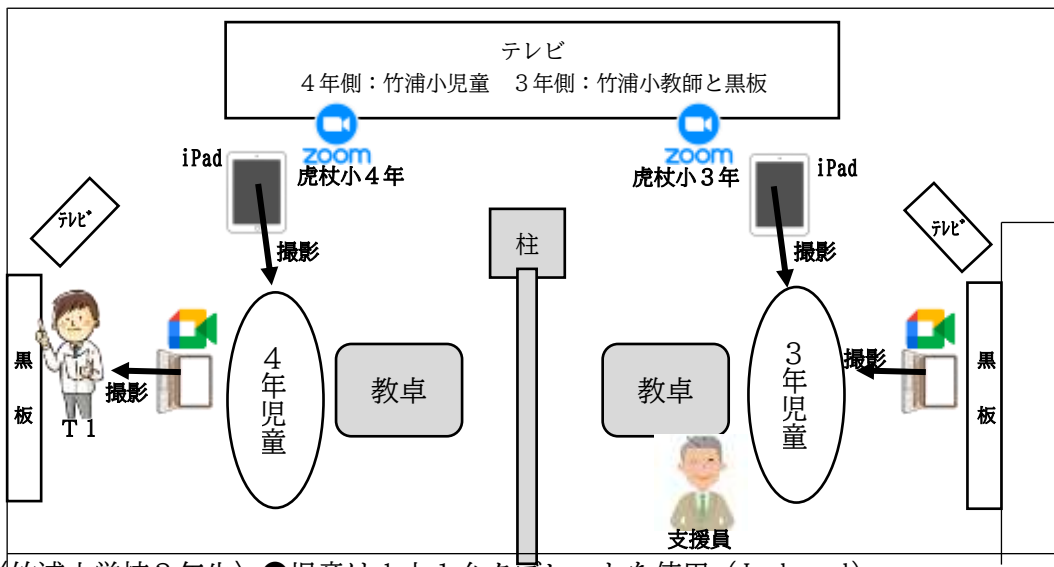
### ③今後の方向性

- 個別最適な学びとはどのような学びなのか、これまでの研修してきたことを土台とし、授業実践の中で検証して実践していくことが必要である。そのために、児童が自ら個別最適な学びをしていけるように、教員との関わりを通して学習ツールや学習の仕方をいかに実現していくのか研究していく。
- 「ゴール」に関する扱い方を再考していくことが必要であり、授業の導入を研究していくことが必要である。そのために、「ゴール」＝「課題・めあて」とならぬよう教員との関わりを通して、提示の仕方や導入の工夫等をしていく。
- リーダー学習の在り方に関して、検証・改善していくことが必要であり、児童や学級の実態に合わせた柔軟な指導体制を整えていくことが必要である。そのために学校で一律したガイドにとらわれない新たなリーダー学習等の研究をしていく。
- 持続可能な遠隔合同授業にしていくための仕組み作りや情報の蓄積を行っていくことが必要である。そのために、ICT を活用しながらこれまでの授業で行ってきたことをビルドアップしていく。
- 深め合える学び合い・伝えきれる発表にしていくことが必要である。そのために学び合いをする視点の与え方、学習形態の工夫・学習段階の検討や子どもと教員との関わり方の検討などを行っていく。また、発表する際の聞き手の育成を行っていく。

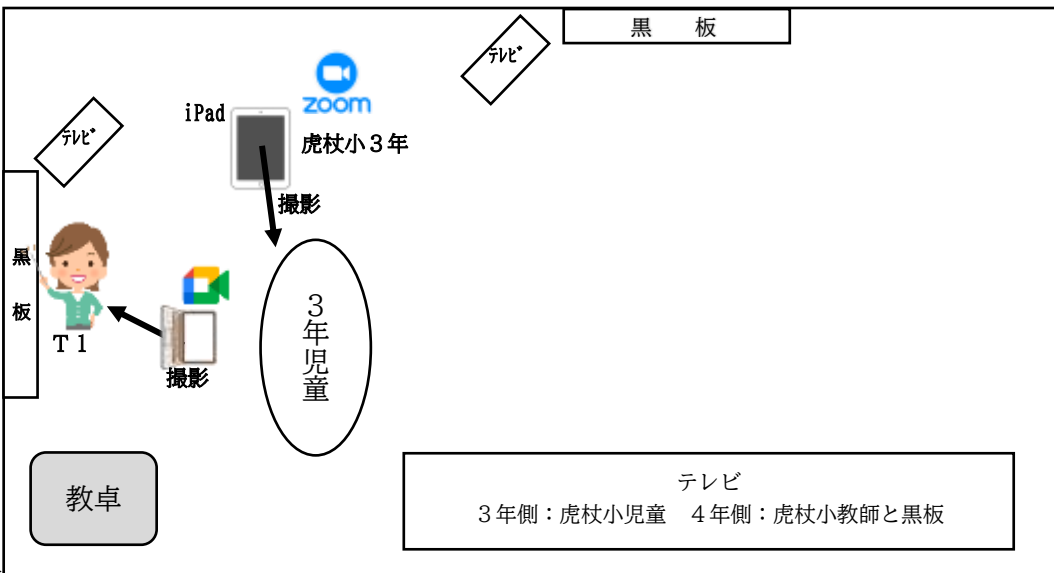


10 配信環境（配信状況の記録について）

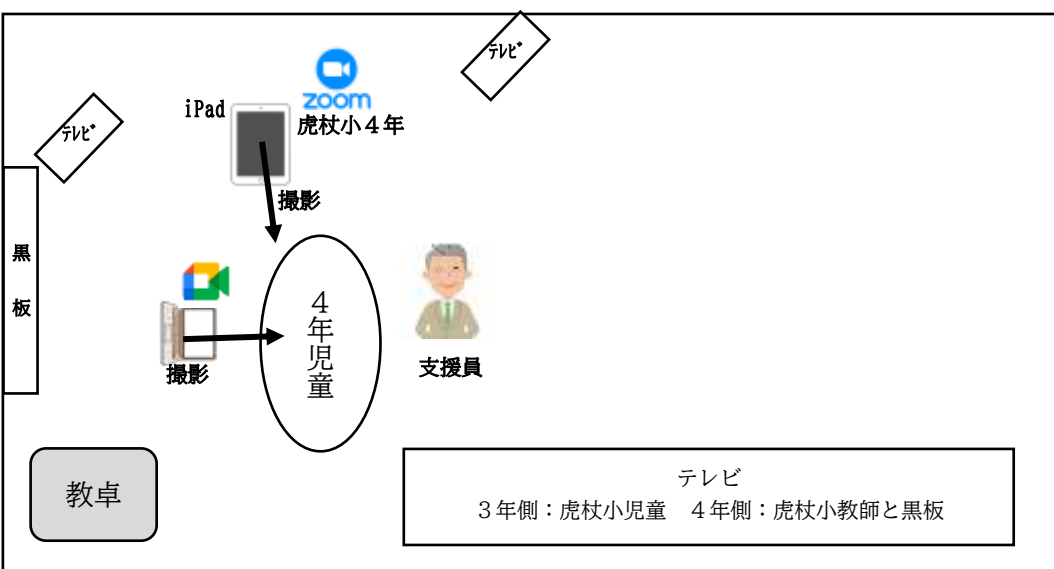
〈虎杖小学校3・4年生〉 ●児童は1人1台タブレットを使用（Jamboard）



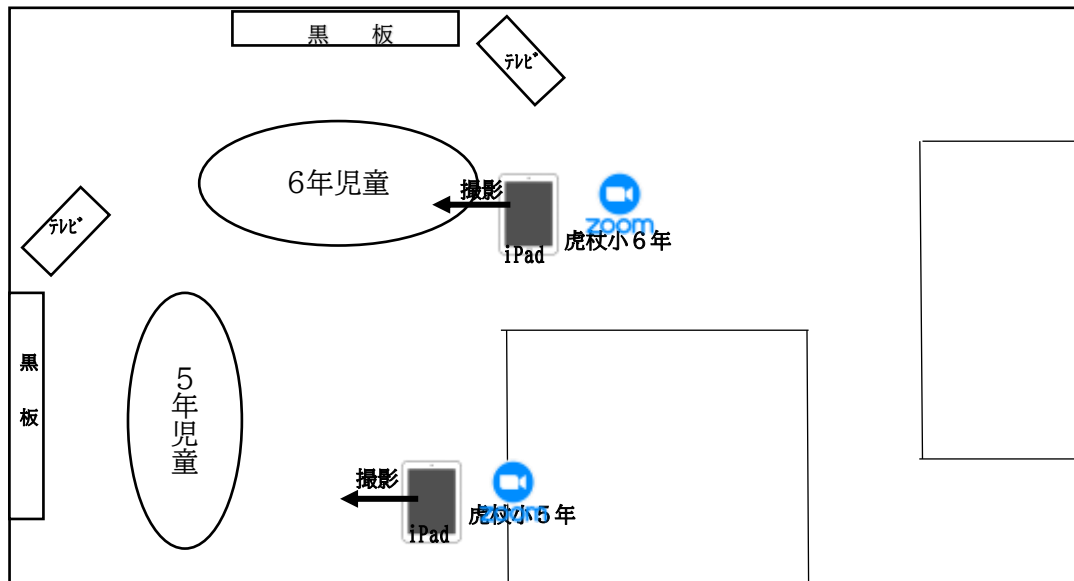
〈竹浦小学校3年生〉 ●児童は1人1台タブレットを使用（Jamboard）



〈竹浦小学校4年生〉 ●児童は1人1台タブレットを使用（Jamboard）



〈虎杖小学校5・6年生〉



# 第4分科会

## 【研究主題】

「主体的に学び合い、ともに高まろうとする児童の育成」

～リーダー学習の取組を通して～



苫小牧市立樽前小学校

# 授業の様子

【公開授業1：第4学年】



【公開授業2：第5・6学年】



# 研究の概要

## 1 研究主題

「主体的に学び合い、ともに高まろうとする児童の育成」  
～リーダー学習の取組を通して～

## 2 研究主題設定の理由

（学習指導要領から）

学習指導要領は、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で、児童に生きる力を育むことを目指すこと」を求めている。

（学校の現状から）

本校は全て複式学級である。複式であるがゆえに学習の中で、児童が発言したり学習リーダーになって学習を進めたりする機会が多く、自主学習や集団学習を行う習慣を形成しやすい。

（児童の実態から）

全体的に明るく素直な児童が多く、学習にも真面目に取り組んでいる。家庭学習の定着率も高い。

一方で、

- ・前の児童が発言した内容につなげて発言すること。
- ・学習リーダーがマニュアルにとらわれてしまうこと。
- ・活用問題が苦手な児童が多い。

ことなどが、課題として挙がっている。

（リーダー学習を切り口に）

授業は、教師と児童が共に創るものである。リーダー学習を取り入れて、児童だけで授業を完結させることを目指してはいない。また学習リーダーに授業の進め方のマニュアルを手渡せばうまくいくものでもない。

リーダー学習を切り口にするすることで、教師の授業観の転換や児童にどんな力が必要なのかを考えるきっかけとなる。そのことを通して、主体的・対話的で深い学びの実現を目指していきたい。



(教科の選定)

児童に生きる力を育むことは、学校教育の全ての領域や教科で求められることではあるが、教科としては「算数科」を選んだ。

- ・令和元年度から3年間算数科の研究を進めていて、その蓄積があること。
- ・教科書を使った授業の流れや学習内容の系統性が比較的明確なので、学習リーダーを育成しやすいこと。

が選定の理由である。

以上のことから、少人数の良さをいかし複式での学習指導を構築することで、子どもたちが主体的に学習を進め、互いの考えを伝えることを通してともに高め合うことを目指し、本研究主題を設定した。

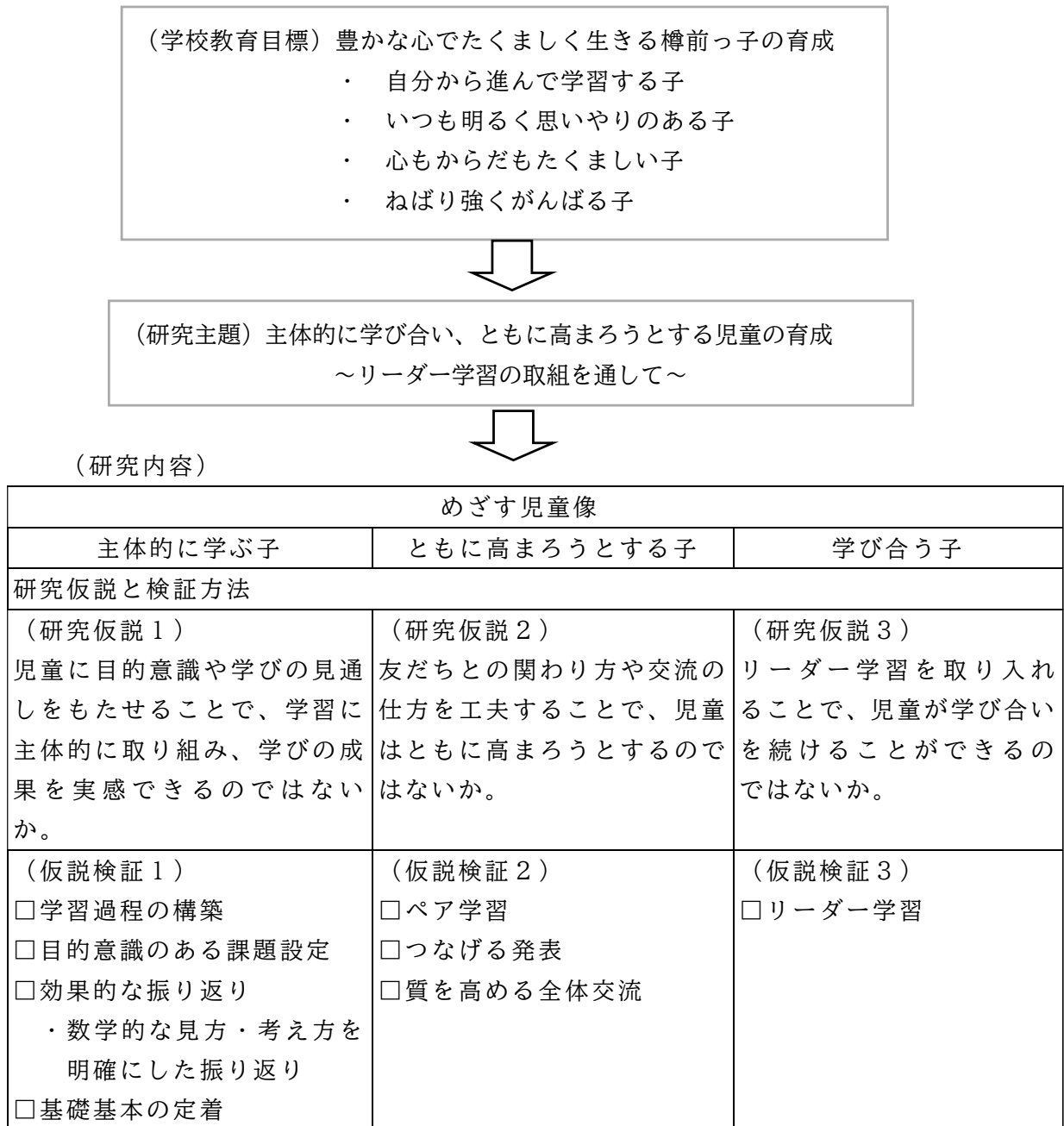
### 3 道へき複第10次長期5か年計画研究推進計画との関連

学校・学級経営 深化・充実	研究課題1：確かな経営理念の確立と、家庭や地域と連携した確かな学びを創る特色ある教育課程の創造と推進
(本校教育との関わり)	
・小規模、少人数の利点をいかし、地域に根ざした特色ある教育活動を計画する。 ・多様な体験を重視し、児童一人一人の個性や能力に応じた教育活動を推進する。	
学習指導の 深化・充実	研究課題6：主体性を育てる学習指導過程の改善と充実
(本校研究との関わり)	
・学習の見通しをもって、粘り強く課題を解決する。 ・つなげる発表を心がけ、発表の質を高める。 ・リーダー学習の確立を目指す。	





#### 4 全体構造図



授業を支える日常的な取り組み

- ・ 樽前スタンダード
- ・ 四則計算プリント
- ・ 教室の掲示物
- ・ ICTの活用
- ・ 学習のやくそく

タブレットの活用→



## 5 研究内容

(仮説1) 児童の主体性を育む学習展開の工夫  
児童に目的意識や学びの見通しをもたせることで、学習に主体的に取り組み、学びの成果を実感できるのではないか。

### (仮説検証1)

主体的な学びには、「なぜ学ぶのか?」という学びの目的と、「できた。」「わかった。」という学びの実感が必要である。

#### ① 課題意識の高まりについて

教科書には課題が書いてある。ただそれを自分事として考えている児童は少ない。児童に対して、課題に迫る発問をしたり解決の見通しをもたせたりする必要がある。児童の「やってみたい」「解いてみたい」という思いを引き出すには、様々な方法が考えられるが、大切なのが数学的な見方・考え方である。児童がどんな数学的な見方・考え方を働かせればよいのか、また児童にどんな数学的な見方・考え方を身につけさせたいのかを教師が明確にしておくことで、児童も目的意識を焦点化することができる。



↑ 解決の見通しをもたせる

#### ② 学びの実感について

まとめも教科書に書いてあるので、「今日のまとめは何かな?」と問いかけると、それを読み上げる児童もいる。ただ必ずしも児童の学びの実感がこもっているとは言えないこともある。児童1人1人が学んだことを能動的に振り返る必要がある。

やり方としては、

低学年→児童に「今日学んだことは何だったか。」を尋ねて、教師がまとめをする。

中学年→「今日学んだことをキーワードにするとどうなるか。」を尋ねて、教師と児童でまとめをする。

高学年→児童が主体となって、まとめをする。

と考えられる。

最初から教科書のような模範的な文章はできないかもしれないが、キーワードからでいいので、問いかけていくことが必要である。自分が今日学んだことはこれだ、としっかりとと言える児童を育てていく。

#### ③ 単元テスト後の時間の活用

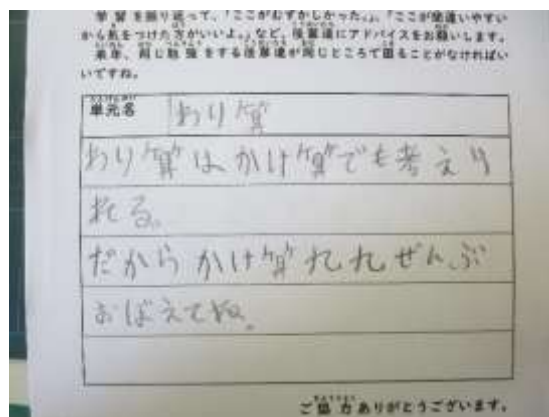
主体的な学びには、学習の見通しと振り返りが大事である。そこで取組を2つ行う。

ア 後輩に伝える振り返り

テストが終わった後に、「先輩として、後輩に伝えることはないだろうか?」と投げかける。「〇〇がむずかしいから気をつけて。」「〇〇を解くには、こうすれば

いいよ。」という児童の生の声を集める。児童が困ったと感じたことやつまずいたことは、樽前小の共有の財産となる。

次年度には、先輩達が自分たちに伝えてくれたこととして、受け止めて同じ轍は踏まないようにしようとするはずである。また一見、後輩に伝えるために振り返っているようだが、実は自分自身への振り返りでもあるので、「次は気をつけよう。」と考えるはずである。



↑ 単元学習後の振り返り

#### イ 単元の見通しに関わって

新しい単元が始まる前に、単元の終わりの「たしかめよう」の1番最後の問題を解いてみる。

- ・全く手も足も出ない子
- ・何とか解いてみようとして、四苦八苦する子
- ・すんなりと解ける子

など様々である。その児童が難しい問題にどう対応するかを見取することもできるし、レディネスにもなる。

時間は5分程度で切り上げて、「解けなくも大丈夫だよ。」と伝えておく。児童は、これからこんな勉強をするのだと見通しがもてるし、単元の学習が終われば、当然その問題が解けるようになっているので、学びの成果を実感することもできる。

#### (仮説2) 友だちと協働的に学ぶ交流の工夫

友だちとの関わり方や交流の仕方を工夫することで、児童はともに高まろうとするのではないか。

#### (仮説検証2)

##### ① ペア学習の活用について

- ペア学習の目的を
- ・全体交流の練習
  - ・単純な間違いの修正
  - ・解決のヒントをもらう

として考える。

誰と誰をペアにするのかというのも教師の工夫のしどころである。



↑ 全体交流の前のペア交流

## ②前の人につなげた発言

話し合いとは、対話である。対話では、話し手と聞き手が交互に入れ替わる。前年度までの取組で児童の話す力については、聞く力についても焦点を当てていきたい。

「相手の話を聞いているよ」ということを示すためにも、発表が2番目の児童からは、「つなげる言葉」を使って発表させる。ここで言うつなげる言葉というのは、「つけたしで」とか、「別の視点で」という言葉である。この言葉を使うためには、前の児童の発表を聞いていなければならない。

・「□□さんの考えにつけたしです。○○という言葉を入れるともっとわかりやすくなると思います。」

・「ぼくは、□□さんとは、別の視点から考えました。それは・・・」

といった発表ができると、話し合いの内容が充実してくる。



↑ホワイトボードを使った交流

## ③質を高める全体交流

これは、2つの側面がある。

1つは、それぞれが働かせた数学的な見方・考え方を持ち寄って、よりよいまとめにしていく全体交流である。

例えば、

・「○○という理由で、□□さんの発表がわかりやすかったです。」

→発表の質を競う。（よい発表を評価する視点が必要）

・「□□さんと答えは同じだけど、こんな解決方法もあるよ。」

→解決への視点を広げる。

もう1つは、間違いにも価値を見い出す全体交流である。友だちの誤答に対して、単に「間違っている。」と言うのではなく、「どのように考えたのか。」「どんなところに気をつけると正解になるか。」と捉える姿勢を育てていく。間違いをだめなことと捉えるのではなく、みんなが気をつけるべき落とし穴と捉えるとクラスの共有の財産になる。「次からどうすればいいかな。」と投げかけると児童からいいアイデアが出てくるはずである。

そのためには、普段から失敗を受けて止めたり、「わからない」と言えたりするクラスの雰囲気作りが大切である。

### （仮説3）リーダー学習の確立

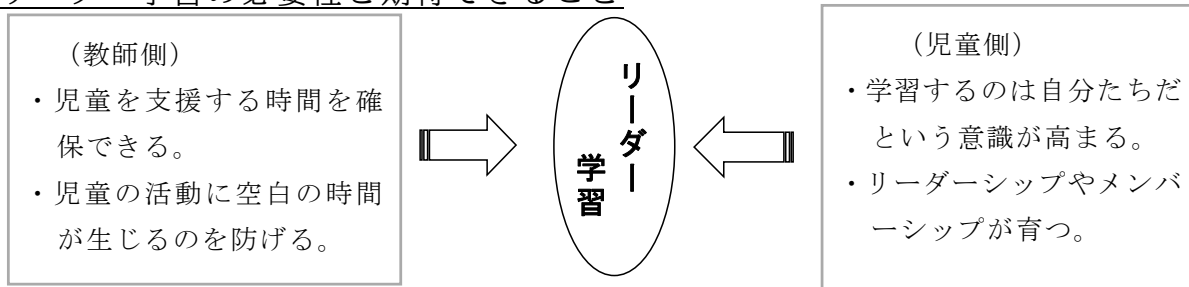
リーダー学習を取り入れることで、児童が学び合いを続けることができるのではないか。

### （仮説検証3）

#### ①リーダー学習とは

学級の児童を「学習リーダー」として、学習を進める方法である。

## ②リーダー学習の必要性と期待できること



決して、教師が手を出さず児童の進行だけで終わってしまうような授業を目指しているわけではない。深い学びのために、教師による発問や揺さぶりは必要である。ただ、学習の主体を少しずつ児童に移していくことで、できることを増やし自分で学び続けられる児童を育てていきたいと考える。

また、リーダー学習が円滑に進むようになるには、児童にどんな力が必要なのかを考える過程の中で、授業のあり方や教師の役割などを見直すことも期待できる。



↑ 学習リーダーによる進行

## ③リーダー学習に必要な力

リーダー学習を円滑に進めるためには、児童全員に次のような力を身につけることが必要である。

- |                     |   |            |
|---------------------|---|------------|
| ア 学習の流れを理解していること    | } | 1年次の研究との関連 |
| イ 一定程度の学力が身につけていること |   |            |
| ウ わかりやすい発表ができること    | } | 2年次の研究との関連 |
| エ 児童同士で話し合いができること   |   |            |

(アについて)

- 児童の活動が止まってしまうのは、次に何をしたらいいかわからないからである。学習の流れをある程度パターン化し、進め方を児童が理解することで、学習に見通しをもつことができる。

(イについて)

- 学習リーダーが、自分が出した答えに不安を感じているようでは困る。学習リーダーが自信をもって進めることができるように、どの児童にも算数の力をつける必要がある。ただ、すぐ忘れてしまう児童もいるので、学んだことが定着するような方策も必要である。



<定着のために>

- ・ペア学習を充実させる。
- ・家庭学習で、今日習った学習を復習する。
- ・既習事項を掲示し、いつでも確かめられるようにする。
- ・授業の冒頭で、前時に習ったことを振り返る。
- ・1分間四則計算プリントで、計算力の底上げをはかる。 など

(ウについて)

○「わかりやすい」とは、

- ・簡潔であること
  - ・「操作」の発表なら順序よく、「理由」の発表なら根拠が明確であること
  - ・算数用語や数学的見方・考え方が入っていること
- などが挙げられる。また、声の大きさや言葉の明瞭さも大事である。

(エについて)

○具体的には、「学級会の司会ができる力があるか。」ということである。幸いにも本校は少人数のため児童は発表の機会も多く、高学年になれば縦割り班活動などで全員の前に立って話し合いを進めていくことがある。算数科の時間だけでなく、様々な場面で自分たちで話し合っただけでなく、決定していく過程を経験させることで、先を見通して話を進めていく力やみんなの意見をまとめる力をつけさせていく。



## 6 これまでの成果と課題

(成果)

- ・昨年度から単元の見通しと振り返りのための取組を行っている。今年度はそれらを「算数ファイル」として1冊にまとめた。書き込みや見返しが容易になった。
- ・学習リーダーを日々輪番で行うことで、マニュアルを見なくても自信をもって進められるようになった。
- ・協力校と研修を行うことで、新たな視点をたくさん得ることができた。採択している教科書が違ったことで、教科書の構成の意図についてもより理解することができた。

(課題)

- ・「聞く力」については、児童への算数アンケートでも改善傾向が見られず、日々の様子からも依然として課題がある。話す側・聞く側の双方に相手意識をもたせるような指導を継続していく。
- ・全体交流をどのように進めていけば、より児童の考えが深まっていくのか研修を重ねていく必要がある。いつもホワイトボードで交流するのではなく、内容によって臨機応変に手段を選んでいく。



## 7 指導案

# 第4学年算数科学習指導案

日 時 令和5年 9月 14日 1校時

児童数 [第4学年]男子2名 女子4名 計6名

指導者 小保内 知博

1. 単元名 [第4学年]「わり算の筆算(2)」(東京書籍)

2. 単元の目標

[第4学年]

2～3位数を2位数でわる除法計算について理解し、その計算が確実にできるようにするとともに、数学的表現を適切に活用して計算を工夫したり計算の確かめをしたりする力を養うとともに、基本的な計算を基に考えた過程を振り返り、今後の学習に生かそうとする態度を養う。

3. 児童の実態

①学級全体の実態

4年生は、積極的に学習活動に取り組む児童がいる反面、算数への苦手意識や間違いたくないという気持ちから発言や活動に消極的な児童も多くいる。リーダー学習での話し合いにおいては、自分の番で自分の考えを発表できるものの、友だちの発表を比べながら聞いたり、似たところや違うところについて話したりするのは、全体的にできていない。

②児童個々の実態

[第4学年]

K・T	教師の発問に対し、積極的に自分の考えを発言しようとする。リーダー学習では、リーダーとして積極的に進めようとするが、友だちの考えを聞いて進めようとする姿勢はあまりない。そのため友だちの考えを聞いて進められるように指導している。ペア学習では、自分の考えを積極的に話すことができる。全体交流では、聞く人を見て話すように指導している。
S・M	教師の発問に対しては消極的で、友だちの発言を聞いていることが多い。ただリーダー学習では、リーダーとして積極的に話すことができる。ペア学習においても、積極的に話すことができる。全体交流では、消極的である。
S・K	教師の発問に対しては消極的で、友だちの発言を聞いていることが多い。リーダー学習では、リーダーに興味をもって取り組んでいるが、話し合いの進め方が身につけていない。ペア学習でも、消極的で友だちの発言を聞いていることが多い。
N・M	理解に時間がかかり、学習の中でつまづくことが多い。間違ふことを嫌がり、自信がないと、ノートに書いていても発表しないこともある。ペア学習では、消極的で友だちの発言を聞いていることが多い。「たしかめよう」は、難しいという意識から取り組むことができなかった。既習事項を糸口としてやってみようという意識を育てたい。
N・R	教師の発問に対しては積極的に挙手するが、自信のなさも見られる。まとめの際には、

	本時のポイントやキーワードを見つけて発言しようとする姿が見られる。リーダー学習では、リーダーとして自信をもって積極的に進めることができる。ペア学習でも積極的に話すことができる。全体交流では、自信のなさから、消極的な時もある。「たしかめよう」は全く手が出なかったが、取り組んでみようとする意欲は見られた。
M・M	教師の発問に対しては消極的で、友だちの発言を聞いていることが多い。ただリーダー学習では、リーダーに自信をつけてきていて、積極的に進めようとする。ペア学習では、積極的に話すことができる。全体交流では、自分から進んで発言はしない。

#### 4. 授業者の主張

##### ①研究内容2との関わり

<p>研究内容2</p> <p>友だちと協働的に学ぶ交流の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペア学習の活用</li> <li>・前の人につなげた発言</li> <li>・質を高める全体交流</li> </ul>
---

#### [第4学年]

##### ①ペア学習の活用

課題を考える時、まとめの文章を作る時に、昨年度からペア学習を取り入れている。今年度は、それらに加え、自力解決後のペア交流を効果的に用いたい。ペア交流は、全体交流の発表の練習として行っている。

自力解決が思うように進んでいない子に対しては、ペアの相手の発表を聞くことで、全体交流の前に自分の考えを整理させたい。それまでに、考えがもてないようであれば、自力解決の時間に適宜ペアで話すことも認めていきたい。間違いを恐れて発表に自信がもてない子に対しては、互いに答えや考え方の確認ができることで、発表前に自信をもたせたい。そして、発表が上手くできない子に対しては、発表の練習を互いに事前に見せ合うことで、発表の仕方のヒントとさせたい。

##### ②前の人につなげた発言

全体交流の場面でホワイトボードを使って、それぞれの考えを発表することはできているが、学びの深まりがなく、単発の発表に終わることが多い。互いの発表につなげていくことを意識させることで、相手の話を聞いたり、自分の考えと比較したりしたい。発表の最初に、「〇〇さんの考えと同じで・・・」「〇〇さんの考えに付け足しで・・・」などの言葉を使わせている。

##### ③質を高める全体交流

全体交流では、単発な発表に終わることなく、それぞれが働かせた数学的な見方・考え方をもち寄ってよりよいまとめにしていきたい。解決方法が複数だった時などは、それを取り上げて、解決方法の視点を広げたい。そのうえでどの解決方法がよいかを集団解決の中で話し合わせたい。どの解決方法がよいかという話し合いでは、は（はやく）か（簡単）せ（正確）という3つの視点で話し合わせている。

5. 単元の指導計画

[第4学年]

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	既習の除法の筆算の仕方や数のまとまりを用いて2～3位数を2位数でわる除法の計算をすることができる。	数量の関係に着目して、2～3位数を2位数でわる除法の計算の仕方を考え、説明している。	2～3位数÷2位数の除法の計算方法を、既習の除法の計算を基に考えたことを振り返り、多面的にとらえ検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしていたりしている。

・指導に生かす評価規準 ○記録に残す評価規準

時	目標	評価の観点
1	10のまとまりを用いて、何十でわる計算の仕方を理解し、説明することができる。	・【思・判・表】10のまとまりに着目し、何十でわる計算の方法を考え、説明している。
2	2位数÷2位数(仮商修正なし)の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。	・【知・技】既習の除法計算を基に2位数÷2位数の筆算を用いた計算をすることができる。
3	2位数÷2位数(仮商修正なし)の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。	・【知・技】既習の除法計算を基に2位数÷2位数の筆算を用いた計算をすることができる。
4	2位数÷2位数の筆算で、過大商をたてたときの仮商修正の仕方を理解し、その計算ができる。	・【知・技】商の見当を用いて、仮商をたて過大商のときの仮商を修正し計算することができる。
5	2位数÷2位数の筆算で、過小商をたてたときの仮商修正の仕方を理解し、その計算ができる。	・【知・技】商の見当を用いて、仮商をたて過小商のときの仮商を修正し計算することができる。
6 本時	除数に着目して、2位数÷2位数の筆算で、除数の切り捨てや切り上げを選んで仮商をたてて計算することができる。	・【思・判・表】除数の切り捨てや切り上げの選択方法に着目して、仮商の立て方を考え、説明している。
7	3位数÷2位数=1位数の筆算の仮商の立て方を2位数÷2位数の筆算の仕方を基に考え、説明することができる。	・【思・判・表】商のたて方に着目して、3位数÷2位数の筆算の仕方を考え、説明している。
8	3位数÷2位数=2位数の筆算の仕方を理解し、説明することができる。	○【思・判・表】既習の除法の筆算の仕方を基に、3位数÷2位数の計算の仕方を図や式を用いて考え、説明している。
9	2位数÷1位数=2位数の筆算の仕方を用いて、3位数÷2位数=2位数の筆算をすることができる。	・【知・技】既習の除法の筆算の仕方を用いて、3位数÷2位数=2位数の筆算ができる。
10	商に0がたつ場合(商が何十)の簡便な筆算の仕方や、除数が3桁の場合の筆算の仕方を、既習の除法の筆算の仕方を基に考え、説明することができる。	・【思・判・表】商の見当のつけ方に着目して、除数の桁数が増えても筆算の仕方が変わらないことを考え、説明している。

11	除法の性質について理解する。	・【知・技】被除数、除数の両方に同じ数をかけても、両方を同じ数でわっても、商は変わらないという、除法の性質を理解している。
12	末尾に0のある数の除法の簡便な筆算の仕方を既習の除法の計算の仕方を基に考え、説明することができる。	・【思・判・表】除法の性質に着目して、末尾に0のある数の除法の簡便な筆算の仕方を考え、説明している。
13	学習内容を適用して問題を解決する。	○【知・技】基本的な問題を解決することができる。
14	学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。	○【知・技】基本的な問題を解決することができる。 ○【態度】単元の学習を振り返り、価値づけたり、今後の学習に生かそうとしたりしている。

## 6. 本時の指導

### (1) 本時の目標

〔第4学年〕

【思・判・表】除数に着目して、2位数÷2位数の筆算で、除数の切り捨てや切り上げを選んで仮商をたてて計算することができる。

### (2) 本時の展開

〔第4学年〕

	学習活動	教師の働きかけ
つ か む み と お す 5 分	<p>④</p> <p>1、<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">5</span>の問題を全員で読み、問題をとらえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習リーダーが進める。</li> </ul> <p>⑤</p> <p>2、課題の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアで課題に入れるとよいキーワードや文章を考える。</li> </ul> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>わる数が25のときの、かりの商の立て方を考えよう。</p> </div> <p>3、解決方法の見通しをもつ。</p>	<p>○割る数の25を何十と見たらよいのか考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・20</li> <li>・30</li> </ul> <p>○ペアで話し合わせ、課題の文章を組み立てるキーワードなどを出させる。</p> <p>○前時までとの違いを確認しながら本時の課題を明確にする。(25は20と30の真ん中だからどっちで考えたらいい?)</p> <p>○これまでの学習から使えそうな方法を確認する。</p>

		<p>仮の商を立て方を考える。</p> <p>20に近いと考え、わる数と20とみる。</p> <p>30に近いと考え、わる数を30とみる。</p> <p>商が大きすぎたら1小さくする。</p> <p>商が小さすぎたら1大きくする。</p> <p>「ノートに、割る数を20とみた時、30とみた時の両方で筆算しましょう。先にやる方は、自分で選びましょう。筆算ができたら、両方の筆算をしてわかったことや考えたことを書きましょう。ホワイトボードには、筆算は書きません。わかったことや考えたことだけを書きます。説明するとき、もし筆算が必要だったらノートをテレビに写してもよいです。」</p>
とく し べ る 1 4 分	<p>④</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>4、自分の考えをまとめる。</li> <li>ノートに自分の考えをまとめ、ホワイトボードに書く。</li> <li>ペアで交流する。発表の練習をする。</li> </ul>	
ま と め る 1 1 分	<p>5、考えの交流を行う。 (集団解決)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ホワイトボードを使い、考えを説明する。途中の場合も、書けたところ(説明できるところ)まで発表する。</li> <li>学習リーダーが進める。</li> </ul> <p>⑤</p> <p>6、課題に対して、どのようなことが分かったのかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ペアでまとめに入れるとよいキーワードや文章を考える。</li> </ul> <p>わる数が25のときは、20とみても30とみてもいい。</p>	<p>○ホワイトボードが書けなかった場合は、ノートをテレビに映させる。</p> <p>【思・判・表】除数の切り捨てや切り上げの選択方法に着目して、仮商の立て方を考え、説明している。(観察・ノート)</p> <p>○考え方の共通点を考えさせ、まとめにつなげさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>どちらも答えにたどりつく。</li> <li>どちらも商を1回直している。(修正1回)</li> </ul>

		<p>○本時の課題に戻り、どう解決したのかを確認しながらまとめを行う。</p> <p>○ペアで話し合わせ、まとめの文章を組み立てるキーワードなどを出させる。</p> <p>○自分のやりやすい方で計算させる。</p>
ふかめる15分	<p>7、練習問題を解く。</p> <p>・早く終わったら、eライブラリに取り組む。</p>	<p>○仮の商を立ててから計算させる。</p> <p>○時間があれば、練習問題で、割る数を小さくみたのか、大きく見たのかを尋ねる。</p>



(3) 板書計画・ノート計画

[第4学年]

<p>9/14 P.104</p> <p>問5 <math>87 \div 25</math></p> $\begin{array}{r} 25 \overline{) 87} \end{array}$ <p>5はまん中 わる数を { 20とみる。 30とみる。</p> <p>課 わる数が25のときの、かりの商の立て方を考えよう。</p> <p>・今までの筆算と同じようにやってみる。 ・かりの商を立て方を考える。 ・商が大きすぎたら1小さくする。 ・商が小さすぎたら1大きくする。</p>	<p>自</p> <table border="1"> <tr> <td>どちらも同じ こたえになる。</td> <td>ひき算しないで もいいので、3 0の方がらく。</td> </tr> <tr> <td>小さい数字の 方がけいさん がかんたにな るので、20。</td> <td>こたえを直すの が1回なので同 じ。</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>主</p> <p>わる数が25のときは、20とみても30とみてもいい。</p>	どちらも同じ こたえになる。	ひき算しないで もいいので、3 0の方がらく。	小さい数字の 方がけいさん がかんたにな るので、20。	こたえを直すの が1回なので同 じ。			<p>練</p> <p>7</p> <p>8</p> <p>9</p>
どちらも同じ こたえになる。	ひき算しないで もいいので、3 0の方がらく。							
小さい数字の 方がけいさん がかんたにな るので、20。	こたえを直すの が1回なので同 じ。							

[第4学年]

9/14 P.104

問5  $87 \div 25$

5はまん中  
わる数を { 20とみる。  
30とみる。

課  
わる数が25のときの、かりの商の立て方を考えよう。

・今までの筆算と同じようにやってみる。  
・かりの商を立て方を考える。  
・商が大きすぎたら1小さくする。  
・商が小さすぎたら1大きくする。

自

どちらも同じ こたえになる。	ひき算しないで もいいので、3 0の方がらく。
小さい数字の 方がけいさん がかんたにな るので、20。	こたえを直すの が1回なので同 じ。

主

わる数が25のときは、20とみても30とみてもいい。

練

7

8

9

## 第5・6学年算数科学習指導案

日時 令和5年 9月 14日 2校時

児童数 [第5学年]男子2名 女子0名 計2名

[第6学年]男子2名 女子2名 計4名

指導者 奈良 美里

1. 単元名 [第5学年]「分数と小数、整数の関係」(東京書籍)

[第6学年]「円の面積」(東京書籍)

2. 単元の目標

[第5学年]

整数の除法の結果を分数で表すこと及び分数と小数、整数の関係について理解し、分数の表現に着目してこれまで学習した分数の意味をまとめるとともに、除法の結果を分数で表したり分数と小数、整数の関係について考えたりした過程を振り返り、そのよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。

[第6学年]

円の面積の計算による求め方について理解し、図形を構成する要素などに着目し、図形の面積について考える力を養うとともに、円の面積の求め方を簡潔かつ的確な表現として公式として導いた過程を振り返り、多面的に粘り強く考えたり、今後の生活や学習に活用したりする態度を養う。

3. 児童の実態

①学級全体の実態

5年生は、理解力や既習事項の定着に個人差があり、ペア交流や本時のまとめに向かう際に消極的になってしまう児童がいる。自力解決の段階で自分の考えをもてないことや自信のなさが関係していると考えられる。学習リーダーは進め方のマニュアルに沿って進めることができるが、交流においてはノートやホワイトボードに書いた式や答えを読むだけの発表になってしまい、考えの根拠が説明できていない。また、考えをつなげたり比べたりしながら発表することもできていない。

6年生は、ペア交流や全体交流でも自分の考えを積極的に発表しようとする姿が見られる。しかし、新しく出てきた課題などをじっくりと考えるのが苦手な児童が多く、考えがまとまらないときや自信のないときには受け身な様子が見られることもある。自力解決の場面で友達同士声をかけ合うことが自然にできる反面、自力解決で自分の考えがもてない、説明できないまま交流を始めてしまい、考えを深められないことがある。

全体交流においては、似ている考えで仲間分けをしたり発表順を考えたりすることはできるが、考え方の根拠を説明できずにノートやホワイトボードに書いた式や答えを読むだけの発表になってしまうことが多い。考え方をつなげたり比べたりして話すことはできていない。

## ②児童個々の実態

### 〔第5学年〕

U・T	理解に時間がかかり、学習の中でつまづくことが多い。ペア交流では自分の考えに自信をもって話すことがあまりできない。自力解決に時間がかかってしまい、交流が友達の考えを聞くだけの時間になってしまうこともある。自力解決に入る前にしっかり見通しをもたせ、必要に応じて具体物やヒントカードを用意する。
O・A	自信がないときや十分に理解ができないときには、課題やまとめの文章を考えることを人任せにしてしまう様子が見られる。感覚で解決してしまうことがあり、自分の考え方を説明できないことがある。根拠を持って説明できるようにしたい。U・Tくんが困っているとすぐに声をかけ一緒に考えようとする。

### 〔第6学年〕

K・R	新しい課題などでは、理解に時間がかかることがある。必要に応じて図を用いたり既習事項を確認したりする。全体交流では、自分と違う考え方をした友達と対立してしまうことがあるため、考え方の根拠を意識して聞くことができるようにしたい。
K・M	自力解決で困ってしまうとすぐに友達を頼ってしまい、ペア交流や全体交流が友達の考えを聞くだけの時間になってしまうことがある。自力解決に入る前にしっかり見通しをもたせ、必要に応じて既習事項の確認や図などの提示を行う。教科書の考え方を参考に自力解決を行うことが多いため、自分の言葉で説明する力をつけさせたい。
N・H	問題が把握でき、見通しがもてると自分で解決できるが、ノートやホワイトボードにまとめるのに時間がかかってしまい、ペア交流や全体交流に入れないことがある。書画カメラでノートを映したり、自分の考えと似ている友達のホワイトボードを使って説明したりするなどできるようにしたい。
H・M	予習をしているため余裕をもって学習に取り組むことができるが、問題をよく理解しないで学習を進めようとしたり、過程が落ちていたりすることがあるため、丁寧に取り組めるようにしたい。全体交流では、自分と違う考え方をした友達と対立してしまうことがあるため、考え方の根拠を意識して聞くことができるようにしたい。

## 4. 授業者の主張

### ①研究内容2との関わり

<p>研究内容2</p> <p>友だちと協働的に学ぶ交流の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペア学習の活用</li> <li>・前の人につなげた発言</li> <li>・質を高める全体交流</li> </ul>
---

### 【第5学年】

#### ①ペア学習の活用

自力解決の時間を取った後にお互いの考えを交流したり発表の練習をしたりする場としてペア学習を行う。また、考える過程で困ったところを交流する時間としても活用したい。お互いの

考えを交流する中で、考えの共通点や違う点について話し合わせたい。学習のメリハリをつけるため、困ったことを相談する際は自分の席で、考えを交流する際は黒板に貼ったホワイトボードの前で、と場を変えて行いたい。

また、ペア学習がスムーズに進むようにするために、自力解決に入る前にどんな解決方法がありそうかを一緒に考え、しっかりと見通しをもって取り組めるようにしたい。また、自力解決の時間を確保し、自分自身で取り組む時間も大切にしたい。

### ②前の人につなげた発言

直接指導である「まとめる」段階において、教師に対して自分の考えを再度発表する。その際、2番目に発表する児童には、ペア学習で話し合った考えの共通点や違う点を踏まえて「○○さんと同じ考え方で」「○○さんとは違う考えで」という言葉を使わせる。また、教科書に載っている考え方を確認する際にも、「同じ」「似ている」「違う」などの言葉を使いながら発表できるように意識づける。

### ③質を高める全体交流

全体交流の際には、ノートやホワイトボードに書いたものをただ読むだけの発表にならないよう、考え方の根拠を説明させる。考え方の根拠を意識して聞くことで、[②前の人につなげた発言]も効果的に行うことができると考える。

「まとめる」段階では、教師に対して自分の考えを発表する中で出てきた考えや教科書の考えの共通点やよさを確認し本時のまとめを行っていききたい。いくつかの考えが出てきた場合は、どんな場合でも使える方法はどれかについて考えていく。

## 【第6学年】

### ①ペア学習の活用

自力解決の時間を取った後に、お互いの考えを交流したり発表の練習をしたりする場としてペア学習を行う。また、考える過程で困ったところを交流する時間としても活用したい。お互いの考えを交流する中で、考えの共通点や違う点を意識し、全体交流でどのようにつなげて発表できるかも考えさせたい。また、ペア学習がスムーズに進むようにするために、自力解決に入る前にどんな解決方法がありそうかを一緒に考え、しっかりと見通しをもって取り組めるようにしたい。また、自力解決の時間を確保し、自分自身で取り組む時間も大切にしたい。

さらに、必要に応じて課題設定時やまとめを考える際にも、ペア交流を取り入れ、自分事として学習に取り組むことができるようにする。

### ②前の人につなげた発言

ホワイトボードを黒板に貼る際、似ている考え同士で仲間分けをしたり、その仲間分けをもとに発表順を考えたりすることができるが、それぞれの考えをつなげて発表することはできていない。ペア交流時に自分と友達の考えを比べながら発表の練習をすることで、まずは自分とペアの友達の考えをつなげて発表することを意識させたい。さらに、他の友達の考えや教科書に載っている考え方を確認する際にも、「同じ」「似ている」「違う」などの言葉を使いながら発表できるように意識づけていきたい。

③質を高める全体交流

全体交流では、いくつかの考えが出た時にそれぞれが自分の考え方が「は（はやく）・か（簡単）せ（正確）」であることを主張し対立してしまうことがある。自分と違う考え方を否定するのではなく、相手の考え方の根拠を聞き、どのような部分が共通しているのかなどを交流できるようにしていきたい。また、ペア学習の中で考えた困ったところを全体で確認し、解決できる場になるようにしたい。

5. 単元の指導計画

[第5学年]

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	整数の除法の結果は分数を用いると1つの数で表せることや、分数と小数、整数の関係を理解するとともに、 $a \div b$ を $a/b$ 、 $a/b$ を $a \div b$ とみたり、分数を小数で表したり、小数、整数を分数の形になおしたりすることができる。	分数の表現に着目し、分数を整数の除法の結果としてとらえたり、分数と小数、整数の関係をとらえたりするとともに、それらを分数や式を用いて考え表現している。	整数の除法の結果を分数で表したり、分数と小数、整数の関係を考えたりした過程や結果を振り返り、多面的にとらえ検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしていたりしている。

・指導に生かす評価規準 ○記録に残す評価規準

時	目標	評価の観点
1	整数の除法の商は分数を用いて表せることを理解することができる。	・【知・技】整数の除法の商は分数で表せることを理解している。
2	整数の除法の商を分数で表すことができる。	・【知・技】整数の除法の商を分数で表したり、分数を整数の除法の式で表したりすることができる。
3	分数倍の意味について、整数倍や小数倍の意味を基に図を活用して考え、説明する。	・【思・判・表】分数の意味について、既習の整数倍や小数倍の意味と関連づけて考え、説明している。
4	整数の商を分数で表せることを活用して、分数を小数で表すことができる。	○【知・技】分数を小数で表す方法を理解し、分数を小数や整数であらわすことができる。
5 本時	小数や整数を分数で表す方法を考え、説明することができる。	○【思・判・表】小数の構成に着目して、小数を分数で表す方法を考え、説明している。
6	学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。	○【態度】単元の学習を振り返り、価値づけたり、今後の学習に生かそうとしていたりしている。

[第6学年]

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	円の面積について、求め方や計算で求められることを理解し、円の面積を求める公式を用いて円などの面積を求めることができる。	図形を構成する要素などに着目し、円などの面積の求め方を図や式を用いて考え、説明している。	円の面積の求め方を簡潔かつ的確な表現として公式として導いた過程を振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気付き学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしていたりしている。

・指導に生かす評価規準 ○記録に残す評価規準

時	目標	評価の観点
1	円の面積の求め方を考えることができる。	・【態度】円のおよその面積を、単位面積の何こ分の考えや円に外接、内接する正多角形などを基にして求めようとする。
2	円のおよその面積を求めることができる。	
3	円の面積を求める公式を理解することができる。円の面積を求める公式を、半径×半径に着目して読み取り、円周率についての理解を深める。	・【知・技】円の面積も計算で求められることを理解している。
4	多様な方法で円を含む複合図形の面積の求め方を考え、図や式を用いて説明することができる。	・【思・判・表】円を含む複合図形の面積について、既習の求積可能な図形の面積を基にして分割して考え、図や式を用いて説明している。
5	単元の学習の活用を通して事象を数理的にとらえて論理的に考察し、問題を解決することができる。	○【知・技】学習内容を適切に活用して筋道立てて考え、問題を解決している。
6	学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。	○【思・判・表】数学的な着眼点と考察の対象を明らかにしながら、単元の学習を整理している。 ○【態度】単元の学習を振り返り、価値づけたり、今後の学習に生かそうとしていたりしている。



6. 本時の指導

(1) 本時の目標

[第5学年]

【思・判・表】小数や整数を分数で表す方法を考え、説明することができる。

[第6学年]

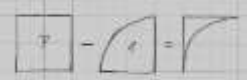
【思・判・表】多様な方法で円を含む複合図形の面積の求め方を考え、図や式を用いて説明することができる。

(2) 本時の展開

[第5学年]

[第6学年]

	学習活動	教師の働きかけ	わたり	教師の働きかけ	学習活動	
つかむ・読みとのおす	<p>①</p> <p>1、②の問題を全員で読み、問題をとらえる。</p> <p>・学習リーダーが進める。</p> <p>②</p>				<p>1、前時までの学習に関わる復習問題に取り組む。</p> <p>・答え合わせは学習リーダーが行う。</p>	ふかめる
10分	<p>小数や整数を分数で表す方法を考えよう。</p> <p>3、解決方法の見通しをもつ。</p> <p>・0.3について考える。</p>	<p>○単元の導入で確認した既習の分数と小数の関係を提示する。</p> <p>0.3は0.1が3こ分と考えられる</p> <p>0.1 = 1/10</p> <p>○「初めに、何をもとにして考えたのかを示してから、どう考えたのか説明しましょう。」</p>				

<p>とく し ら べ る 1 0 分</p>	<p>① ・ 4、自分の考えをまとめる。 ・ 0.29、1.57を分数で表す方法を考える。 ・ ノートとホワイトボードに自分の考えをまとめる。 ・ まとめたら黒板にはりつけ、発表の練習をする。</p> <p>5、ペア交流を行う。 ・ ホワイトボードやノートを使い、自分の考えを交流する。 ・ 考えが途中の場合も、考えたところまで交流を行う。</p>	<p>0.29、1.57 は 0.01 をもとに すると考えら れる 0.01=1/100</p>		<p>○図を提示する。 ○3つの図形の面積を確認する。</p> <p>既習の図形を組み合わせれば、求められる。正方形、円の4分の1、直角三角形はすぐに求められる。</p> <p>○デジタルコンテンツを提示する。 ○図形シートを提示する。 ○「まずは図を組み合わせて求める図形を見つけましょう。組み合わせが見つかったら、組み合わせ方を図の式で表しましょう。(例)</p>  <p>この図の式をもとに自分の考えを説明しましょう。」</p>	<p>② 2、<b>4</b>の問題を全員で読み、問題をとらえる。 ・ 学習リーダーが進める。</p> <p>③ 3、課題を確認する</p> <p><b>図形</b>のような図形の面積の求め方を考えよう。</p> <p>4、解決方法の見通しをもつ。 ・ デジタルコンテンツかシートのどちらかを選んで使う。</p>	<p>つ か む ・ み と お す</p>
---	--	---	--	---	--	--

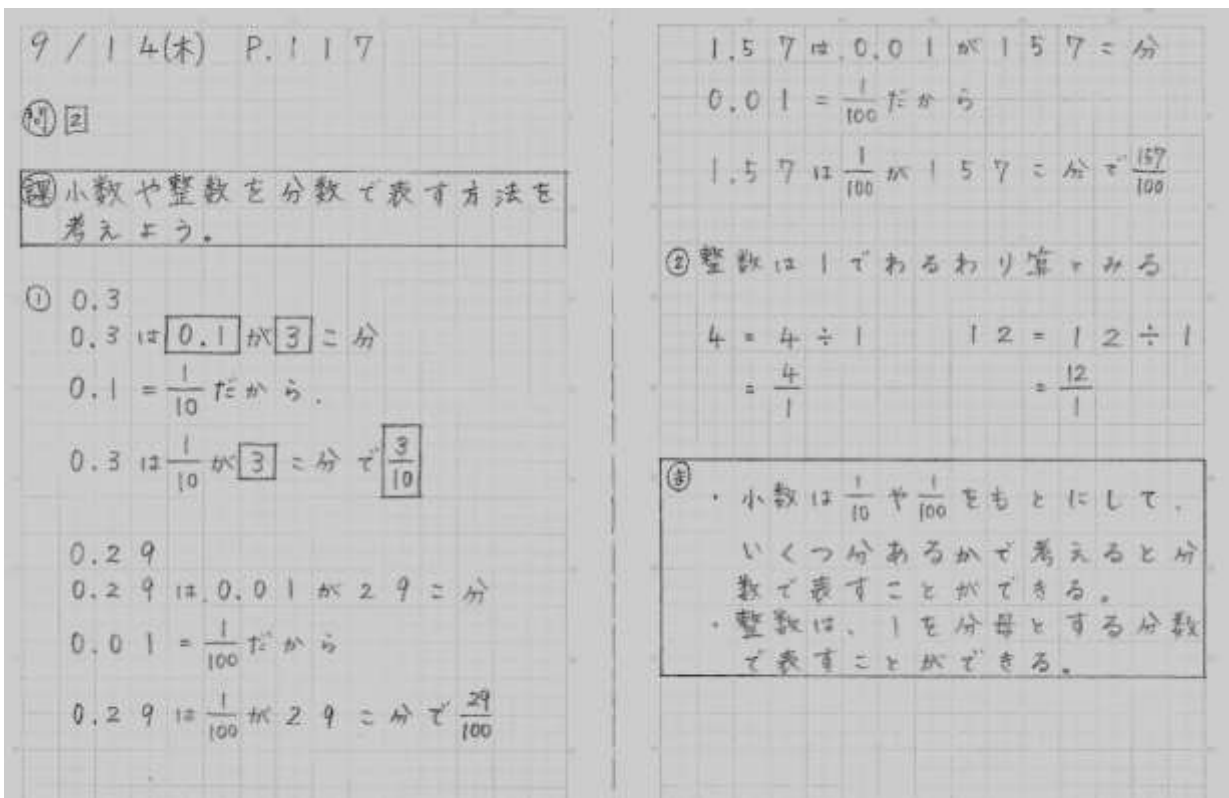
<p>まとめる</p> <p>1 2 分</p>	<p>6、考えの交流を行う。 (集団解決)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホワイトボードを使い、考えを説明する。途中の場合も、書けたところ(説明できるところ)まで発表する。</li> <li>・学習リーダーが進める。</li> </ul> <p>7、整数を分数で表す方法について確認する。</p> <p>④</p> <p>8、課題に対して、どのようなことが分かったのかを考え、まとめる。</p>	<p>○【思・判・表】小数の構成に着目して、小数を分数で表す方法を考え説明している。 (説明・ノート)</p> <p>○教科書を使い、整数を分数で表す考え方を確認する。</p> <p>○本時の課題に戻り、どう解決したのかを確認しながらまとめを行う。</p>		<p>⑤</p> <p>5、自分の考えをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ノートに自分の考えをまとめる。</li> <li>・ノートに書き終わったら、ホワイトボードに図形の組み合わせをまとめる。</li> <li>・早く終わったらその他の考え方を試す。</li> </ul> <p>6、ペア交流を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホワイトボードやノートを使い、自分の考えを交流する。</li> <li>・考えが途中の場合は考えたところまで交流を行う。</li> </ul>	<p>とく・しらべる</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・小数は、<math>1/10</math> や <math>1/100</math> をもとにしていくつ分あるかで考えると分数で表すことができる。</li> <li>・整数は、1 を分母とする分数で表すことができる。</li> </ul>					

<p>ふかめる 1 3 分</p>	<p>9、練習問題を解く。 ・答え合わせは学習リーダーが進める。 ・終わったら、eライブラリに取り組む。</p>	<p>○答え合わせでは、どう考えると分数で表すことができるのかを説明させる。</p>	<p>○【思・判・表】円を含む複合図形の面積について、既習の求積可能な図形の面積を基にして分割して考え、図や式を用いて説明している。 (説明・ノート)</p> <p>○全員の解き方が重なり、深まりがない時には、教科書での解き方を例に挙げ、その考え方について考えさせる。</p> <p>○本時の課題に戻り、どう解決したのかを確認しながらまとめを行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>図形のような部分の面積は、面積が求められる図形の組み合わせ方を考えれば求められる。</p> </div> <p>○答え合わせでは、どのような図形をもとにして考えたのかを説明させる。</p>	<p>⑦</p> <p>7、考えを交流する。 (集団解決) ・ホワイトボードを黒板に貼り付けて交流する。(考え毎にまとめて貼る)書けなかった場合は、ノートをテレビに映す。 ・学習リーダーが進める。</p> <p>⑧</p> <p>8、課題に対して、どのようなことが分かったのかを考え、まとめる。</p> <p>9、練習問題に取り組む。 ・答え合わせは学習リーダーが進める。 ・終わったら、eライブラリに取り組む。</p>	<p>まとめる</p>
-------------------------------	--	--	---	--	-------------

(3) 板書計画・ノート計画

[第5学年]

<p>5年 9/14 P.117</p> <p>① 1</p> <p>②</p> <p>小数や整数を分数で表す方法を考えよう。</p> <p>・0.3だと・・・ 0.1が3に分 0.1 = 1/10      0.3 = 3/10</p> <p>・0.1をもとにする ・0.01をもとにする</p>	<p>①</p> <table border="1"> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・何をもとにして考えたか。</li> <li>・いくつ分と考え分数に表したか。</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・何をもとにして考えたか。</li> <li>・いくつ分と考え分数に表したか。</li> </ul> </td> </tr> </table> <p>・0.29や1.57は0.01をもとにすると分数に表せる。</p> <p>② 整数は1でわるわりざんとみることができる。</p> <p>4 = 4 ÷ 1      12 = 12 ÷ 1 = 4/1              = 12/1</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何をもとにして考えたか。</li> <li>・いくつ分と考え分数に表したか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何をもとにして考えたか。</li> <li>・いくつ分と考え分数に表したか。</li> </ul>	<p>③</p> <p>・小数は、1/10 や 1/100 をもとにしていくつ分あるかで考えると分数で表すことができる。</p> <p>・整数は、1を分母とする分数で表すことができる。</p> <p>④ △3</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・何をもとにして考えたか。</li> <li>・いくつ分と考え分数に表したか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何をもとにして考えたか。</li> <li>・いくつ分と考え分数に表したか。</li> </ul>			



<p>6年 9/14 P.111</p> <p>問 4</p> <p>②</p> <p>課</p> <p>図形のような図形の面積の求め方を考えよう。</p> <p>見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図に線を引いて分ける。</li> <li>・どの図形が重なっているか。</li> <li>・図をかいてから式に表す。</li> </ul>	<p>白</p> <p>図をならべる</p> <p>図をならべる</p> <p>図をならべる</p> <p>図をならべる</p> <p>友</p> <p>はると・・・イからウをひいた部分が2つ分という考え方があみ・・・アからイをひいた部分をアから2つ分ひく考え方がりく・・・イ2つ分からアをひくと重なった部分の面積が求められるという考え方</p>	<p>どの考え方も、アイウの面積(求められる図形)をもとに組み合わせたり引いたりしている。</p> <p>主</p> <p>図形のような部分の面積は、面積が求められる図形の組み合わせ方を考えれば求められる。</p> <p>練 △3</p>
---	---	---

9/14(木) P.111

課

見

ア - イ =

ア - (イ + ウ) =

100 - 78.5 = 21.5

100 - (21.5 × 2) = 57

4.57 cm<sup>2</sup>

友

はると・・・イからウをひいた部分が2つ分

りく・・・イ2つ分からアをひくと、が残る

主

図形のような図形の面積は、面積が求められる図形の組み合わせ方を考えれば求められる。

練 △3



## 8 研究協議

### (1) 授業者から

小保内 知博 教諭

#### 【4年生】

- 自分の考えたことはホワイトボードにかけていた。
- ペア交流では友達に説明することができていたのはよかった。
- 練習問題は自力で解けていたので理解できていたと思う。
  - ・見通しに時間をかけすぎた。商の立て方が落ちていなかった。
  - ・前時のふりかえりの工夫が必要だった。
  - ・自力解決で落ちていない子がいた→ヒントカードの活用・指示が足りなかった。

奈良 美里 教諭

#### 【5年生】

- ペアで相談する場面について、今日はあまり見られなかったが発表時につながる発言ができていた。
  - ・練習問題でどう考えたかを見取ることができなかった。

#### 【6年生】

- タブレットをつかって自分たちで図形の組み合わせを考えることはできた。
- ペア交流では自分のやり方を説明することができていた。
  - ・答えまでたどり着けたか見取ることができなかった。
  - ・全体交流で深める時間を増やすために前半はもう少し短時間でできたらよかった。
  - ・タブレットで考える子が多かったので、全体発表もタブレットの活用が必要だった。

### (2) 協議内容

#### 討議の柱1 ペア学習の活用について

- ・児童が、目的をもってペア学習に取り組むことができているか。
- ・ペア学習が、一人一人の児童の学びに有効に活用されているか。

#### 討議の柱2 つなげる発表や質を高める全体交流について

- ・児童は自分の学びのために、話したり聞いたりすることを意識してできているか。
- ・全体交流を深めるために、どのような手立てが考えられるか。

## 【成果】

(4年生)

視点1	○ペア学習が積極的に取り入れられていた。 ○ヒントカードが有効だった。
視点2	○ホワイトボードを活用することで考えを共有することができていた。
リーダー学習 ・その他	○司会役の児童が流れをつかんでしっかりと運営していた。 ○学習段階がわかりやすかった。

(5・6年生)

視点1	○5年生は自然とお互いに考えを交流し合っていた。 ○練習問題を解くときに困っている友だちに教えている子がいた。
視点2	○「聞く」ということを日常から意識されていたから、疑問もうまれていたと思う。 ○5年生は、「○○くんと同じ考えで～」と自分と比べて考えを聞いていた。 ○5年生はお互いに確認、直しまでどんどん出していたのがよい。考えや気づき、ミスまで共有できていた。
リーダー学習 ・その他	○ペアの形やリーダーの役割をよく自覚して学習が流れていた。 ○本時のゴールがしっかりと伝えられていたことで思考が深まった。 ○見通しで、何をすべきか何が使えるか(既習事項)を丁寧に確認していたことで、一人学習でつまづく子がいなかった。 ○課題作りが教師と児童の共同作業でできていた。 ○ICTの活用の有効性を学ぶことができた。 ○6年生は個別最適化の学びができていた。 →デジタルコンテンツか透明の図形かを選ぶことができた ○わたっている時も、もう一方の学年の様子を気にかけていた。

## 【課題】

(4年生)

視点1	●ペア学習の目的を明確にすることが大事である。 ●児童の活動を見通して、教師の出番も必要である。
視点2	●意見交流でタブレットを活用や板書の保存などもできる。
リーダー学習 ・その他	●タイムキーパーやまとめなどでも学習リーダーの活用があるとよい。 ●教師が意図しない課題が出たときや課題が思いつかないときの対応が大事である。

(5・6年)

視点1	<ul style="list-style-type: none"><li>● 相手を納得させられるような説明をするという意識付けが必要である。</li><li>● ペアの発表のみで、一人一人の学びにつながっていたようには思えなかった。</li><li>● 順序よく説明する力をもっと身に付けさせる必要がある。</li><li>● ペア学習の流れはできているが、より活発に端的に話すスキルと自信をもたせるための取組が必要である。</li></ul>
視点2	<ul style="list-style-type: none"><li>● 「思考・判断・表現」の資質を向上させるなら、「～を考えよう」ではなく、「～を説明できるようにしよう」とすると、振り返りにもつなげることができる。</li><li>● 話したり聞いたりしているときに、「〇〇さんと同じ言葉を使っている」とか「図の〇〇の部分が違う」という見方ができていただろうか。</li><li>● 考えをつなげる言葉があまり聞かれなかった。</li><li>● 教師が「図の式で」と強調していたが、図の式と求めた答えも一緒に書くことで、共通した考えなのかどうかも確認できたのではないか。</li><li>● 児童がよい考えを出していたのに、教科書の考えにもっていってしまっていたので、交流を深めることができなかった。</li><li>● 聞く側の動きや態度（うなずき・返事・つぶやき・目線）をより発表側にわかりやすくするとよい。「聞き方名人」のあり方を理解して共有化・可視化できるとよい。</li><li>● ホワイトボードから共通点を見つけていけたのではないか。小数の考えから整数に広げて児童に話し合わせても良かった。</li></ul>
リーダー学習 ・その他	<ul style="list-style-type: none"><li>● 「つかむ・みとおす」の場面で、子どもに学ばせたいことを先生が言ってしまっていた。</li><li>● 教師が主体になって話を進めてしまっていた。もっとリーダーに委ねる姿勢があってもよかったのではないか。</li><li>● 学習用語への意識付けをもっとさせるとよい。</li><li>● ホワイトボードを使っていたが、ノートやICTを使って記録を残しておくと思う。</li></ul>

### (3) 参観者の声

#### 1 公開授業について

- ・とても少ない教職員で、また市内に小規模校がなく、他市町村の学校と連携を図りながら授業づくりを進められたこととても大変だったと思います。  
緊張した中でも、児童も一生懸命に思考し活動している様子が見られました。ICTの活用が声高に言われますが、デジタルコンテンツを活用したり、少人数だからこそ見えやすいホワイトボードを使ったりと、目の前の児童によりよい方法で授業づくりされていたのがとても参考になりました。
- ・教師側があまりにも手立てを教え過ぎていたようにも思います。児童の実態を踏まえ、どこまで伝えると児童は個人思考しやすいのかを考えると、もっとよかったかなと感じました。丁寧な手立てや説明は、大変よかったです。
- ・オンライン参加でしたが、カメラアングルが固定でなかったのがよかったです。可能であれば、子どもの手元も見てみたかったです。

#### 2 研究内容について

- ・課題やまとめを児童に考えさせるために、全校でペア学習を取り入れていること、とても勉強になりました。短時間でできること、自信がない子でも安心して発言できることといった良さと、ともすれば発表し合って終わってしまうことといった短所をふまえながら、授業づくりをするうえで参考にさせていただきたいと思いました。
- ・へき地複式には欠かせないリーダー学習。本日の授業に取り組むために、様々な段階を乗り越えて行われてきたと思います。本校もそうですが、今後は研究したことが長く続けられるよう、学校の土台にしていけると素敵だなと思いました。
- ・ペア交流が課題まとめの時に必要なのか?校内研究としてのペア交流のおさえとして、どの場面で活用したいのか、十分に考えていくといいかなと思いました。学習リーダーも、ただ見て進めるのではなく、なぜリーダーが必要なのか、何のための学習リーダーなのかを考えて取り組んでいくとさらによくなると感じました。
- ・学習リーダーの育成が必ずしも「主体的な学び」にはつながっていないように感じました。「なぜだろう?」と疑問がもてる課題づくり、「できそうだ!」という見通しや、「わかった!」と納得させる工夫など、学ぶ喜びが感じられる授業づくりや教材研究が大切だと思いました。

### (4) 助言者より

【北海道教育庁日高教育局 義務教育指導班主任指導主事 高嶋 優美 様】

素直でいい子達だと思った。4年生では、ホワイトボードに一旦書いた内容を消してやり直すなど粘り強い姿があった。5年生では、練習問題が終わった後に自分達でプリントの丸付けも始めていてやる気が感じられた。6年生では、今日の学んだ図形がどんな形に見えるかの問いかけに「花びら」と答えていて素敵だと感じた。授業が終わった後に、授業の内容について先生と話している様子があり、日常の授業の中で児童の主体性が育っていると感じた。

子どもたちを育てる教師の手立てとして、児童がパソコンか実物かを選択できるように

準備していたり、子どもと同じノートでノート計画を考えたりしていた。

明日の授業から意識して欲しいことの1つめが、資質・能力や目標や評価規準がぶれない授業をすることである。そのための1つの手段が、目標の三観点と評価規準の三観点を正対させることである。資質・能力の明確化、つまり何を教えるのかは、学習指導要領に指導事項が書かれてある。

4年生は、わる数を20とみるか30とみるか自分で考えるというのがテーマだった。教科書ではそれが子どもの発言として書かれている。つまりそれは子どもたちに言わせたいことなので、教科書の活用の仕方を見直してもらいたい。

5年生は、本時の評価が「思考・判断・表現」だったが、学習指導要領では「知識・技能」で書かれている内容である。目標に「～を説明することができる」とあると「思考・判断・表現」となりがちだが、学習指導要領を確認して欲しい。

6年生は、今までに勉強してきている図形の円の面積と数と計算の公式を作る、この2つの領域を一緒に勉強しようという内容だった。子どもたちは図形のことを考えていたが、式を考えることも指導事項として重要だった。教科書では子どもが話しているところも、今日は先生が説明していた。

今日の授業では定着の時間もあって、先生方が普段からタイムマネジメントをできているからだと感じた。

授業では全ての子どもたちに指導事項を身に付けさせたい。

4年生は、25を20とみるか30とみるかという考え方であって、計算のやりやすさや仕方ではなかった。子どもたちは前時を引きずって、「筆算の仕方を考えよう」と言っていて、そこが修正しきれずに筆算の練習の方に寄ってしまっていた。指導事項を子どもたちと共有するにはどうしたらいいか考えていければいいと思う。

5年生は、「知識・技能」の内容なので、子どもたちの説明が同じになってしまう。何を考えさせたいのか明確にする必要がある。子どもたちは今日やることをはっきりとわかっていたし、先生もゴールを具体的に示していた。

6年生は、公式の使い方や式の作り方という視点も今後重要になる。子どもたちは、三角形や四角形や円も使えると見通しをもっていた。先生も図形の使い方を説明していたので、ゴールがわかりやすかった。

次にどのように教えるかについてだが、1つ提案したいのが同時間接指導である。高知県の事例だが、学習進行カードを使って子どもたちに学習の見通しをもたせている。

ペア学習は発表会になりがちである。「なぜこの式になるのか」「なぜこの答えになるのか」というのを数人が説明していく中で自分の力にしていくというのをペア学習の中で意識して欲しい。

リーダー学習については、子どもたちに応じてリーダーの役割についても検討する必要がある。

I C Tの活用については、算数の図形の学習では、パソコンを使えば何回でもできるので効果的である。子ども達がパソコンでやったことをモニターに映してみんなに説明できるようにするのも方法の1つとしてある。ノートに書いたことをホワイトボードに書かないで、写真に撮って大きく映してもいい。

先生が既習の内容について話していたが、本当は子どもに話して欲しい内容である。先生

が代わりに話しても子どもがわかるわけではない。何を子どもたちに言わせるか、教師が何を発言するかを子どもたちに応じて考えていかなければならない。

今、教師が求められる姿は伴奏者である。これは複式の原点である。今までやってきたことがスタンダードになってきている。先生がどう教えるかから、子どもを主語にして、子どもたちがどう学ぶかを考えて欲しい。

この会の成果を子どもたちに還元してもらいたい。

【道へき研究推進委員副委員長 今金町立種川小学校 黒川 貴功 校長】

樽前小学校の研究主題が「主体的・対話的で深い学び」の実現につながっている。子どもたちが考える際に自分事としてとらえることが研究の中心になっている。

学びの主体が子どもであるにはどうしたらいいか。課題について、2人の授業者の先生が子どもたちに「今日は何の勉強をするのだろうか」と問いかけていた。そうすることで、子どもたちは自分事として捉えることができ、それらを上手に紡ぎ合わせることで課題ができていった。主体的な学びの大きな道筋になっていた。

研究発表にあった「習っていないまとめの問題を最初に解かしてみる」ということが成り立っているのは、日々の授業の中で子どもたちが自分事として学んでいる成果である。

対話的な学びについては、話し合いの中に結論があり、それが子どもたちの中に残っていることが大事である。また思考の根拠や理由をもちながら話をするのが大事である。4年生の授業の中でもホワイトボードに理由が書かれていた。それは先生が普段の授業で理由を求めている証拠である。さらに6年生では、友だちの考えが途中だったり間違えてそうだったりしても認め合える雰囲気があった。子どもたちの視線が印象的だった。常に相手の方を見て、うなずいたり質問したり笑顔でほほえんだりしていた。

4年生の授業では、ヒントカードがコンパクトにまとめられていた。学力差を埋める意味でもヒントカードは有効である。6年生の授業では、図形の学習でデジタルコンテンツが有効に活用されていた。

構造的な板書とそれに連動したノート指導、課題やまとめ・振り返りといった授業の流れができている。ただ、スタンダードも改訂していく必要がある。リーダー学習やペア学習の進め方が整理されていくことで、より主体的・対話的で深い学びの実現に向けてどんな授業作りをすればいいのか考える基礎となる。

リーダー学習がマニュアルを越えて子どもたちのものとなっていく、そんなふうに子どもたちが成長していくのが楽しみである。先生方の丁寧で継続的で組織的な教育実践のなせる成果であると考えている。



## 9 成果と課題

(成果について)

### ①学習リーダーが自分の言葉として進行できるようになった

リーダー学習に取り組み始めた頃は、学習リーダーはマニュアルを片手に進めていた。進行がたどたどしかったり、授業の流れに関わらずマニュアルに書いてあるとおりに進めたりしようとしていた。日直が学習リーダーとなり輪番で取り組んでいったことで、どの児童も進行に慣れてきて、だんだんとマニュアルがなくても進められるようになってきた。そのことは、学習リーダーが自分で考えて進行ができていくということであり、リーダー学習もようやく軌道に乗せることができた。

### ②ペア学習を通して自信をもって発表できる児童が増えてきた

今年は、3年次計画の2年目である。始まった当時は、全体発表に自信のない児童も多くいたが、その前にペア学習を入れることで、同じ考えの仲間がいることを確認できたり、教え合いをしたりすることを通して、どの児童も自分の考えを発表できるようになってきた。また課題やまとめを考える際に、以前は積極的な児童だけが発言することが多かったが、ペアを活用することで、どの児童も自分事として考えることができるようになった。

(課題について)

### ①個人の責任ではなく、ペア学習の結果として全体の場で発表する

現段階のペア学習は、自分の考えを相手に伝えることに終始してしまっている。それでは、児童同士で学習を深めているとは言えない。「考えを1つにまとめる」ことで、互いの考えを持ち寄り補完し合い、より良い内容を全体交流の場に出していくことが期待できる。もし別々の考えだった場合、お互いに納得できなければ無理に1つにまとめる必要はない。どちらの考えも全体交流に出して、みんなで検討していけば良い。

### ②発表するときには、「つなげる言葉」を使う

まだ「つなげる言葉」が定着してないのが現状である。「つなげる言葉」は言い換えると、「自分の立場を明確にする」ということである。賛成なのか反対なのか付け足しなのか、自分の立場を明確にするには、相手の話を聞かなくてはならない。また聞いている方も、話す人が始めに立場を明確にしてくれることで、話を聞く構えを作りやすくなる。

「話す・聞く」力を伸ばしていくための1つの方策として、児童がつなげる言葉を使えるようにしていく。

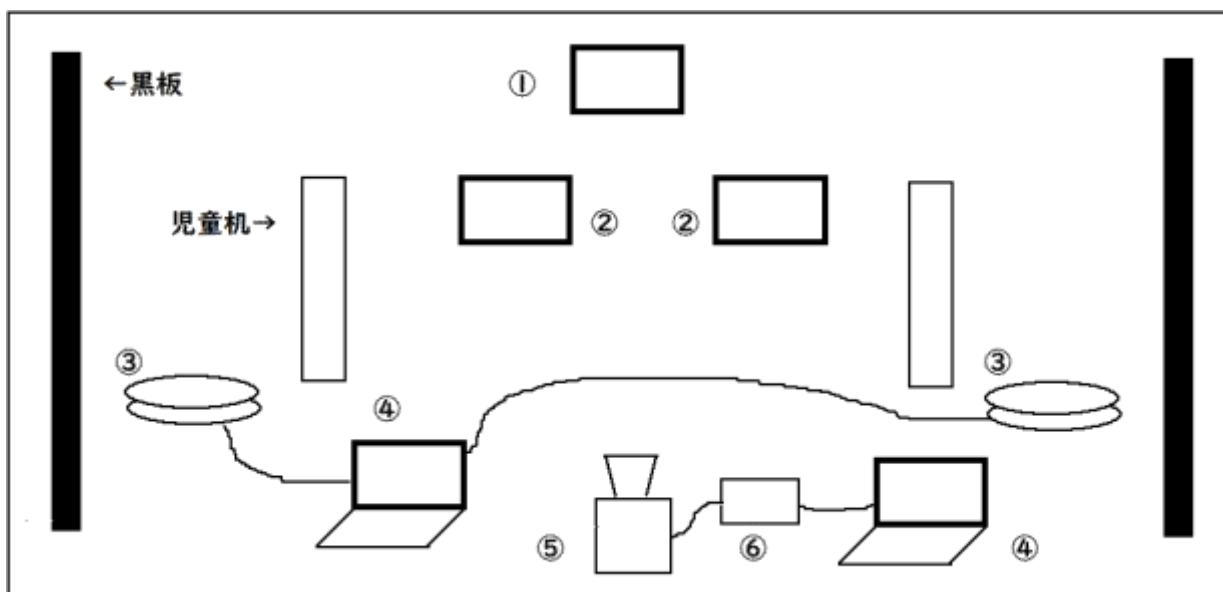
### ③児童が主体となる場面を増やしていく

指導主事から、「教科書内で子どものキャラクターが話している部分は、児童に言わせたい。」といった主旨の発言があった。丁寧に指導しようとするあまり教師が話しすぎてしまう場面もあり、まだまだ児童が活躍できる余地があるということである。教師が話したからと言って、児童が納得して学習理解が深まるというわけでもない。児童が主体となって学びに向き合えるように今後も研修を深めていきたい。

1 0 配信環境（配信状況の記録について）

1 教室

(1) 配信図



(2) 配信内容・機材

記号	撮影内容など	機材
①	教師の様子を映す	タブレット
②	児童の様子を映す	タブレット
③	音声を拾う	マイクスピーカー
④		ノートパソコン
⑤	黒板の文字を映す	ビデオカメラ
⑥		ビデオキャプチャーボード

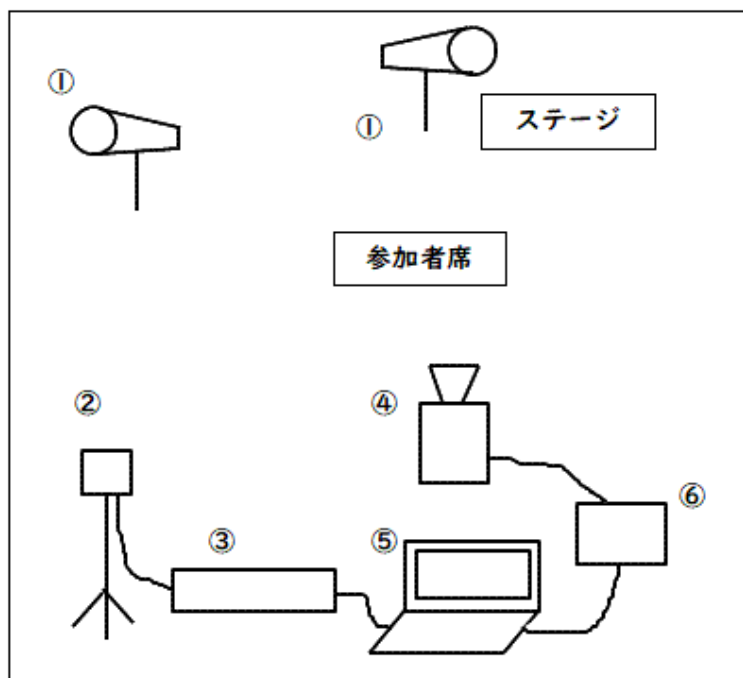
(3) 配信方法および状況

- ①音声は、ハウリングをおこすので教師がわたっているときだけスイッチをONにするようにした。
- ②黒板やホワイトボードの文字は、ビデオカメラのズームを使って、鮮明に映るようにした。パソコンに取り込めるように、ビデオキャプチャーボードをはさんだ。
- ③もっとクリアな音声で配信したかったが、現状の機材では難しかった。



## 2 体育館

### (1) 配信図



### (2) 配信内容・機材

記号	撮影内容など	機材
①	ステージ用と司会者用	ワイヤレスマイク
②		ワイヤレスアンテナ
③		ワイヤレスチューナー
④	ステージ全体を映す	ビデオカメラ
⑤		ノートパソコン
⑥		ビデオキャプチャーボード

### (3) 配信方法および状況

②・③マイクの音はチューナーを通すことにした。ビデオカメラから音声を拾うよりも明瞭になった。



## 第 72 回

全道へき地複式教育研究大会 胆振大会

### IV 胆振大会を終えて



第4分科会 苫小牧市立樽前小学校

## 第72回 全道へき地複式教育研究大会 胆振大会ファイナルステージを終えて 大会振り返り

### 1 参加者について

#### (1) 参加状況

今大会は新型コロナウイルス感染症5類への移行もあり、人数制限を設けず、リアル参集型とオンライン配信並行のハイブリッド型で実施した。分散会参加者は46名（オンライン26名）、分科会参加者は184名（オンライン35名）であった。ファーストステージと比べると、参加者が減少（分散会は約50%、分科会は約95%、オンライン参加約56%）した。また、道外からの参加についても、ファーストステージでは10名（オンライン5名）あったが、ファイナルステージではなかった。

#### (2) 参加集約

ファーストステージの反省を受け、道外、管外、管内の申込時期を分けることなく一括してフォームで受け付けた。しかしながら、確認に時間を要したことで案内発出がずれ込んだり、HPや各管内での周知が行き届かなかつたりしたことで、申込期限を延ばしたり、参加者数が少ないことから追加申込を受け付けたりして対応した。結果的に集約に時間を要し、参加人数の確定が大会1週間前となった。なお、当初の申込〆切は夏期休業期間中に設定していた。

#### (3) 振り返り

- ・参加者数の減少については、1つの要因として周知が行き渡らなかった可能性が考えられる。案内発出および申込〆切の時期や周知方法を工夫・改善していくことも必要かもしれない。
- ・2年連続開催であったが、ファーストステージとファイナルステージが繋がっていると捉えられた可能性がある。そのため、ファーストステージに参加されていない方は、なかなかファイナルステージのみの参加を考えづらかったのかもしれない。
- ・学校事情や勤務する管内にもよるが、へき地小規模校からの参加者にとって2年連続で遠方の同地区・同一大会に参加することは難しい場合が考えられる。
- ・水～木曜日の開催は、遠方からの参加者にとっては最大4日間（火～金曜日）、学校を離れることになるため、参加しづらかった可能性がある。
- ・参加費が研修旅費として認められていないことが、参加の迷いに影響していることも考えられる。
- ・オンライン参加者の減少は、リアル参集と比べて、配信によるわかりづらさや協議における充実感に対する懸念が要因として考えられる。

### 2 大会運営

#### 【1日目 全体会】

##### (1) 開会式・基調報告

- ・事情により、直前で会場を変更することとなった。洞爺総合センターを会場に、開会式、基調報告、分散会を実施した。洞爺湖温泉にて交流会も実施できた。
- ・全へき連の協力で、開会式と基調報告をオンラインで配信した。
- ・大会における配信は、全へきから借用したzoom、機器はiPadを用いた。
- ・リアル参加者には、大会研究紀要、開催要項、基調報告資料、弘済会からの物品を配付した。オン

- ライン参加者への配布物はなく、HP 掲載資料をダウンロードする形で参加してもらった。
- ・オンライン参加者には一斉メールで zoom のミーティング ID とパスコードを伝えた。
  - ・開会式でのアトラクションは、胆振管内加盟校による郷土芸能の取組を映像で紹介した。

## (2) 分散会

- ・分散会の運営は道へき研究推進委員学習指導部長が中心となり、事前のシナリオ提示や役割連絡、当日の運営など一切を行っていただき、スムーズに実施された。協議も熱心に行われた。
- ・オンライン配信もトラブルなく実施された。オンライン参加者への対応として、提言発表時の画面共有、協議の際には人数が多い会場はブレイクアウトルーム、人数が少ない会場はスクリーンに映し出す遠隔合同形式で実施した。なお、ブレイクアウトルームの設定が事前に行うことが難しく、その作業を提言発表時に行った。
- ・申込とは異なる会場に参加しているオンライン参加者が数名いた。
- ・協議時にオンライン参加者への連絡（チャット機能活用）の難しさ、ブレイクアウトルームの話し合いを確認するための機器準備など、想定していなかった面がいくつか見られた。
- ・会場変更に伴い部屋が不足し、個室で開催できない分散会があった。

## (3) 振り返り

- ・配信については大きなトラブルなく実施できた。機材や zoom 使用についても特に問題なかった。会場の配信環境（Wi-Fi 使用可否や強さ）が安定していたことも大きいと考える。
- ・ある程度のリアル参加者を見込んで複数の会議室等がある大きめの会場を準備する必要がある。
- ・分散会では配信や協議形態によって、マイクの本数やイヤホンの準備など、機器機材の確認が必要である。
- ・オンライン参加者の参加分散会の誤りを減らすため、メールによる連絡の他に、HP に開催要項掲載（今大会では未掲載）など、参加者本人が確認できると安心である。

## 【2日目 分科会】

### (1) 分科会運営

- ・アンケートをフォームで実施したことで、集約もスムーズに行えた。
- ・HP には研究紀要と指導案を掲載した。
- ・オンライン参加者向けの授業配信は、全へきから借用の zoom を使用し、洞爺湖温泉小学校を配信本部として実施し、大きなトラブルなく実施できた。
- ・授業のオンライン配信では、参加者それぞれの視点で参観できるように各会場2画面または4画面で配信した。表情の見えづらさや声等音声の聞こえづらさはあったものの、概ね学習の様子や児童の思考を伝えることができた。
- ・協議では、リアル参加者のみのグループ、オンライン参加者によるブレイクアウトルームでのグループ、リアル参加者の協議にオンライン参加者が遠隔合同型式で参加するグループなど、会場や参加人数によって工夫して実施した。
- ・分科会会場4校の配信については、全体で統一した配信方法ではなく、各校にある機器機材に応じた配信を行った。操作も各校職員が担当し、少ない人員でも配信可能な形で実施した。また、音声



面の課題が多く、繰り返し配信テストを実施したことで当日の配信に繋がった。

- ・急なトラブルに備え、事前に授業（公開授業と同学級、同教科、同指導者）を録画し、不測の事態に備えた。実際には、この事前録画を使用することはなかった。
- ・会場校と協力校が連携して業務分担など行ったことで、会場校の負担が軽減され、当日のスムーズな運営に繋がった。

## (2) 振り返り

- ・公開授業や各校研究の内容については、一定の評価とともに多くのご示唆を頂戴し、今後の各校および管内の研究の成果と課題の把握につなげていく。
- ・道へき HP に、開催要項も掲載できるとオンライン参加者自身が事前に確認できる。
- ・各校で工夫した配信を行った。機器機材の違いから配信方法を各校で考えた面では大きな負担に繋がったと考える。今後のハイブリッド研究大会では、この大会での配信方法などを活用してもらうことで負担を減らす一助になれば良いと考える。
- ・配信本部を設置し、分科会会場4校と繋いだ。音声等の配信状況や不具合（配信停止時の事前録画代替配信等）については、全て配信本部で対応した。これにより、各分科会会場校では授業公開に集中できた。
- ・オンライン参加者も含めた研究協議は、人数に応じた形態で実施（スクリーン等のモニターを使用した遠隔合同やブレイクアウトルーム活用）することで、オンライン参加者もリアル参加者と同様に協議に参加し、内容の充実を図ることができた。
- ・事前の配信テストや録画により、授業配信の精度を高めることができた。
- ・会場校と協力校が連携強化することで、研究面だけではなく、遠隔合同授業や配信技術に関する技能向上、スムーズな運営などに繋がった。今後の管内研究においても協力体制を維持して進めていく。

## 3 連絡手段

参加者への連絡は一斉メールで行った。参加者からの問合せ等にも素早く対応でき効果的であった。また、実行委員会内や配信本部と会場校との連絡は、全て LINEworks によって行うことで、遠隔地でもタイムラグ少なく連絡・情報交換を行えた。

## 4 運営費用

本大会の運営は、道へき複連からの助成金および胆振へき複連からの運営費を基本に行った。その他、加盟校のある各市町からの補助金を運営費に充てた。各市町補助金については、胆振へき複連からの要請や管内教育長協議会への働きかけによるもので、今後も関係機関との連携の必要性を感じた。

## 5 その他

- ・道へき複連や関係機関の支援協力のお陰もあり、胆振管内加盟校10校でも大会を推進することができた。各校への負担はあったが、見通しをもち共通理解を図り進めたことで、無事に大会を実施することができた。
- ・これまで積み重ねてきた研究成果と ICT 時代に対応した授業や新たな情報発信の在り方を示すことを

掲げた本大会を開催できたことは大きな意味があったと感じている。本大会の成果や課題を各校の研究や管内の研究大会運営等に反映させ、更なるへき地・複式教育の充実発展を目指し、今後に向けた取組を進めていきたい。

- ・配信技術や機材選定、映像の画面構成等の工夫などは大いに学びとなり、児童生徒にも還元できる部分が多いと考える。取組の広がりが期待される遠隔合同学習などにもこの成果を生かし、ICT時代に対応する新たな教育活動の展開に向けて益々活用を図っていく。

## 6 各分科会の成果と課題

※各会場校の成果と課題の抜粋

第1分科会	成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ICT をうまく活用することで、タイムマネジメントができる。</li> <li>・ jamboard は、図やグラフなど思考ツールとして有効であり、解決時には同じ画面を見て交流したり、友達の考えを共有できたりしやすい。</li> <li>・ jamboard 活用により、指導者が全員の思考を確認でき、全体場で取り上げやすい。</li> <li>・ リーダーを中心に自分たちで学習を進めていけるという意欲と自信が湧くと共に、主体的に学習が進んでいく。</li> </ul>
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ICT をどのタイミングで、どのように使用すれば良いか、活用場面の選別について恒に検証していく必要がある。</li> <li>・ jamboard を考え交流時を中心に使用しているが、本時のまとめやノートの代わりとして使う可能性もある。ノートとの併用も含め、考えていく必要がある。また、児童自身が jamboard かノートかを選択していける授業作りが大切である。</li> <li>・ リーダー学習により児童が主体的に進められる分、教師がどの場面で介入して思考を促していくのか検討することで、よりリーダー学習の活用につながる。</li> </ul>
第2分科会	成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「めあて」「課題」の提示により、児童生徒が身に付けるべき学習内容を明確化させることができ、主体的な学びにつながっていた。「ふりかえり」の時間により、学習内容の定着や今後の活用の見通しを持たせることができた。</li> <li>・ 他校との遠隔授業は、児童が多様な考えに触れることができる一つの方法として有効であり、自分の考えを形成し表現することもできていた。</li> <li>・ ICT 活用による考え比較や意見交流などでコミュニケーション活動の充実が見られた。また、過去の発表動画や作品鑑賞等の蓄積データの活用により、少人数学年での学習の広がりが感じられた。</li> </ul>
大滝徳舜督	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「課題」と「まとめ」との整合性を恒に意識した授業改善を進める必要がある。「ふりかえり」の時間の確保や観点を「めあて・課題」に照らし合わせて整理・検討する必要があるとともに、次時につながる「ふりかえり」の観点や書き方・記録の仕方を考えていく必要がある。</li> <li>・ 遠隔授業では、連携に向けた事前打合せ等のスリム化や接続トラブル等に対応できる体制や教師側のスキルを高める必要がある。</li> <li>・ 今後も、より効果的に活用できる場面を考えた ICT 使用やデータの活用の仕方を意識した蓄積が必要である。</li> </ul>

第3分科会 虎杖小	成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童がガイドを用いたリーダー学習をある程度できるようになった。</li> <li>・個に応じた課題の提示やこまめな机間巡視など、一人一人に合った指導が少しずつできるようになってきている。</li> <li>・遠隔合同学習で隣接校と協働的な学びをする機会を経て、隣接校との協働的な学びを効果的にできるようになってきた。</li> <li>・ICTを効果的に活用できるようになった。</li> </ul>
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リーダー学習の在り方に関して、検証・改善していくことが必要であり、児童や学級の実態に合わせた柔軟な指導体制を整えていくことが必要である。そのためにガイドにとらわれない新たなリーダー学習の研究を進めていく必要がある。</li> <li>・児童が自ら個別最適な学びをしていけるように、教員との関わりを通して学習ツールや学習の仕方をいかに実現していくのか研究していく。</li> <li>・「ゴール」と「課題」が似たものになってしまっている。授業の導入を研究して「ゴール」に関する扱い方を再考していく必要がある。</li> </ul>
第4分科会 樽前小	成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習リーダーとして、どの児童も進行に慣れて、マニュアルがなくても自分の言葉として進められるようになった。</li> <li>・ペア学習では、同じ考えの仲間がいることを確認できたり、教え合いをしたりすることを通して、どの児童も自分の考えを発表できるようになってきた。また課題やまとめを考える際に、以前は積極的な児童だけが発言することが多かったが、ペアを活用することで、どの児童も自分事として考えることができるようになった。</li> </ul>
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペア学習は現段階では自分の考えを相手に伝えることに終始してしまっている。児童同士で学習を深めるため、全体で発表する場の設定も必要である。</li> <li>・自分の立場を明確にするため、「つなげる言葉」の定着を図っていく。立場を明確にして話すことは、聞く方にとっても聞く構えを作りやすくなる。「話す・聞く」力を伸ばすための方策の1つとして、児童の「つなげる言葉」を使う力を伸ばしていきたい。</li> <li>・丁寧に指導しようとすることで教師が話しすぎてしまう傾向がある。児童が納得して学習理解を深めていけるよう、児童が主体となって学びに向き合えるよう授業改善を進めていく。</li> </ul>

## 第72回全道へき地複式教育研究大会に係る業務報告

〈令和2年〉

8月20日	大会準備検討会議
-------	----------

〈令和3年〉

1月20日	大会第1回準備委員会
4月26日	大会第2回準備委員会
7月8日	事前打ち合わせ
7月12日～	実行委員会・研修会書面会議
7月30日	大会第1回実行委員会・研修会
10月27～29日	全国へき地複式教育研究大会宮崎大会 4名参加
12月7日	大会第2回実行委員会・研修会

〈令和4年〉

1月24日	オホーツク大会事務局と引継
2月24日	大会第3回実行委員会・研修会
4月26日	胆へき総会 大会第4回実行委員会・研修会 洞爺湖
5月13日	道へき定期総会、第1回常任委員会 札幌
5月16日	道へき第1回研究推進委員会 札幌
6月3日	実行委員会4者協議 竹浦
6月21日	道へき第2回常任委員会 札幌 前田委員長
6月23日	大会第5回実行委員会・研修会 洞爺湖
7月4日	道へき第2回研究推進委員会 札幌
7月6日	実行委員会4者協議 虎杖
8月1日	道へき第3回常任委員会 札幌
8月4日	大会第6回実行委員会・研修会 洞爺湖
8月9日	実行委員会4者協議 礼文華
9月13日	道へき第4回常任委員会 洞爺湖 道へき第3回研究推進委員会 洞爺湖 大会実行委員会前日準備 顔合わせ会
9月14日	胆振大会1日目 講演会 分散会 歓迎交流会中止 道へき第1回評議員会
9月15日	胆振大会2日目 分科会
9月29・30日	全国へき地複式教育研究大会山形大会 2名参加
12月13日	実行委員会4者協議 虎杖

〈令和5年〉

1月19日	大会第7回実行委員会・研修会 洞爺湖
2月13日	道へき第4回研究推進委員会 札幌

4月25日	大会第8回実行委員会・研修会 洞爺湖
5月12日	道へき定期総会、第1回常任委員会 札幌
5月15日	道へき第1回研究推進委員会 札幌
6月20日	道へき第2回常任委員会 札幌
6月28日	大会第9回実行委員会・研修会 洞爺湖
7月3日	道へき第2回研究推進委員会 札幌
7月31日	道へき第3回常任委員会 札幌
8月25日	大会第10回実行委員会・研修会 洞爺湖
9月12日	道へき第4回常任委員会 洞爺湖 道へき第3回研究推進委員会 洞爺湖 大会実行委員会前日準備
9月13日	大会1日目 洞爺湖 道へき第1回評議員会 歓迎交流会 洞爺湖
9月14日	大会2日目 洞爺湖町・伊達市・白老町・苫小牧市
10月12・13日	全国へき地複式教育研究大会兵庫大会 2名参加
令和6年1月予定	大会第11回実行委員会・研修会 洞爺湖

## 各部活動報告

### 【総務部】

4月26日	【第4回実委】 提案:①総務計画、②一次案内案
6月9日	大会1次案内決定稿 事務局送信
6月15日	洞爺湖文化センターへ借用物問い合わせ
6月23日	【第5回実委】 提案:①会場図、②二次案内案、③各管内取りまとめ用紙、④表示物計画、 ⑤各分科会場準備案
7月7日	Googleformによる申込フォーム作成(道外参加者、一般大学参加者、管内参加者用)
7月12日	大会2次案内最終稿決定
7月22日	温泉委員長に申し込みフォーム訂正のお願い
8月1日	道外申し込み締め切り *申し込みフォームによる申し込み 道外11名、一般大学4名、管内6名 1日目弁当をキッチンひらおか(伊達市)に概数で発注
8月2日	実行委員会総務提案を四役に事前送付
8月4日	【第6回実委】 提案:①当日役割、②会場図、③表示計画、④機材配置計画 各会場校に配付:①道へき旗、②横幕・縦幕等、③グループ表示
8月18日	道外申し込み者へ受付確認メール送信
8月26日	分科会会場校へ「名札名簿・前垂れデータ」送信
8月24日	全体会前垂れ内容を道へき役員に確認のため送付

9月 5日	歓迎交流会中止と懇親会の案内を道外参加者に送信 洞爺湖文化センターで会場打合せ(千葉・関東)
9月 6日	1日目弁当名簿送付
9月 7日	分科会会場校に受付名簿、名札、弁当領収書データを送信
9月 9日	実行委員に1日目会場準備に関わる要領を送信
9月14日	大会1日目
9月15日	大会2日目
9月17日	1日目弁当代を業者(キッチンひらおか)に支払い
9月20日	1日目アンケート集計を事務局に送信

【研究部】

4月11日	分科会一覧作成を会場校に依頼
4月28日	第1回研究推進委員会
5月8日	研究主題・授業者確認
5月30日	2次案内作成依頼
6月9日	印刷業者に見積もり依頼
6月16日	配信テスト&事前録画(大滝徳舜警)
6月20日	道へき研推学習指導部長より分散会一覧受取
6月21日	二次案内添付用会場校案内完成、総務へデータ送付
6月22日	基調報告(安)作成、実行委員に送付
6月27日	配信テスト&事前録画(樽前小)
6月28日	大会研究紀要巻頭言等の依頼発出
6月29日	道へき事務局より分散会助言者確定の連絡、各校へ報告
6月30日	道へき研推学習指導部長と提言者対応に関わる打合せ 配信テスト&事前録画(樽前小)
7月5日	配信テスト&事前録画(樽前小)
7月7日	大会研究紀要用会場校の研究概要提出〆切
7月13日	配信テスト&事前録画(虎杖小)
7月14日	配信テスト&事前録画(とうや小)
7月15日	大会紀要用会場校の研究概要校正終了
7月21日	第2回研究推進委員会
7月26日	局各助言者に指導案事前指導について連絡、各会場校長には直接連絡を取り合う旨を 伝達、各校に助言者連絡先一覧を送付、分科会会場校の研究概要提出〆切
7月27日	アンケート原案提示
7月31日	各校封筒原版作成提出〆切
8月2日	道へき事務局へ借用 iPad 台数報告
8月3日	大会研究紀要印刷を業者に依頼(データと1部印刷物を持込)
8月7日	開催要項原案提示
8月8日	会場会の研究紀要校正終了し修正依頼



8月11日	参加者数と会場定数を考慮し分散会場決定 分科会各校に研究紀要印刷指示(ルールファイル式 部数は参加者+10部) 助言者2名に研究紀要と指導案送付指示
8月16日	道へき研究部長に現段階の参加者名簿を送付
8月17日	大会研究紀要第1稿受取
8月18日	オンライン配信用画面表記等一覧提出〆切、配信本部へ送付
8月22日	大会研究紀要第2稿受取、確認、確定へ
8月23日	封筒完成
8月25日	会場校の封筒配付、研究紀要&指導案完成後に各校から助言者に送付 大会研究紀要送付先確認
8月28日	事前録画(樽前小)
8月29日	大会研究紀要完成300部、事前録画(大滝徳舜警)
8月30日	関係機関へ大会研究紀要送付
9月5日	事前録画(虎杖小)、実行委員会分散会担当者を道へき研推学習指導部長に報告 分科会各校の研究紀要と指導案提出完了
9月6日	道へき研推学習指導部長と分散会会場について打合せ
9月7日	事前録画(とうや小)、参加者確定により分科会開催要項作成を指示 道へき事務局に大会研究紀要&会場校研究紀要 HP 掲載依頼
9月8日	基調報告資料印刷
9月11日	道へき事務局に指導案 HP 掲載依頼、会場校に確認・変更事項など連絡 1日目開催要項修正し印刷
9月12日	前日準備、袋詰め作業
9月13日	大会1日目
9月14日	大会2日目
9月16日	道へき研究推進委員へ大会アンケート送付、各校に研究集録作成スケジュール提示
9月21日	道へき情報誌の分散会原稿に係わり、分散会記録者に依頼
9月26日	研究集録巻頭言・あとがき依頼送付(大会長、実行委員長、副実行委員長)
9月29日	大会アンケートフォーム集約完了し関係者に送付
10月3日	道へき情報誌基調報告作成
10月5日	道へき研究推進委員会大会アンケート集約完了し関係者に送付
10月17日	道へき情報誌の分散会原稿まとめ、道へき研究部長、研究推進委員会委員長、同学習指導部長に送付
10月20日	道へき情報誌の分散会および基調報告の原稿を提出 各校研究のまとめ提出〆切
11月8日	分科会会場校研究記録校正完了
11月10日	大会集録校正完了 業者に印刷を依頼(データと1部印刷物を持込)
11月16日	大会研究集録第1稿受取
11月22日	第3回研究推進委員会
11月27日	大会研究集録第2稿受取、確認、確定へ
12月15日	大会研究集録完成、関係機関に送付および道へき HP 掲載

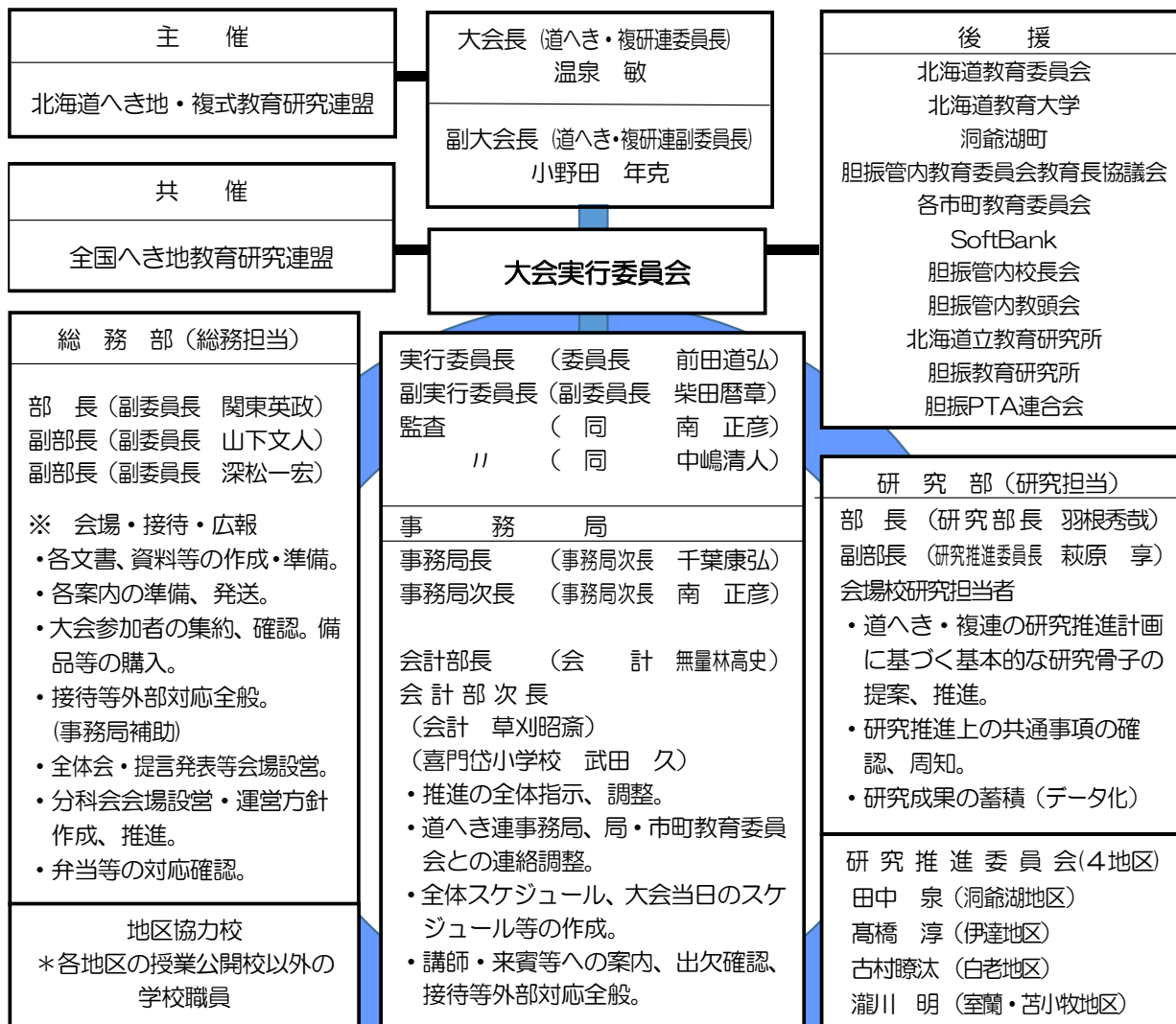
# 令和5年度 胆振八き地・複式教育連盟 加盟校一覧

令和5年5月1日現在

市町名	学校名	学級数	児童 生徒数	八き地 級	校長名	教頭名	1分野	2分野
豊浦町	大岸小学校	3(1)	12	1	南 正彦	森島 新	3	6
	礼文華小学校	5(2)	10	2	深松 一宏	山岡 武志	1	4
洞爺湖町	とうや小学校	8(2)	64	2	山下 文人	田中 研吾	1	6
	洞爺湖温泉小学校	7(3)	37	2	柴田 曆章	市嶋 信一	2	5・6
白老町	虎杖小学校	6(2)	35	無	関東 英政	寺沢 圭司	1	5・6
	竹浦小学校	4(1)	26	無	千葉 康弘	前田 朋寛	2	5・6
苫小牧市	樽前小学校	3	16	無	中嶋 清人	渡辺 奈美	1	6
室蘭市	喜門岱小学校	3	22	1	無量林高史	草刈 昭斎	1	6
伊達市	関内小学校	4(1)	16	無	萩原 享	片野 千恵	3	4・5・6
	大滝徳舜警学校	前期3 後期2	19	3	羽根 秀哉	山崎 泰博 竹迫 慎司	1	5

令和5年度第72回全道へき地複式教育研究大会胆振大会ファイナルステージ  
 <全国へき地教育研究大会北海道ブロック大会>

実行委員会 組織図



地区ブロック実行委員会 <委員長・事務局長会議>

地区ブロック実行委員による、分科会推進の取組

○地区ブロック実行委員会は、役員と各地区ブロックの委員長・事務局長で組織し、全体運営・連絡調整にあたる。(管理職のみの構成)

○胆振管内を4ブロックに分け、4か所にて公開授業・研究協議を実施する。  
 <洞爺湖地区、伊達地区、白老地区、室蘭・苫小牧地区>

○各地区ブロックにて大会実行委員会・研究部との連携の下、研究公開校(会場校)を中心に、分科会運営に向けた取組を推進する。(4ブロックでの共通理解)

- ・分科会に向けての準備計画、役割分担、会場設定、研究内容(提言・授業内容)等の確認
- \*研究公開校は研究内容の提言、授業公開に専念し、公開校以外の学校が事務的な準備作業や当日の運営を行う。

※ 基本的には総務・研究の2部制とする。(会計は事務局の中を含める)  
 ※ 研究部は従来の研究推進委員会をベースとし、各市町の会場校の研究担当で組織する。

令和5年度 北海道へき地・複式教育研究連盟 役員名簿

役職名	氏名	地区	学校名	電話番号
顧問	柿崎 秀顕 (全国へき地教育研究連盟会長)		北海道教育大学札幌校	011-778-0684
委員長	温泉 敏	上川	美瑛町立美沢小学校	0166-92-4960
副委員長	総務部長 小野田 年克	十勝	幕別町立明倫小学校	0156-67-2306
	研究部長 前田 道弘	胆振	白老町立白老中学校	0144-82-2026
監査	小島 康秀	宗谷	稚内市立大岬小学校	0162-76-2010
監査	國行 宏昭	空知	岩見沢市立メープル小学校	0126-44-2205
財政部長	北村 剛	石狩	千歳市立駒里小中学校	0123-23-3237
事務局長	井上 隆一	上川	占冠村立占冠中央小学校	0167-56-2824
事務局次長	道下 誠	後志	積丹町立美国小学校	0135-44-2044

令和5年度 北海道へき地・複式教育研究連盟 研究推進委員

地区	役・担当	氏名	学校名	電話番号
留萌	研究推進委員長	村元 隆一	留萌市立港北小学校	0164-42-0335
檜山	研究推進副委員長	黒川 貴功	今金町立種川小学校	0137-82-0506
日高	研究推進副委員長	高橋 郁子	えりも町立えりも岬小学校	01466-3-1114
十勝	学校・学級経営部長	増田 覚	音更町立東士幌小学校	0155-43-2311
後志	学校・学級経営部	葛西 統実	黒松内町立白井川小学校	0136-73-2012
渡島	学校・学級経営部	中田 和久	八雲町立浜松小学校	0137-62-2462
オホーツク	学校・学級経営部	木下 めぐみ	北見市立相内小学校	0157-37-2824
上川	学習指導部長	池田 幸則	中富良野町立西中小学校	0167-44-2062
石狩	学習指導部	岡山 拓	石狩市立厚田学園	0133-77-5356
空知	学習指導部	土谷 直樹	栗山町立継立小学校	0123-76-3151
宗谷	学習指導部	菊地 俊雄	枝幸町立音標小学校	0163-66-1073
釧路	学習指導部	西村 浩一	標茶町立中茶安別小中学校	015-488-6133
根室	学習指導部	原 健一	根室市立海星学校	0153-25-3725
胆振	学校・学級経営部	羽根 秀哉	伊達市立大滝徳舜警学校	0142-82-7020

令和5年度 北海道へき地・複式教育研究連盟 委員長(会長)・事務局

地区	委員長		事務局長		
	氏名	学校	氏名	学校	電話番号
石狩	徳田 和之	石狩市立浜益小学校	高橋 基	千歳市立東小学校	0123-21-3200
空知	古畑 聡子	深川市立北新小学校	橋本 卓也	深川市立多度志小学校	0164-27-2005
後志	道場 伸哉	仁木町立銀山小学校	姉帯 隆文	赤井川村立赤井川小学校	0135-34-6860
渡島	大山 真由美	北斗市立島川小学校	小野 元嗣	七飯町立峠下小学校	0138-65-2415
檜山	安田 善紀	厚沢部町立鶉小学校	中川 真一	上ノ国町立河北小学校	0139-55-2151
日高	佐藤 正寿	新ひだか町立桜丘小学校	熊谷 真	えりも町立えりも岬小学校	01466-3-1114
上川	温泉 敏	美瑛町立美沢小学校	早坂 昌俊	富良野町立鳥沼小学校	0167-22-2903
留萌	佐藤 美智子	天塩町立啓徳小学校	建山 和則	小平町立鬼鹿小学校	0164-57-1160
宗谷	小島 康秀	稚内市立大岬小学校	中村 繁仁	稚内市立天北小中学校	0162-74-2414
オホーツク	落合 利広	湧別町立開盛小学校	宮崎 浩	北見市立おんねゆ学園	0157-45-2126
十勝	小野田 年克	幕別町立明倫小学校	岸 研吾	芽室町立上美生小学校	0155-66-2009
釧路	佐藤 義行	弟子屈町立美留和小学校	太田 諭	釧路町立昆布森小学校	0154-63-2013
根室	加藤 和広	根室市立落石小学校	角田 俊幸	別海町立中西別小学校	0153-75-6628
胆振	前田 道弘	白老町立白老中学校	関東 英政	白老町立虎杖小学校	0144-87-2009

## あとがき

海の幸、山の幸、そしてたくさんの観光地を誇る胆振の地に、道内各地からたくさんの方の参加を得て、第72回全道へき地複式教育研究大会胆振大会ファイナルステージを無事に開催し、そして、その成果をまとめた研究集録を発行できますことに、関係機関の皆様にご心から感謝申し上げます。

「産業豊かな多様性に満ちた胆振の地から 子どもたちに未来へ飛躍する力を」の大会スローガンのもと、大会運営は、参集とオンラインのハイブリット型開催とし、ライブ配信はもちろんのこと、ワンモア配信、オンデマンド配信で実施いたしました。

1日目には、基調報告として、これまで胆振へき地複式教育連盟が取り組んできた研究の成果や全道へき地複式教育研究大会胆振大会に向けた研究推進内容及びファーストステージ大会の成果と課題などについて報告させていただきました。

引き続き行われた分散会では、3名の提言者の発表に基づき、討議の柱を深めることができました。提言者の皆様にはあらためて感謝申し上げます。

2日目は、管内4会場で実施した分科会において、少人数や複式の授業を通して子どもたちの生き生きとした姿を見ていただきました。その後の研究協議も、ブレイクアウトルームの活用やオンライン参加者と会場の参加者との意見交流などが行える形での実施など、各分科会会場校において工夫を凝らして協議を深めることができました。

本大会の成果と課題をまとめたこの研究集録が、次年度開催の上川大会、そして、道内外の小規模・へき地複式校の充実・発展のためにお役に立てればと願っております。

結びになりますが、本研究集録の編集にあたり多大なる御支援・御助言を賜りました北海道教育庁胆振教育局、胆振管内教育委員会教育長協議会、胆振管内各市町教育委員会の皆様、そして北海道へき地・複式教育研究連盟の皆様、道内の加盟校、参加者の皆様にご心より感謝を申し上げます、あとがきの言葉とさせていただきます。

令和5年12月

第72回全道へき地複式教育研究大会胆振大会

副実行委員長 柴田 暦章

(洞爺湖町立洞爺湖温泉小学校長)